

日野市の保育がまるわかり



日野市保育手帖

— 日野市保育の質ガイドライン(第1版) —



日野市保育の質ガイドライン策定委員会
科研費助成事業 報告書
令和7年(2025年)3月発行

目 次

第1章	ガイドライン策定の趣旨・経緯	1
-----	----------------	---

第2章	日野市保育手帖(保育の質ガイドライン)の位置づけ	3
-----	--------------------------	---

第3章	日野市の保育に関わる法令・条例・計画等	4
-----	---------------------	---

1	こども基本法	4
---	--------	---

2	日野市子ども条例	5
---	----------	---

3	ひのっ子若者みらいプラン(第1期日野市こども計画)	6
---	---------------------------	---

第4章	日野市が目指す保育	7
-----	-----------	---

第5章	日野市保育手帖(保育の質ガイドライン)の使い方	9
-----	-------------------------	---

1	事例集の使い方	9
---	---------	---

2	ふりかえりシートの使い方	9
---	--------------	---

事例集	12
-----	----

ふりかえりシート	108
----------	-----

第6章	ガイドライン策定を終えて(保育の質の向上に向けて)	120
-----	---------------------------	-----

参考資料

検討経過	121
------	-----

事例寄稿施設一覧	124
----------	-----

関係機関連絡先	125
---------	-----

第1章 ガイドライン策定の趣旨・経緯

待機児童の解消に向けて、日野市では民間の保育施設を誘致し、施設整備については令和6年4月1日時点で44施設まで増えました。平成29年に252人だった待機児童数は、令和6年4月1日時点には26名まで減少し、対策は概ね順調に進んでいます。

保育の量的確保が進んだ現在、保育はこれまで以上に質的向上が求められています。今、改めて、我が国の保育の特色である「遊びの重視」「一人一人に応じた関わりや配慮」「子ども相互の育ち合い」が本当に保障されているか問われているのです。

保育現場に求められることとして、保育所保育指針の内容を理解し、保育所保育指針に則って実践をすること、そして、職員同士が連携を図り、協働的に保育を展開し、カリキュラムマネジメントを実施することが挙げられます。厚生労働省資料「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会 議論のとりまとめ」によれば、保育実践の質の確保・向上に向けた取組のあり方として、①保育所保育指針の理解を共通の基盤とした取組の推進（保育指針の共通理解）、②組織及び地域全体での取組の実施（各現場の職員が互いに学び合う場の保障）、③多様な視点を得るための「開かれた」取組の実施（互いの保育を検討し対話する場の確保）、④実践の質の向上を支える地域の人材の確保・育成（現場を支持的・協同的に支援し、地域的な取組の中核を担う人材の配置）、⑤地域の取組と全国的な取組の連動（保育者や学識経験者らが協働的に事例等を検討し合う仕組みの構築）が示されています。

こうした背景をふまえ、日野市の全教育・保育施設が、保育所保育指針に則り、同じ方向性をもって保育にあたれるよう、「日野市保育の質ガイドライン」を作成する運びとなりました。今回、ガイドライン策定にあたっては、日野市内の全認可保育施設から事例を収

集しました。更に、全認可保育施設の代表者からなるワーキンググループを構成し、7回にわたる事例検討会議を重ねました。その意味で、本ガイドラインは、まさに、先に示した①～⑤を実現した成果と言えるでしょう。

このガイドラインの活用により、日野市の保育全体の質向上が図られることを目指しています。その結果、未来ある子どもたちの最善の利益が保障され、職員が自信を持ち安心して働き続けられる環境が整い、保護者がなお一層安心して預けられる場となることを切に願います。

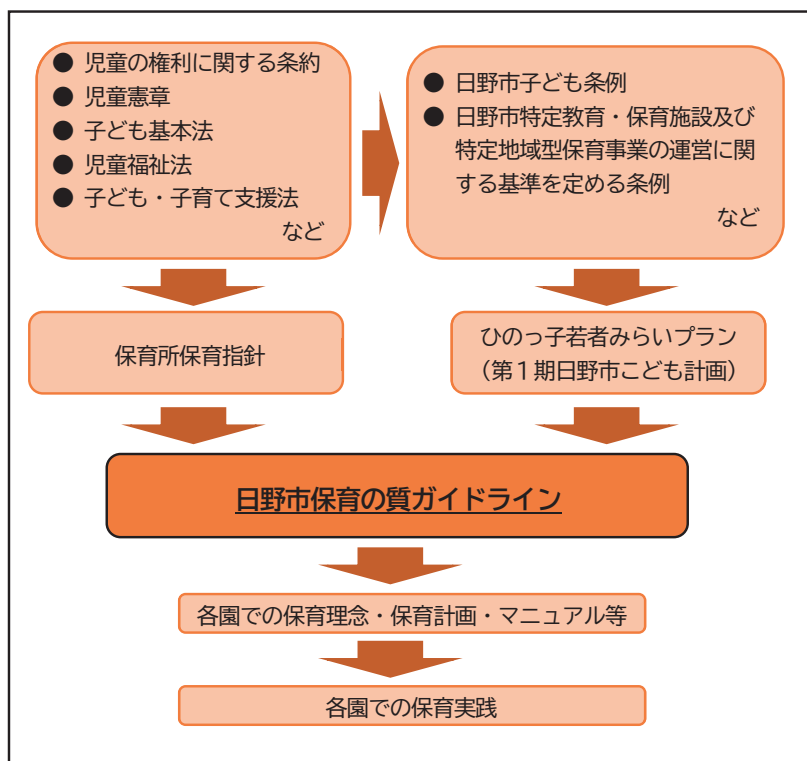
令和7年3月

日野市保育の質ガイドライン策定委員会
委員長 井口真美

第2章 日野市保育手帖(保育の質ガイドライン)の位置づけ

日野市保育手帖(保育の質ガイドライン)は、国が定める関係法令や自治体毎に定められている条例・計画等に基づき、市内全ての教育・保育施設の保育の質の向上に向け、策定したものです。

本ガイドラインの使い方については、「第5章 日野市保育手帖(保育の質ガイドライン)の使い方 (P.9～)」に掲載しておりますので、是非園内研修や自己研鑽等によりご活用ください。



第3章 日野市の保育に関わる法令・条例・計画等

1 こども基本法（令和4年6月27日法律第77号）

《基本理念（第3条）》

- (1) 全てのこどもについて、個人として尊重され、その基本的人権が保障されるとともに、差別的取扱いを受けることがないようにすること。
- (2) 全てのこどもについて、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され保護されること、その健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉に係る権利が等しく保障されるとともに、教育基本法（平成十八年法律第百二十号）の精神にのっとり教育を受ける機会が等しく与えられること。
- (3) 全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。
- (4) 全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること。
- (5) こどもの養育については、家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下、これらの者に対してこどもの養育に関し十分な支援を行うとともに、家庭での養育が困難なこどもにはできる限り家庭と同様の養育環境を確保することにより、こどもが心身ともに健やかに育成されるようにすること。
- (6) 家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境を整備すること。

2 日野市子ども条例（平成 20 年 6 月 26 日条例第 30 号）

（1）子どもの権利（第 11 条第 1 項）

子どもは、「児童憲章」と「児童の権利に関する条約」の理念に基づくすべての権利と生きる権利、育つ権利、守り守られる権利、参加する権利が保障、擁護されます。

生きる権利（第 12 条）

子どもは、安心して生きることができるよう、主に次に掲げる権利があります。

育つ権利（第 13 条）

子どもは、健やかに成長するために、主に次に掲げる権利があります。

守り守られる権利（第 14 条）

子どもは、自分を守り、守られるために、主に次に掲げる権利があります。

参加する権利（第 15 条）

子どもは、自ら社会に参加するために、主に次に掲げる権利があります。

（2）市の責務（第 4 条第 1 項）

市は、子どもの生きる権利、育つ権利、守り守られる権利、参加する権利を尊重し、関係するあらゆる施策を通してその保障、擁護に努めるとともに、関係者と連携して子どもを健全育成する環境の整備に努めなければなりません。

（3）おとなの責務（第 5 条第 1 項）

おとなは、その言動が子どもの成育に様々な影響を与えることを認識し、子どもの生きる権利、育つ権利、守り守られる権利、参加する権利の保障、擁護に努めなければなりません。また、子どもの健やかな成長のための環境づくりに努めなければなりません。

（4）親又は親に代わる保護者の責務（第 6 条第 1 項）

親又は親に代わる保護者は、子どもの成長を見守り、子どもを育成することに最も重要な責任があることを自覚するとともに子どもの生きる権利、育つ権利、守り守られる権利、参加する権利の保障、擁護と子どもの健全な育成に努めなければなりません。

(5) 関係者の責務（第7条）

関係者は、市の施策に協力し、子どもの生きる権利、育つ権利、守り守られる権利、参加する権利を保障、擁護するとともに子どもの健やかな成長を支援するよう努めなければなりません。

(6) 子どもの責務（第8条）

子どもは、自分を大切にするとともに、他の人を大切にし、基本的な社会のルールを守るように努めなければなりません。

(7) 支援・連携（第9条）

市、おとな、親など保護者、関係者は、子どもの健やかな成長のために子どもを支援、指導し、子どもの生きる権利、育つ権利、守り守られる権利、参加する権利の保障、擁護のために連携します。特に市は、必要な場合において、国、公共団体などに協力を求めているかなければなりません。

3 ひのっ子若者みらいプラン（第1期日野市こども計画）

(1) 基本理念

すべての人の権利が尊重され、一人ひとりの子ども・若者が
自分らしく健やかに育ち、安心して子育てできるまち



※放課後子ども教室「ひのっち」
公認キャラクター「のっち」

(2) 計画策定にあたっての基本的な視点

- ①子どもや若者、子育て当事者の視点を尊重する
- ②ライフステージに応じて切れ目なく支援する
- ③良好な育成環境を確保し、すべての子ども・若者が幸せな状態で成長できるようにする

(3) 基本目標

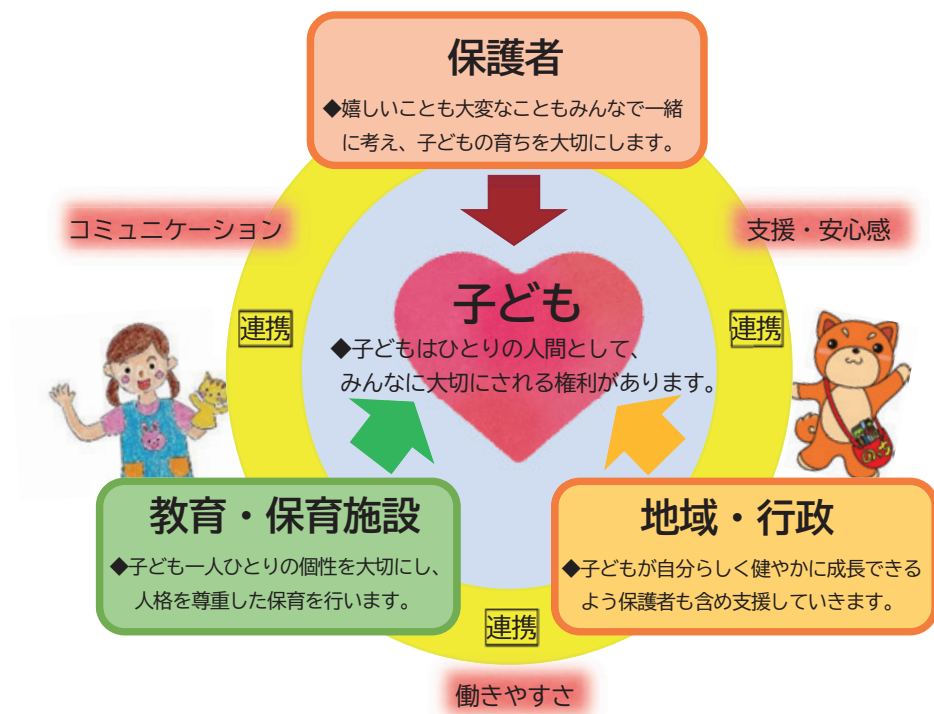
- ①ライフステージを通じて切れ目なく一人ひとりを大切にする支援
- ②子どもの健やかな育ちへの支援
- ③子育て・子育てを支えるまちづくり
- ④子ども・若者の成長と自立への支援

第4章 日野市が目指す保育

日野市では、各種法令・条例・計画等に基づき、全ての子どもが安心して心身共に伸び伸びと生活できる保育を目指します。

子どもは、ひとりの人間として、人格や個性が尊重される権利を持っており、子どもの気持ちに寄り添い、健やかに育つことができる環境を整え、保育をしていく必要があります。

本ガイドラインを通して、日野市の保育の質の向上が図られること、子どもの最善の利益が保障されること、職員が自信を持ち安心して働き続けられること、保護者がより一層安心して教育・保育施設に預けられることを期待します。



保育者アンケートにより見えてきた、日野市の保育における
理念や大切にしていることなどをシャボン玉で表現しました。

橋は保育をする上で基盤となる大切なことを、
川や風、太陽などは日野市の保育環境を表しています。



第5章 日野市保育手帖（保育の質ガイドライン）の使い方

1 事例集の使い方

保育に迷った時、保育の改善を図りたいと思った時などに、気になる事例に目を通してみてください。もちろん、子どもたちの実態は園によって異なりますので、事例をそのまま自らの保育に流用できないこともあるでしょう。それでも、他園の実践は、きっとあなたの保育に新たな気づきを与えてくれるはずです。

2 ふりかえりシートの使い方

期、年などのスパンを決めて、定期的に保育をふり返る習慣をつけましょう。ふりかえりシートや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」は、達成すべき目標でも、項目ごと個別に取り出されて指導されるものでもありません。一人一人の発達に応じて育まれていくものであり、全ての子どもに同じように見られるわけではないことに十分留意する必要があります。

また、ふりかえりシートや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」に基づいてふり返ることで、自分の保育実践や保育を評価する目の“かたより”や“くせ”が見えてくるでしょう。その“かたより”や“くせ”を見直し、保育の質の向上を図ることが大切です。

～ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）～

平成30年4月に「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改定されたことに伴い、共通の指針として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」が明記されました。

小学校との連携においても、「10の姿」は子どもの育ちを具体的に共有するための手立てとなっています。幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続を行うためにも、しっかりと理解しておくことが大切です。



健康な心と体	保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

社会生活との 関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の 芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、 標識や文字 などへの 関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による 伝え合い	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と 表現	心を動かす出来事などに触れ感性を動かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

事例集



なるほど！
そういうやり方もあるのか！
うちの園でもやってみよう！



事例集目次

1. 保育内容編

(1) 産休明け

産休明け保育(0歳児(57日児))	【おおくぼ保育園】	17
産休明けの授乳(冷凍母乳)	【わらべ日野市役所東保育園】	18

(2) 0歳児

遊びの中で育む はじめのいっぽ(0歳児9か月)	【あさひがおか保育園】	19
乳児期の感覚を刺激する遊び(0歳児6月)	【万願寺保育園】	20

(3) 1歳以上3歳児未満

遊んで伸びる力(1歳児)	【至誠第二保育園】	21
「何だろう?」「不思議だな」(1歳児10月)	【栄光豊田駅前保育園】	22
身近な物を使った製作(1歳児10月)	【至誠ひの宿保育園】	23

(4) 3歳以上児

見通しが持てるような朝の支度の進め方(3歳児4月)	【たかはた台保育園】	24
鬼ごっこによる子どもの成長と変化(3歳児12月)	【しんさかした保育園】	25
友達との関わりを大切にしながら、子ども主体で遊びを楽しむ(3歳児9月)	【栄光多摩平の森保育園】	26
和太鼓の取り組みを通して(5歳児)	【芝原保育園】	27
発表会で大切にしていること	【上田せせらぎ保育園】	28
エコの架け橋	【みなみだいら保育園】	29

(5) 配慮が必要な子ども

環境を整える大切さ(4歳児)	【もぐさ台保育園】	30
固定の保育士が核となり、みんなで育む(3歳児)	【子どもの森あさかわ保育園】	31
みんなが心地よくつながるために	【豊田保育園】	32
気になる子どもの対応について	【たかはた台保育園】	33
食物アレルギー児の行事食や安全	【日野駅前かわせみ保育園】	34

(6) 医療的ケア児

導尿の必要な子どもへの対応と保育	【ひらやま保育園】	35
I型糖尿病を持つ子どもへの理解と保育	【日野保育園】	36
点滴・服薬を必要とする子のための環境づくり(5歳児)	【わらべ日野市役所東保育園】	37

(7) 物的環境

廊下の曲がり角	【日野保育園】	38
整えられた清潔な環境を用意する	【ひよこハウス豊田】	39
子どもが自由に玩具を選べる環境(1・2歳児)	【マジオたんぽぽ保育園日野ルーム】	40

(8) 人的環境

- 丁寧に関わることにこだわる……………【豊田保育園】 41
自分たちの生活を自分たちで作る(3・4・5歳児グループ)……………【栄光保育園】 42
担任編成・子どもへの働きかけ……………【至誠いしだ保育園】 43

(9) 小学校への接続

- 学童交流(5歳児12月)……………【つくしんぼ保育園】 44
小学校ってこんなところだよ(5歳児2月)……………【日野第二保育園】 45
ゼロからのスタートじゃない!……………【幼児教育・保育アドバイザー】 46

(10) 施設間交流

- 太鼓で育む人とつながる力(5歳児)……………【栄光平山台保育園】 47
年長児交流会……………【しせい太陽の子保育園】 48
保育園と幼稚園の初めての交流会(5歳児5月)……………【あさひがおか保育園】 49
日本の伝統行事「おもちつき」への参加(2歳児)……………【ひのめばえ保育園】 50

(11) 帳簿の書き方の工夫

- 保育書類の書き方について……………【むこうじま保育園】 51

2. 子どもの権利擁護編

(1) 施設内不適切保育・虐待防止

- ロールプレイにより関わり方を考え合う……………【ひらやま保育園】 52
一人ひとりの気持ちを尊重……………【栄光豊田駅前保育園】 53
施設内不適切保育・虐待防止対策としての取り組み……………【おおぞら東豊田保育園旭が丘分園】 54

(2) 苦情解決

- 外国籍の保護者からの苦情への対応……………【みさわ保育園】 55
苦情解決で信頼関係を構築する……………【おおぞら東豊田保育園】 56
苦情の中に見つけた大切なヒント……………【よつぎ日野保育園】 57

3. 子育て支援編

(1) 地域交流

- 中学生・高校生の職場体験……………【至誠第二保育園】 58
利用者・地域の方・困っている人とのつながり……………【至誠あずま保育園】 59
入園前に保育園を知ろう……………【ひよこハウス多摩平】 60
地域交流……………【たかはた北保育園】 61
保育園ってどんなところ?……………【栄光多摩平中央保育園】 62

(2) 保護者支援

- 保護者支援……………【みなみだいら保育園】 63
保護者の気持ちに寄り添いながら……………【もぐさ台保育園】 64

保護者に寄り添う保育園	【あおぞら東豊田保育園旭が丘分園】	65
保護者会での意見の共有	【あおぞら東豊田保育園】	66
保護者同士のつながりを保育園がお手伝い	【万願寺保育園】	67
手作りの連絡帳	【ののはな保育園】	68

4. 健康・安全編

(1) 食育

安全・安心な給食提供を目指して	【日野市立保育園栄養士会】	69
栄養士から見た子どもの成長	【至誠あずま保育園】	70
「美味しい」の笑顔がいっぱい(1・2歳児)	【ののはな保育園】	71
そら豆の栽培・収穫(3歳児4月)	【つくしんぼ保育園】	72
食への関心を深め、食べる喜びを育てる(5歳児)	【栄光多摩平の森保育園】	73
玉葱の草木染め(5歳児)	【至誠ひの宿保育園】	74

(2) 健康・安全

体調不良の早期発見を治療につなげる	【日野わかば保育園】	75
感染症から子どもを守るために	【たかはた北保育園】	76
日中やプール・水遊び時の事故防止	【あおぞら多摩平保育園】	77
保育園の防犯対策・環境	【日野駅前かわせみ保育園】	78
子ども達の安全を守るためにできること	【ただまいら1.2 SmileHouse】	79
職員が元気でいるために	【栄光ただまいら保育園】	80

5. 職員の資質向上編

(1) 研修

研修を受けて子ども達を守る	【よつぎ日野保育園】	81
研修から得られる知識とスキル	【マジオたんぽぽ保育園日野ルーム】	82
園内研修でのつながり、悩みの共有	【むこうじま保育園】	83
安心感のある保育園	【あらい保育園】	84

(2) 職員間の連携・人間関係

コミュニケーションがキーワード	【あらい保育園】	85
先輩保育士の存在は大きい	【ひよこハウス多摩平】	86
経験が浅かった時の失敗談として、今だから言えること	【至誠いしだ保育園】	87
良好な人間関係を目指して	【上田せせらぎ保育園】	88
悩みを話せる相手がいる職場	【あおぞら多摩平保育園】	89
子育てしながら	【栄光平山台保育園】	90
力を合わせてすすめる保育	【芝原保育園】	91
隙間時間のコミュニケーション	【栄光ただまいら保育園】	92
コミュニケーションのための挨拶と雑談	【子どもの森あさかわ保育園】	93

一緒に考えよう職員への声かけ……………	【おおくぼ保育園】 94
子ども・おとなも・元気で明るく楽しい毎日を！ ……	【栄光多摩平中央保育園】 95
保育の質向上のために……………	【ひよこハウス豊田】 96
(3) 園の運営に関して	
クラスの中から全体へ ……………	【栄光保育園】 97
職員同士がよりよい人間関係を構築し、職場がいつも明るく笑顔で いられる環境づくりをするために…………	【日野第二保育園】 98

6. その他編

<保育者としての責任感>	
これだけは譲れないこだわり……………	【ひのめばえ保育園】 99
<保育方法の理解>	
皆の笑顔に囲まれて ……………	【しせい太陽の子保育園】 100
<保育者としての有能感>	
保育士が長く仕事を続けられる環境整備 ……………	【栄光ひまわり保育園】 101
<地域への親しみ>	
豊かな保育環境に恵まれて……………	【しんさかした保育園】 102
豊かな自然環境の中で……………	【日野わかば保育園】 103
日野市で働きましょう ……………	【たまだいら 1.2 SmileHouse】 104
<他者との連携>	
楽しみながら保育をするために……………	【みさわ保育園】 105
一緒に学べる幸せ ……………	【栄光保育園南平分園】 106
<幼保小連携の視点>	
自信をもって保育に取り組んでください……………	【幼児教育・保育アドバイザー】 107

産休明け保育

0歳児（57日児）

おおくぼ保育園

【子どもの様子】

- ・まだ首もすわっておらず完全に横抱きの状態。
- ・まとまって睡眠をとる、生活リズムを作るまえの状態でちょこちょこ眠って起きてのくりかえし。
- ・横になったまま手足を動かして遊ぶ。
- ・時々声を出す。話しかけたり、笑顔で顔を合わせると笑って応える。

【目的】

産休明けで職場復帰する保護者などの支援を目的とする。

【心掛けたこと】

- 安心して心地よく過ごせるようにする。
- ・スキンシップと笑顔のやり取りを大切にする。
- ・子どもの様子をよく観察し、要求や思いを感じ、さぐっていく。
- 生活リズムの確立。
- 保護者との連携を密にし、子どもの情報を共有することで適切な保育につなげていくようにするとともに保護者にも安心して預けていただけるようにする。

赤ちゃんは、何も言えないけど、たくさんのことを見たり聞いたりしているんですね。

ミルクの時間ですよ。

良いお天気で気持ちいいね。



【考察】

生後100日を過ぎると、正常な発達を遂げている中で体の機能はかなり安定して、生きる力が付いてくるが、産休明け児はその時期に至らないため、保育においても特別な配慮が必要となってくる。そのため、保育にあたる者は、常にそのことを念頭に入れ衛生面・環境面に気を配り、事故防止を意識し、全面的に保護した中で安定した生活を送れるように配慮していくことが重要となってくる。日々の体調観察は、異常を早期に発見することができ、事故防止にもつながる。

☆子どもの様子をよく観察し、保護者との連携をとりながら少しずつ生活リズムを整えていく。
☆睡眠中は細心の注意を払い、呼吸の確認や溢乳に気を付ける。
☆発達を促すためにたくさんの刺激が受けられるようにたくさん関わっていくことも大切。
・オムツ交換や授乳の時のスキンシップ、泣いたときの抱っこや目を見ながらの優しい声掛けなど。
☆いろいろな月齢の子どもたちがいる中では、安全確保と衛生的で落ち着いた環境づくりの配慮が必要。
・ベビーベッドやサークルなどを活用し、安全に留意する。

産休とは、生後8週（生後56日）までの期間のことを指します。母親が育休をとらずに仕事復帰する場合、産休明け（生後57日）で保育園に子どもを預けるようになります。これを産休明け保育と言います。



体力や体の機能が未熟な子どもの保育は、園の色々な職種の人の協力を得ながら、安全に十分留意し、安心して保護者が預けられるようにしていくことが大切です。

産休明けの授乳（冷凍母乳）

【子どもの姿・思い】

・首がしっかりしてきてあ
やすとにっこり笑って応え
る。好きな玩具を渡して一
緒に遊んでコミュニケーション
を取り、過ごしていた
・音の出る玩具が聞こえ
ると足をバタバタして反応し
たりベビーベッドの柵に設
置してあるメリーを目で追
いかけたり玩具に興味を示
して楽しんでいた
・保育者が一緒に遊ぶと声
を出して笑い、寄り添って
過ごすようにした

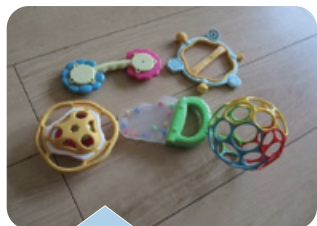
【ねらい・意図】

・母乳育児をしたいとい
う思いを大切に冷凍母乳
を預かる
・家庭での保育に寄り添
った保育を考えながら、
ミルクも母乳も飲めるよ
うにし、園での生活リズ
ムを作り、安心して過ご
せるようにする

わらべ日野市役所東保育園

【心掛けたこと】

・子どもが安心してすごせ、
自分の気持ちを伝えられるよ
うに受け止めた
・冷凍母乳の管理、解凍を行
うため授乳時間の調節も行う
（受け取る際は氏名・搾乳日
時・冷凍状態を確認して受け
取る。受け取ったら冷凍庫へ
入れる）
・冷凍母乳は流水解凍をし、
湯せんをかけ適温にする。使
用しなかった分はその日のう
ちに返却するよう保護者との
連携を図る



口腔の発育を促すため、歯固
めやスプーンなどの食具を持つ
練習をするための玩具も用意
し、離乳食へつなげた



連絡を密にして、安心して
預かれるようにします。

【保護者との連携】

保護者と量や子どもの体調な
どを詳しく情報共有し、連携
を図りながら進めていく

【保育の経緯】

・ミルクも母乳も順調
に飲む量が増え、笑顔
が増え少しずつ自分の
気持ちを身振りや手ぶ
りなどの仕草で表現で
きるようになった

【ミルクと母乳の授乳の仕方】

その日の母乳の量とその都度
のタイミングに合わせて行った

【考察】

保護者にも家庭で実践できることを発信したり、心配事を聞いて、一
緒に解決策を考えていったりなどのコミュニケーションも大切だと思
う。様々な家庭の背景も考慮しながらその子どもにあった対応を見つ
けていかなければと日々我々も子どもたちから学ぶことが多いと感じ
る。家庭での授乳の時間や量を把握しながら落ち着いた環境を作っ
ていく。一人ひとりの発達に応じて様々な食材や形状に慣れていく。冷
凍母乳の良さとしては、園でも親の気持ちに寄り添ってあげられるこ
とである。配慮する点は24時間以内のものを持参してもらい、園の
冷凍庫に保管することを心掛ける。また、衛生的に扱う様に十分気
を付けることに難しさを感じたが、とても重要なことである。

冷凍母乳は難しさもあり
ますが、家庭と同じよう
な授乳環境を作ってお
けることで、子どもに安心
を与えられますね。厚生
労働省のガイドラインを
閲覧し、自園のマニュー
アルをきちんと作成してお
きましょう。



遊びの中で育む はじめのいっば

0歳児9カ月

あさひがおか保育園

【子どもの姿、思い】

自分で立ち上がった
り、つかまり立ちがで
きるようになったりした
ことが嬉しくて毎回手
を叩いて喜んでいる。
歩けるようになった友
だちを見ながら、自分
も“歩いてみたい”と
いう気持ちは溢れてき
ているが、なかなか最
初の一步を踏み出せ
ずにいた。

【ねらい・意図】

- つかまり立ち、つたい
歩きなど体全体を動か
してあそぶことを楽しむ。
- 歩くことに興味を持
ちやってみようとする。
- できた喜びを保育者
と一緒に喜ぶ。

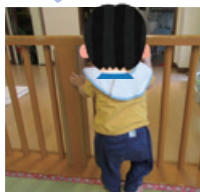
【心掛けたこと】

安心してチャレンジできる
ような広いスペースや距離
を確保し、安全な環境を整
えた。探索意欲を刺激し歩
いてみたい気持ちを引き出
していった。
保育者は子どもが不安に
ならないように手がすぐ届
く位置から、歩いてみたい
という気持ちを持てるよう
な声掛けをした。
本児の発達状態やサポー
トの仕方を保育者間で共
有した。



あんよができると
たのしいことが
いっぱいだね!!

おいで～! あんよ!
あんよがじょうず♪



【考察】

つかまり立ちやつたい歩きなど体全体を使って繰り返し遊び、遊びの中で“歩きたい”という気持ちを育てていく事が大切である。又、信頼できる大人とのスキンシップを沢山とりながら一緒に喜んでもらったり認めてもらうことで“歩きたい”という意欲が生まれ自信につながり、歩けるようになる。
その子の成長発達をしっかり把握した上で、保育者(大人)が働きかけるタイミングも大切である。

【保育の経緯】

保育者と他児が触れ合いながら楽しそうに歩いて遊んでいる様子を見て、歩くことへの興味が高まった。保育者に「○○ちゃん!おいで～あんよが上手!」等リズムを付けながら声をかけられると手を前に伸ばし保育者の胸に飛び込むようになった。繰り返しうちに安定して一歩が出るようになった。保育者と一緒に喜んでもらったり認めてもらったりしたこと
で日々歩数が増えていった。



安心して歩いてみたいという気持ちを育むことが大切ですね。「はじめのいっば」を保護者と喜び合いましょう。

乳児期の感覚を刺激する遊び

0歳児6月

万願寺保育園

【子どもの姿】

ものに触れる経験が少ない為か、目の前におもちゃがあっても触れようとせず、戸外遊びの中でも葉っぱや砂に触ることを怖がる姿が見られた。また、離乳食を食べたい気持ちはあるが、食材に触れることに抵抗がある様子だった。

【ねらい・意図】

様々なものに触ってみることで五感を刺激し、今度は他のものにも触れてみたいという気持ちが子ども一人ひとりに育まれるようにしたい。

【心掛けたこと】

保育室に感覚マット(スズランテープ、布、芝生、卵パック、気泡緩衝材)を準備し、日常生活の中で興味を示した時に触れられるようにした。フィンガーペイント、寒天、氷、小麦粉、じゃが芋の調理、太陽の光で影遊びなど一年を通して五感を刺激する活動を準備した。

(寒天遊び)



視覚からも楽しめるように色鮮やかな4色の寒天を作りました。

(小麦粉粘土遊び)

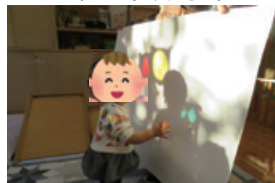


子ども達と一緒に、小麦粉のサラサラから、水を加えて粘土を作り、感触を楽しみました。

【保育の経緯】

はじめは保育士が行っている様子を見ていたが、高月齢児が保育士と一緒に楽しそうに行う姿を見て、そっと触れてみようとする姿があった。子どもが安心する環境の中で行うことにより、積極的に触れる姿が見られた。様々な素材の経験を重ねることで、戸外に出ても積極的に活動できるようになった。

(光の影絵遊び)



カラーセロファンを使った光の色の变化を子ども達が発見しました。

【考察】

感覚遊びを通して、安心できる環境の中で経験を重ねることにより、はじめての活動にも楽しんで取り組めるようになった。素材に合わせた指先の使い方ができるようになった。一人ひとりに合わせて行ったことで「やりたい」意欲が見られた。保護者からも家庭では経験できない遊びができてよかったとの声もあり、環境を通して、子どもの健やかな育ちを支え、促していく事に保育園の特性があると言える。



身近な素材を使って五感を刺激する遊びを取り入れることで、子ども達が発見したり、遊びを展開させたりと、保育園ならではの遊びが出来ますね。

遊んで伸びる力 1歳児

至誠第二保育園

【子どもの姿・思い】

テラスで空から降って来る雨を眺めていると、雨に触ってみたいという衝動からか手を伸ばす姿が見られた。翌日、園庭に出た際に砂場のビニールシートの上で発見した雨の水溜まりを見つけると、子どもたちは水溜まりへ入っていった。日頃、砂場での遊びはしているが、泥水で遊ぶことはなかった。

【ねらい・意図】

ぬるぬる・ざらざら・どろどろたくさん
さんの感触や全身で感じられる感
覚遊びになるように工夫する。
また、「試す」ことで「こんなこと
ができる!」や「面白かった」など
を発見することもできる。

【心掛けたこと】

泥は砂と水の配分に応じて形や粘度、手触りが変わっていくので、水気のないさらさらの砂や水を含んだどろどろの砂などの環境を用意し様々な感触を味わえるように配慮した。また、手だけではなく泥の上を裸足で歩くことで、足の裏から伝わる感触も楽しめるようにした。

【考察】

びちゃびちゃ飛び跳ねる泥水に好奇心を示し、水の変化に興味を示す姿が見られた。最初は素足の感触に嫌がる子どももいたが、楽しむ他の子どもを見て徐々に慣れて楽しんでいる様子だった。水が流れてくると「川だあ〜!」と喜んだり、黙々と穴を掘ったり、見立て遊びやごっこ遊びなど、好きな遊びに向き合うことができていた。



【保育の経緯】

様々な感触を味わえるよう環境を整えたことで、ぬるぬる・ざらざら・どろどろなどの感触を味わうことが出来ていた。また、月齢や性別などで遊び方がそれぞれ異なるので、素足で歩く感覚や五感の刺激など、面白いと思ったことを繰り返し行う姿が集中力や探求心に繋がる。また、ぬかるんだ土の上を歩いたり、ハイハイして踏ん張る経験で体幹を鍛えたりすることも出来ると考えた。日頃周囲に関心が見られなかった子どもも自ら遊び始め、友達のやっていることを真似たり、かわりを持ったりする姿も見られた。このような体験を通して子どもたちの五感や感性が育ち、育まれていく。



自然現象を保育に取り入れ、子ども達の興味や関心をどろんこ遊びに発展させる保育は、子どもの五感を刺激しますね。

「何だろう?」「不思議だな」

1歳児10月

栄光豊田駅前保育園

【子どもの姿】

夏頃からは、友達や保育士と手を繋いで公園まで嬉しそうに歩いている。すっかり秋めき、舞い落ちた葉っぱの中にどんぐりを見つける。形や大きさが違うどんぐりに興味を示す子どもたちに“身近な自然物に親しむ”姿が見られる。

【ねらい・意図】

自然物のどんぐりなどに触れることを通して、子どもが「何だろう?」「不思議だな」と感じ、新しい発見をし、身近な自然物に親しむ体験をさせたい。

【心掛けたこと】

- ・日常生活の中で、「どんぐりころころ」の歌を歌う。
- ・図鑑や絵本で興味を示せるようにする。
- ・見つけたどんぐりの会話をする。
- ・拾ったどんぐりを入れやすく工夫した「どんぐりバック」を製作する。

小さい
どんぐりだよ。

大きいどんぐり
見つけた。

帽子かぶって
いるみたい。



【保育の経緯】

秋になり、時々訪れていた公園のあちこちに大小様々な形をしたどんぐりが落ち始めていた。そのたびに拾ったどんぐりを握りしめて持ち帰っていた。この日は、目をキラキラと輝やかせ「どんぐり!」「小さいの!」「大きいの!」とあっという間に、どんぐりバッグがずっしり重くなる程のどんぐりを拾い大満足な子どもたち。拾ったどんぐりは「大切な宝物」。大事に持ち帰る姿があった。

【考察】

「大きい」「小さい」「丸い」など、どんぐりの様々な形に気づいたり、「枝」「葉っぱ」「ぼうし」が付いたどんぐりを発見したりしていた。季節の自然物に触れ、感性や創造性を高めることができたと言える。

どんぐりがたくさん
拾えて楽しかった!



身近な自然物から発見できることはたくさんありますね。四季折々の自然に触れ、子どもが主体的に、興味関心を持てるのは素敵ですね。

身近な物を使った製作

1歳児10月

至誠ひの宿保育園

【子どもの姿、思い】

日頃から紙いっぱいにお絵描きを楽しむ様子があった。

また、食育を通して様々な野菜を手にとって触れたり、絵本で野菜の断面を見たりする機会を通し野菜に興味を持っていた。

【ねらい・意図】

生活や遊びのさまざまな経験を通してイメージや感性が豊かになるよう、筆を使った手法以外の絵の具の楽しみ方を知らせる。また野菜を使ったスタンプ遊びを体験できるようにする。

【心掛けたこと】

子ども達の興味が継続できるように野菜の断面と一緒に見るなど援助した。野菜や絵の具は好きな物が選べるように複数、用意した。

★絵の具遊びの様子



イーゼルを準備することで、絵を描く気持ちが上がりました。

★使用した野菜



れんこん、ちんげんさい、パプリカ断面はワクワクがいっぱいです。

【保育の経緯】

一人一人に寄り添いながら、子どものペースに合わせ進めた。絵の具のぬるぬるした感触や手に付くことを嫌がる子どもには、手を取って一緒にやってみたり野菜の形を見たりしながら楽しみを持てるようにした。

★野菜スタンプの様子



絵の具を付けてスタンプを楽しみました。

【考察】

実物の野菜、絵本、野菜スタンプでの製作と、活動をつなげることで、子ども達の経験を広げ、絵を描くだけではない絵の具の楽しみ方を知ることができた。

身近にあるものから、発展させていろいろな製作活動に繋げていきたい。



身近なものを使って、様々な活動を自主的につなげていけるような保育の仕方は、これからの活動の広がりが期待できますね。

見通しが持てるような朝の支度の進め方 3歳児4月

たかはた台保育園

【子どもの姿、思い】

乳児クラスでは保護者が行っていた朝の支度を自分たちの活動と捉えるには、個人差が大きい。靴を取るために保育室から出ると、テラスで虫を見つけて観察する姿があったり、おたより帳に貼るシールにこだわりなかなかなか選べなかったりと、時間がかかる活動であった。

【ねらい・意図】

乳児クラスから幼児クラスへと進級した3歳児クラスの4月には、見通しが持てるような朝の支度の進め方を工夫する。

【心掛けたこと】

朝の支度が終わると好きな遊びが楽しめるような時間を設け、担任が3歳児の興味に合わせながら、それぞれの子ども達の好みにも配慮し、手作りのおもちゃを用意した。

ぱちんと音がして、つながるんだよ。

【保育の経緯】

一人一人の子ども達に寄り添いながら、時間をかけて丁寧に進めた。手作りおもちゃに導かれた子ども達の姿以外にも、早く支度ができた友達から遊びに誘われるような姿も見られるようになってきた。

びよーんって伸ばして、引っかけて...

キラキラしてて、きれい！



ゴムを伸ばす動作は、靴下を履く練習にもなるのね。



低コストだし、柔らかく軽い素材なので、友達と長く繋げても安全。

梅干しのカードはどこかな。

おにぎりという身近な食材で神経衰弱をするところが面白い！食育にも繋がるわ。



仲間との交流の広がりに合わせて、カードの枚数を増やしたよ。

【考察】

時間をかけて、一人一人に丁寧に対応して積み重ねてきたことで、子ども達に支度をしてから一日がスタートするという意識が芽生え、幼児クラスとしての成長も感じられるようになり、集団としての活動へと広がりが見られるようになってきた。



乳児クラスから幼児クラスにかけて、子ども達が自主的に朝の支度が出来るための工夫として、手作りおもちゃが用いられているのですね。

鬼ごっこによる子どもの成長と変化

3歳児 | 2月

しんさかした保育園

【子どもの姿・思い】

3歳児の春は保育士が追いかける追いかっこを楽しんできた。大きな行事を終え、集団のまとまりが見えてきた12月頃からルールを明確にした鬼ごっこを活動の中に組み込み、皆で遊びを深めていくようにした。

【ねらい・意図】

- ・寒さに負けず戸外で十分体を動かす。
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- ・ルールを理解して遊ぶ。

【心掛けたこと】

鬼にタッチされたら指定の場所で待つ、鬼は全員タッチすることができたら交代というシンプルなルールで始め、慣れてきてもルールは変えず、鬼の数のみ減らすようにし、ルールの理解が深まるようにした。

【保育の経緯】

「タッチできたことが嬉しい」から始まり、「逃げ続ける最後の一人になった」・「最後まで諦めずに追いかけて全員タッチできた」など、自分に自信がついていった。また、タッチされて悔しい、タッチできて嬉しい、両方の気持ちに気づけた。



帽子の色で
チーム分け。

10数えたらスタート!

あともう少しで
タッチできそう!
がんばれ!

最後の一人を
タッチするまで
あきらめない!

【考察】

シンプルなルールでしっかり遊びこむことで、基本的なルールの理解を深めることができた。また、鬼になってもなかなかタッチできない子同士を集めて鬼にすることで、タッチすることの楽しさや全員タッチできた達成感などを感じられるよう工夫していった。ルールを守ることの大切さや、「タッチする/される」ことで相手の気持ちに気づくことができ、自分に自信がついていったことを実感した。



子どもが分かりやすい、
シンプルな遊びから
ルールを知ったり、友達
との関わりを深めたり
できますね。

友達との関わりを大切にしながら、 子ども主体で遊びを楽しむ

3歳児9月

栄光多摩平の森保育園

【子どもの姿・思い】

3歳児はなんでも自分で出来ると思い、怖いもの知らずの時期と言われている。だから、遊びの中でも“負ける”“途中で終わりになる”ことは納得できない。ゲームなどの遊びの中でも自分が満足するまで楽しむことが大切だが、みんなで行う時にはルールに縛られて一人一人が満足できないこともある。椅子取りゲームは座れないとそこで終わりにになってしまうため、つまらなくなって途中でやめてしまう子もいる。そこで、何とかみんなで楽しめる方法はないかと新しい椅子取りゲームを考えた。

【ねらい・意図】

子ども同士の心地良い関わりを簡単なルールのある遊びを通し楽しむ。“友達と一緒に楽しい”の関係を育んでいく。“あー楽しかった”“もっとやりたい”思いを育むために、エンドレスに続く遊びを楽しめるようにする。

【心掛けたこと】

ルールありきでなく個々の思いをくみ取りながら柔軟に遊びの内容やルールを変えることで誰もが楽しいと思えるよう遊びを展開する。

【保育の経緯】

ホールで人数分の椅子を並べ、少しずつ椅子が減っていくことを伝える。座れなくなったら座っているお友達の前に立って「おねがいします」と言って膝に座らせてもらう。あるいは復活ジュース屋(保育士が水筒の所において椅子に座れなかった子を待つ)に行き水筒の水を一口飲んで再びゲームに参加するルールに変えた。その結果、やりたくないと言ったり、途中でやめてしまう子が減り、楽しんで遊ぶ時間が長くなった。



あっ!座る
椅子がない!
膝にのせて!

何度もできて
楽しいね!

復活ジュースを飲
んだからもう一度
できるよ!!

【考察】

エンドレスに楽しめることで、誰もが最後まで参加でき、楽しさを共感できる。勝ち負けではなく、友達の膝に座らせてもらう喜び、座らせてあげられた優越感が持て、お互いが心地よく楽しい遊びになっていた。



年齢により、勝ち負けではなくみんなで最後まで遊べる工夫することは、子ども達の気持ちを汲むためには大切なことです。

和太鼓の取り組みを通して

5 歳児

芝原保育園

【子どもの姿、思い】

3歳児クラスから太鼓教室へ参加し、太鼓の音に合わせて体を動かしたり、簡単な童謡のリズムで叩くことを楽しんでいる。

4歳児クラスで《輝け囃子》を覚え、みんなで叩く太鼓の楽しさを知る機会を設けている。

5歳児クラスで、レベルアップした《ぶち合わせ太鼓》の演目に挑戦し、発表会にむけて取り組んでいた。

【ねらい・意図】

- ・クラス全員で協力して成し遂げる達成感を味わう。
- ・仲間と音を合わせることで協調性を身につける。
- ・力いっぱい太鼓をたたくことで、心地よさを味わい、表現力を身につける。

【心掛けたこと】

《輝け囃子》より難しい演目の為、一節ずつ丁寧に伝えていった。

集中が続かない子もいるため、同じ曲だけを繰り返すのではなく、他の曲を取り入れたり、色々なリズム打ちを取り入れ、楽しみながら集中力が保てる工夫をした。

研修を受けた職員が指導に入り、担任にもポイントを伝え、一緒に子どもたち一人ひとりに合わせた指導をしていった。

待つ時の姿勢は、
どうやったらもっと
かっこよくなる
か考えよう！

構えの時、バチは
まっすぐ上にして持
つとかっこいいよね！



【保育の経緯】

口伝をすぐに覚えられる子、覚えるのに苦戦する子、さまざまだが、なかなか覚えられない子に対しては、苦手意識を持つことがないように、「間違えても大丈夫！みんなでも楽しく叩こう！」と安心できる声掛けをしたりそれぞれの上達したところなどを褒めながら進めた。練習を重ねるごとに、「どうやったらもっとかっこよくたたけるか」「待ち姿勢はどんな感じが良いか」など、子ども自身が考え工夫するようになった。

【考察】

新しいことにチャレンジする時、ワクワクした表情で、目を輝かせて取り組み始める。保育者が、一人ひとりと向き合いながら丁寧に指導していくことで、上達していくことが嬉しいと感じ、向上心が芽生え、より楽しみながら取り組むことが出来ていた。

子どもたちの様子を見て演目を決め、発表会で披露した。仲間と一緒に成し遂げた達成感と充実感を味わうことができた。



和太鼓を通じて、楽しみながら友達との協調性を身に付けていけることもできます。年齢に合わせた演目も子ども達が無理なく取り組めて良いですね。

発表会で大切にしていること

上田せせらぎ保育園

当日、園長の挨拶で保護者へお話しした内容です。

「発表会は子どもたちの日々の生活の一部を切り抜いて見て頂く場です。子どもたちのありのままを見て成長を実感して欲しいと思います。緊張してしまうことも心が成長した証です。上手にできた、できないという出来映えを求めるのではなく、舞台に立つ子どもたちの成長と一緒に喜んで頂きたいと思います。

日々の保育と同様に発表会にもねらいがあります。

発表会を通じて様々な感情を経験することで、生活する上で必要な力を育んでいくのです。

子どもたちは褒められることだけでなく、「ドキドキしたよね」「わくわくしたよね」「頑張ってたね」と自分の気持ちを分かってくれる、認めもらえることに喜びと安心を得ることができます。保護者の方からのその言葉かけがあって、発表会における子どもの満足感、達成感も確かなものになります。ぜひ、出来映えでなく、お子さまの心の中を覗くように観覧いただき、子どもたちの育ちへの最後の励ましとして、お声をかけて頂けたら幸いです。」

後日、保護者から「感銘を受けました。」と多数のお声を頂き、保護者に私たちがこだわりをもって日々保育をしていることが伝わった、良い機会となりました。



行事を通して、保護者との間に子どもたちの満足感や達成感を共有できるといいですね。子ども達の成長を共に喜び合う機会にしましょう。

エコの架け橋

【子どもの姿】

「エコ(エコロジー)」の言葉が聞かれるようになり、「物を大切に」「給食を美味しく味わう」「自然に興味を持つ」をテーマに遊びやクイズで楽しみながら活動に取り組むことも増えた。

【ねらい】

自然に興味を持ち、物の大切さを考え、子ども達が楽しめるエコな活動を行う。

みなみだいり保育園

【心掛けたこと】

- ・環境学習の日を1歳児～5歳児まで設定して、年齢に応じた活動を遊びながら、わかりやすく伝える。
- ・行事に関連付けた取り組みを工夫する。

川をきれいにして(1～5歳児)

ベルウッドくんから葉っぱのお手紙が届きました。「ぼくの住んでいるベルウッド川がごみだらけだよ。たすけてー!」



ベルウッドくん



ベルウッド川

魚釣りをしながら、ごみを見つけたよ

川のごみを拾ってきれいになったね

土作りから野菜の収穫へ(4,5歳児)

野菜のくずを細かくします!



細かくした野菜くずを土に入れます!



ぼかし肥料を入れて、元気な土作り



大きな大根が取れました!



【考察】

環境学習の活動日には、水を大切に、電気を大切に、物の扱い方などテーマごとのキャラクターが子ども達を喜ばせてくれエコな活動の活力となっている。特に野菜づくりでは、土づくり体験から、種まき、野菜の収穫、調理して味わう経験を通して、興味関心、愛着を感じ、子ども達は、次の土づくりや野菜づくりを楽しみにしている様子が見られている。自分達が育てた野菜を残さず食べようと食への意欲も育ち、食育への架け橋となっている。1年間の終了日には、エコ免許をもらえ、頑張った子ども達の意欲へと繋がっている。小さなころから自然豊かな保育園での実体験が五感を育て、遊びながら心と体を元気に育ててくれていると感じている。



エコロジーとは、「環境や自然に優しい」という意味でつかわれています。身近な素材を使って子どもたちとエコについて学べるのは良いですね。

環境を整える大切さ

4歳児

もぐさ台保育園

【子どもの姿、思い】

周囲の刺激が入りやすく、落ち着いて生活することが難しい。友達にちょっかいを出すことも多く、最初は楽しく遊んでいたが、食事をしたりしていてもトラブルに発展してしまう。

そのため、日頃から注意をされ、自己肯定感が低く、ふてくされてしまうことも多い。また、「できない」「わからない」と口にすることが多く、クラスの活動に消極的であった。

【ねらい・意図】

落ち着いて過ごすことのできる環境の下、友達と一緒に楽しく過ごしていく。

【心掛けたこと】

- ・A君の自信を高めていくためにも、注意する回数を減らし、できた所を褒めて認める言葉掛けをした。
- ・「友達のことが好き」というA君の気持ちを汲み、無理のない範囲で一緒に過ごせることを優先して環境設定を考えてきた。
- ・関わる職員が共通認識を持ち同じ対応をするようにした。

先生、プニプニ貸して！

スクイーズ
ボール



これを触っていると
落ち着くんだよ

机は別だけど、みんなと一緒。
食べることに集中できるよ。



【環境の工夫】

- ・椅子に座ると体が動いて友達にちょっかいをだすため、傍に保育士がついて背中や肩をマッサージをして落ち着かせた。また、担任の話を集中して聞けるように、掌に握ると柔らかく心地よい感触のスクイーズのボールを持つことを提案した。A君自ら、持ちたいと言ってくる場面もでてきた。
- ・食事の際、同じ机にいる友達の刺激が入りふざけたり、手で食べたり食べこぼしたりする。その都度、友達が不快な気持ちを訴えてくるが多かったため、A君用の机を友達の座る机の前に置いた。一緒に食べる楽しさを感じながらも、本児専用の落ち着くことのできる空間を作った。
- ・集中できる時間は短いので具体的に短くわかりやすく話すようにした。

※スクイーズ=柔らかく、フワフワした触り心地のおもちゃ

【考察】

マッサージをすると人の手の温かみが伝わったり、一定のリズムで撫でてもらったりすることで心地よい刺激が入り、安心して落ち着くことができていた。また、スクイーズを手にとると、その感触を手先で楽しむことに集中することができ、落ち着いて過ごすことができた。周囲の刺激に気をとられる回数も少なくなり、本児なりに聞こうとする姿勢が見られるようになった。

友達と一緒にすごしたいという気持ちを大切に、他児の机と本児の机を対面に並べて距離をとりつつも同じ空間に配置したことにより、疎外感を感じる事なく、落ち着いて過ごせている。注意される回数が減り、自己肯定感が少しずつ高くなり、楽しく過ごす姿が見られるようになった。また、気持ちが安定することで「できないから」「わからないから」やらないのではなく、少しでも頑張って取り組もうとする姿が見られるようになってきた。



その子その子に合った心地良さや良い刺激を見つけ、褒め、認めて自己肯定感を高めていきましょう。その為にも、良い環境を提供することが大切です。

固定の保育士が核となり、みんなで育む

3歳児

子どもの森あさかわ保育園

【子どもの姿】

◆入園時の情報

- ・A君はこれまで保育園の経験はなく、言葉を発することが少なかった。
- ・新しい環境に慣れるのに時間がかかっていた。



【ねらい・意図】

- ・職員間で子どもの情報を共有し、環境に慣れていけるよう保護者、子どもに丁寧に関わることを確認する。
- ・発語の促しやコミュニケーションが取れるようになる為に援助や配慮をしていく。



【心掛けたこと】

- ・興味を示した遊びや活動の場面などでは、たくさん話しかけて語彙を増やしていく。
- ・無理強いしない。
- ・興味があることには保育士も一緒に関わる。
- ・できることが増えた時には一緒に喜んだり、友達と上手に関われなかった時には悲しんだり気持ちに共感し、表情豊かに接していく。



【保育の経緯】

新しい環境に慣れるまでに時間がかかった。担当保育士が寄り添い、思いを汲んでいくことで少しずつ保育園の生活に慣れていった。保護者から好きなおもちゃを聞き、友だちや担任、異年齢児と関わる時間も増え、楽しんでいる様子や笑顔が増えていった。集団生活の中で語彙も増えていき「やらない」「いらない」「いいよ」「おもしろい」など簡単な言葉で気持ちを表すようになった。

半年が経ち、運動会や発表会など大勢の人の前に出ることはまだ難しいが、パズルや絵本、車など好きなもの、好きな遊びを見つけ担当保育士が見守ることがなくても、友だちと関わったり、遊んだりできるようになり笑顔もたくさん増えていった。

新しい活動やいつもと違う環境などでは、まだ不安な様子を見せるが、子どもたち、担当保育士、担任をはじめ全職員が声をかけ、気にかけて、出来たことを褒めていくことを繰り返すことでどんどん笑顔が増えている。

【考察】

初めは泣いてばかりで意思疎通が出来ず、働きかけに試行錯誤したが、ゆっくり関わることで少しずつコミュニケーションが取れるようになった。友達や保育士も話しかけたり、共感する中で成長を感じることができ、保育士の意識や保育園の環境の大切さを日々感じている。



集団生活の中で、たくさんの言語や感情に触れ、周囲に温かく見守られることで、安心して保育園生活に慣れていくことができますね。

みんなが心地よくつながるために

豊田保育園

【子どもの姿、

クラスの様子】

Aちゃんは自己主張が強く、遊びの中でも友だちと関わりを持つのが難しい。例えば、自分の遊びを邪魔されたり、遊びの中で友だちとイメージを共有できない場面になると、怒りが収まらなくなる。大きな声や独自の行動に周囲の子ども達も引きずられてしまい、結果クラス全体が落ち着かない状況になってしまう事がある。



【保育のねらい】

Aちゃんの良さを認めながら、友だちとの関わりを育てられるクラス運営を実現する方法を探り、Aちゃんを含めた穏やかなクラス運営を進める。

【心がけたこと、園の取り組み】

担任の申し出で、職員によるカンファレンスを実施する。Aちゃんの様子、クラスの様子、担任の悩み、それぞれを全員で共有する。他職員が関わった時のAちゃんの姿や、それぞれの経験談などを話し、方法等を探ってみる。担任は、カンファレンスで保育のヒントをもらい、実践してみた。

【保育の経緯】

■子ども達が落ち着いて好きな遊びを楽しむ

保育室内に遊びのコーナーを作り、子どもの声を聞きながらおもちゃを選び、子どもと準備する。小さな遊びのグループが出来る。

■Aちゃんと友だちの遊びを仲立ちする

遊びたいものや友だちを聞き一緒にグループに入る。同じ遊びを通して遊びの共有を感じられる様仲立ちする。

■コーナー作成後しばらくすると

それぞれが好きな遊びに集中できやすくなった様子で、クラス全体が落ち着いていった。担任は、気持ちに余裕を持ってAちゃんに接していく事が出来、Aちゃん自身も自分の遊びを邪魔されることが減ったことで、少しずつ友だちとの遊びを楽しめるようになっていった。

■担任をバックアップする

他職員が保育の場面により補助に入る時間を作り、子ども達への声掛けなどを実践する中、担任の気づきを引き出してみる。巡回相談で、アドバイスを受け職員全体の学びとする。



カンファレンスの様子



テーブルで遊びを分けてみる

子ども達が落ち着いて好きな遊びを楽しめるようにしたいし、Aちゃんにも友だちとの関係を楽しんでほしい。

【考察】

職員によるカンファレンス実施で得るものはとても大きく、保育のヒントを得、実践してみることで保育の振り返りが出来る。Aちゃんを含めた子ども達への配慮へとつながる。他職員と悩みが共有出来たことで、協力も得られ、担任の悩みも軽減する。担任の笑顔は、子ども達の笑顔につながり、保護者の安心の笑顔につながっていく。



担任が一人で悩まず、相談できる環境作りが大切ですね。職員みんなで悩みを共有し、解決に向けて取り組みましょう。

気になる子どもの対応について

たかはた台保育園

【大切にしていること】

担任以外の職員とも情報を共有し子どもの様子を把握し対応する

情報の聞き取りと参観

各クラスから気になる子どもをあげてもらい、その子どもについてファシリテーター（会議を円滑に進める役割を担う人）が聴き取りを行う。

その後、そのクラスにあまり関わることのない職員が、その子どもの参観を行う。参観後は、感想などを記入する。

園内カンファレンス

すべての参観が終了したら、園内カンファレンスを行う。

園内カンファレンスでは、ファシリテーターを中心に付箋を使用して会議を行う。

担任から気になる子どもの様子を話してもらい、次に、2～3人のグループに分かれて、その子どもの気になる行動を付箋に記入する。

記入した付箋を大きな紙に貼りながら、同じような内容の出来事をまとめていく。

集約

先程のグループで話し合いながら、気になる行動についての対応などを付箋に記入していき、これを大きな紙に貼りながら、グループごとに意見を発表する。

ファシリテーターが各グループから出された対応などを同じような内容ごとにまとめ、最後に担任の意見を聞き、今後の保育の進め方について、職員全員の共有ができる。

考察

職員全体で子どもの様子や発達などを共有することで、担任以外の職員とも関わりが広がり、朝夕保育の時間帯にも同じ対応ができる。また、保護者への対応も統一できるので信頼関係へ繋がっている。

【職員の声】

- ・子どものいろいろな行動に気づかされると共に、いろいろな保育の方法を学べる。
- ・カンファレンスの仕方を学ぶことができる。
- ・いろいろなクラスの担任が情報を共有することで、朝夕保育に活かせる。



みんなで情報を共有することで、子どもが安心して成長できる環境が整います。保護者も安心しますね。

食物アレルギー児の行事食や安全

日野駅前かわせみ保育園

【ねらい、意図】

アレルギー児自身（特に幼児）が自分が食べることができない食材を理解し、就学に向けて自己管理ができるようにしていく。

【保育の経緯、心掛けたこと】

献立を読み上げるなど聴覚情報の他に食器の色をかえるなど視覚情報も取り入れ、普通食とアレルギー食の差を明確にした。行事食では代替食でも楽しむ事ができるような工夫をしていたことで食べることが出来ないものがある中でも他児と一緒に食や伝統などに興味を持つことが出来た。保育士をはじめ、関わりのある大人（非常勤職員や実習生など）にも情報をしっかりと共有する。

食器は色をかえ、指定のお盆に載せてお盆ごとアレルギー児の席に配膳する。



節分おやつ
オニ蒸しパン



アレルギー児対応
オニおにぎり

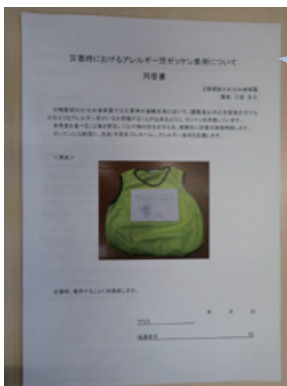
【考察】

食物アレルギー児だけでなく同じクラスの子どもたちにも食物アレルギーについてわかりやすく伝え理解してもらう事で『食物アレルギーがあることで食べられないものがある人もいる』ということを知る良い機会になる。

乳児では特定の保育者が担当するなどの取り組みをしている。

【園外での安全】

震災時など園外の避難場所へ移動した際、園で用意している非常食は全てアレルギー対応食にしているが、避難場所には様々な人が集まり支援が行われることもある為誤食提供などに繋がることないように避難時にはアレルギー児はゼッケンを着用している。



ゼッケンを着用するため、個人情報の保護を目的とする保護者からの同意書

園全体でアレルギーの理解を深めながら、アレルギー児も楽しく食事ができるよう、工夫をしていきましょう。



導尿の必要な子どもへの対応と保育

ひらやま保育園

【保育のねらい・意図】

- ・脂肪脊髄膜瘤において両下肢麻痺、膀胱機能障害により、導尿が必要である子どもの入園が決まる。導尿は医療行為にあたるため、看護師が常駐していない園であったことから、訪問看護ステーションを活用し、看護師派遣業務での対応となる。
- ・子どもにとっては初めての集団生活となるため、安全安心に園生活が送れるよう配慮する。

子どもの姿 思い

- ・2歳児クラスで入園 下肢以外は年齢相応の発達 明るい性格、友達が大好きで入園を楽しみにしていた様子であった。
- ・足に装具を付けている、立位はしないが膝立ちで移動する。

入園前

- ・入園前に保育課担当の看護師から病気や導尿について職員が学び、理解を深めた。
- ・膝立ちで移動できるスペースを確保し、室内環境を整えた。

保育の経緯

- ・本児独自の＜おたより帳＞や＜訪問看護の処置簿＞などを使って保護者との連絡のやり取りを毎日行っている。
- ・保育活動や行事などの参加方法をその都度確認し合い、本児に合わせた対応をしている（例えば運動会競技の参加の仕方など）
- ・友達には本児の装具は大切なものであることを伝えたり、本児にも装具が友達に当たったりしないように伝え 配慮している。

入園後

- ・下肢麻痺があるため安全に過ごしながらも、保育園の楽しさを味わえるようにしている。
- ・保育室内で安全に過ごせる場の確保、処置を行う場所は不安なく楽しい感じの雰囲気作りなど環境設定を進めてきた。
- ・緊急時の対応、災害時の避難経路などを職員間で確認している。
- ・職員間の情報共有の為の会議や保育課担当看護師と訪問看護ステーションを交えた会議を定期的に行っている。

【考 察】

- ・保護者との信頼関係と主管課・主管課担当看護師・訪問看護等 関係部署との連携が大切である。
- ・保護者との面談は園長・保育課担当看護師・担任で行い、引き続き情報共有や保護者支援を行っていく必要がある。
- ・安心安全に過ごし、保育を進めるために、安全管理や衛生面の配慮を励行した。
- ・医療的ケア児の受け入れは初めてのことであるが、病気について職員が学び、専門的な知識を身につけながら、本児にとってより良い成長を園全体で支えていく意識をもつことが大切である。



全職員と、関係機関と連携し、信頼関係をより深めていくことが大切ですね。

I 型糖尿病を持つ子どもへの理解と保育

日野保育園

【ねらい・意図】

I 型糖尿病という病気を理解し、保育の中で配慮することを知り、
保護者・かかりつけ医・保育園と連携を取り保育する。

子どもの姿

2歳児クラスに入園した。常にポンプを腰に付けたポーチに入れて身に付けており、そこからインスリンが注入されていた。活発ではあったが入園当初は低血糖で休むことが多かった。5歳児になると子ども自身が病気の理解をしており、職員の見守る中血糖値測定を行えるようになった。ポンプの操作も保護者に電話(スピーカー)で指示を仰ぎ、自身で操作できるようになった。(着脱は看護師が行う)

心掛けたこと

活動内容によっては低血糖になることもあるので、事前に一週間の予定を保護者に渡し、登園前の血糖管理をお願いした。活動中に低血糖になった時はポンプのアラームが鳴り、活動を中断しなければいけなかったり、別の部屋で補食を取ったり、時間によっては給食を血糖値の上がりやすい物から食べたりするため本見の思いとは異なる行動になることもあった。そのため本見の気持ちに寄り添い関わっていった。

保育の経緯

入園決定後、園長・看護師・クラスリーダーがかかりつけの病院まで行き、病気について園での生活で気をつけていくことなど聞き、**ポンプの操作は医療行為**に当たるなど全職員に周知した。ポンプを付けたまま過ごすため他児に触らないよう伝えた。本見自身が自分の病気について理解していったので、体の状態を言葉で伝えられるようになった。

【考察】

何より、保護者との連携を密にしていた。保護者が不安に思っていた集団での生活や他児との関わりについても、保護者会で保護者や子どもたちに向けて保護者が作成したパネルシアターで病気の症状や周囲の配慮事項について行い、理解してもらうことで、保育園での生活が安心・安全に過ごせるようにしていった。また、**病気を持っているからと活動を制限することなく**クラスの一員として過ごせるようにできることを考えていった。血糖値測定やポンプの操作は本見自身でも行っていたので、就学してから変わらず生活できるように小学校や学童とも連携をとっていった。



【I 型糖尿病について】

I 型糖尿病とは、主に自己免疫によっておこる病気です。

自分の体の中でインスリンを作ることが出来なくなってしまう、インスリンがないとブドウ糖(グルコース)を細胞に取り込む事が出来ず、高血糖になってしまいます。そのため I 型糖尿病では、インスリン分泌を補うために自分自身で血糖値を測定し、インスリン注射を行う必要があります。注射の方法としては、頻回にインスリンを自己注射を行うか、携帯型のインスリンポンプを用いてインスリンを持続的に注入する方法で行います。

II 型糖尿病のように食事療法によって治るような病気ではありません。

点滴・服薬を必要とする子のための環境づくり

5 歳児

わらべ日野市役所東保育園

【子どもの姿】

- ・入園前にデイサービス等の集団生活の経験があった為、保育士や友達とすぐに打ち解けることができ、安心して生活する姿が見られる。
- ・何でもやってみたくて意欲的であるが、思いと体が伴わないことも多く、悔しい気持ちを前面に出す姿が見られる。
- ・通院中であり、点滴や服薬が必要なことや友達とは違う給食を食べること等に対して、ある程度納得している様子が見られる。

【ねらい・意図】

- ・友達との触れ合いを楽しみ充実した保育園生活を送る。
- ・服薬や点滴をしながら登園する中でも、できることから自分の身の回りのことを積極的にを行い、健康で安全に過ごす。

【心掛けたこと】

- ・本児のことを全職員で情報共有した。また、クラスの友達にも説明し、点滴や、服薬、食べられない食材があっても決して特別ではなく、皆で仲良く過ごせるように伝えた。
- ・点滴リュックを置くカゴや手洗い場の台などの必要物品をそろえ環境を工夫し、できるだけ友達と同じ経験ができるようにした。
- ・すべてを手伝うのではなく、自分で気づいたりやってみたくて気持ちを大切にしたりしながら見守るようにした。

【保育の経緯】

- ・クラスの子どもも本児への理解を少しずつ深めていった。保育中にアラームが鳴っても気づいた子どもからすぐに保育士に伝えられる雰囲気がクラスにできていった。
- ・活動中に服用しなければならない回数も多かったが、準備したものを自分で上手に服用できるようになった。
- ・食べられない食材については保護者と確認しながら提供した。就学に向けて、自分で除去する練習も積極的に行っていた。
- ・日々の様子などを保護者に伝え、保護者と共に体調には十分注意していった。
- ・自分で自分のことを守る気持ちが芽生え、難しいことがあっても前向きにとらえ積極的に多くのことに挑戦できるようになっていった。

【考察】

点滴をしながら登園する子どもの受入れは初めてだったが、保護者そして全職員との連携を密に行い、本児とその保護者も共に安心して保育園生活を送れるよう努めた。クラスの友達も、本児の点滴や服薬が必要であることを理解し、だからと言って特別ではなく、皆と同じ友達といつかかわりを持って過ごすことができていた。給食は友達とは違ったものであっても、保育士も同じ机に着き、皆と一緒に会話を楽しみながら食べることができていた。就学に向けて、小学校教員が子どもの様子を見に来るなど連携を取った。



医療的ケア児が安心して保育園生活を送れるよう、クラスの子どもも点滴や服薬について理解することで、皆同じ友達という意識を持って関われますね。

廊下の曲がり角

日野保育園

【子どもの姿、思い】

トイレが部屋にないので、個々にトイレに行く、行き帰りでトイレ前の角でぶつかる姿があった。幼児クラスの給食の時間と重なると大人が運ぶ食缶にぶつかることもあった。

【ねらい・意図】

幼児クラスの子がトイレに行く際、曲がり角でぶつかり怪我をすることがあったため、対応方法を考える。

【心掛けたこと】

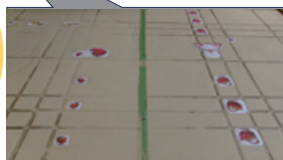
大きな事故(怪我)になる前に会議で話し合い、廊下の中央に線を引き、行き帰りの道を作った。ただの線だけだと、わかりづらいので、動物の足型で向かう方向を印した。



動物の足跡をたどって行けば、他の子とぶつかることはないよ。今回は、だるまさんの上を歩くようにしたよ。



子どもたちに伝える際、保育士が先頭を歩き、絵本のセリフを言いながら歩く場所を伝えるようにした。すると、子どもたちだけで行くときにも「だるまさんと…」と楽しそうに声にだして歩いていました。



【保育の経緯】

子どもたちがトイレに行く際、保育士がその都度ついていくことができず、歩いていくようにと声を掛けていた。それでも、遊んでしまう姿があり怪我につながっていた。廊下に線を引くことで歩く場所が分かり易くなったので角でぶつかるということがなくなった。また、足型やキャラクターを貼ることで子どもたちはその上を辿り楽しんで歩く姿もあった。

もうお友達とぶつからないよ。



【考察】

角でぶつかって怪我をすることも多かったので、クラス単位でトイレに行っていたこともあった。しかし、トイレの数やトイレを済ませた子の待つ時間などを考えた時に、どうしたら安全に行き帰ることができるか話し合いを行い、廊下に線を引きということになった。床に貼った動物の足型なども見慣れてくると子どもたちは違うところを歩くようになるので、定期的に変えるようにする。



子どもの目線に立って物的環境を整えることは、事故の未然防止にとっても大切なことですね。

整えられた清潔な環境を用意する

ひよこハウス豊田

【子どもの姿・思い】

室内を分けたことで、活動エリアで遊んだ後「お食事」の声かけをすると手洗い後、自分から食事エリアの自分の席に座り食べる姿があった。また食後も睡眠エリアの自分の布団に行き、横になる姿があったり見通しをもって移動したりしていた。

【ねらい・意図】

- ・運動の欲求をしっかり満たすことのできる遊空間をつくる。
- ・室内をエリアに分けることで、そこで何をするか決め、またどこで何をするか決めることで子ども達が安心して過ごすことができるように、そして物的環境に対して「ここが好き」という基本的な信頼がもてる空間作りをしていく。

【心掛けたこと】

- ・子どもの発達や自立に合わせ遊具や教材を定期的に入れ替えをして知的探求心を深められるようにした。
- ・目的に応じて、連続性を保ちながら子どもの発達段階に応じて設定を変えていった。
- ・自立の意欲に応える空間作りを行った。



睡眠エリア

食事エリア

活動エリア

（乳児保育室）

食事・排泄・睡眠・遊びなど一人ひとりの欲求に応えることのできる環境



（幼児保育室）

縦割りクラスの中で、年少が無理なくスムーズに異年齢に溶け込んでいけるように、遊具棚や遊具の配置をする



（棚の中の遊具）



【保育の経緯】

各年齢の運動発達をしっかりとえ、食事などの生活や、基本的運動・指先の基本運動など、1人1人の観察をして、自立を促し（基本的生活習慣の自立も含め）遊具の提供をして、知的探究心を深めることができた。文字の習得や数の概念については、3才児から興味をもち始めた。5才児においては就学へとつなげることができた。観察をすることで、遊具・教具の難易度を変えて設定した。

【考察】

子どもの姿を観察し支えていく為に、どのような配慮が必要かを話し合い、保育者の関り方をその都度検討しあう。保育者の世話の仕方・言葉かけ・仕事の観察の仕方など方向性を同じにすることで、子どもは見通しをもって行動することができた。生活や遊びの中で、困っている時、不安を感じている時に「どうしました・お手伝いすることはありますか」と「お手伝いしてほしい時は言ってくださいね」と、言葉かけをしていき、1人1人自信をもって自分が出来ることが多くなり、遊びの面でも、完成を喜び子ども達は満足感を味わう。



保育環境を整えることで、子どもが主体的に生活できるようになりますね。

子どもが自由に玩具を選べる環境 1・2歳児

マジオたんば保育園日野ルーム

【子どもの姿、思い】

これまではコーナー保育として、保育士が玩具を選んでいた。遊びに飽きた子たちは走りまわっていた。

【ねらい・意図】

子どもの意思を尊重するという視点から、子ども自身がその時に遊びたい玩具で遊べるようにする。

【心掛けたこと】

- ・カゴは柔らかい生地のものを使用する事やテプラを貼り、子どもが片付けの場所が分かるように工夫している。
- ・下段はその時の子どもの興味のあるものを配置し、上段は子どもの要求に応じて取り出す。

おまごとのキッチン台等、カゴに入らない大きな玩具は、押し入れの中に入っている為、使いたいときに子どもたちが、保育士に声を掛けて出してもらっています。



【保育の経緯】

好きな玩具で遊べる楽しみから「今日は〇〇で遊ぶ!」と身支度を頑張ったり、遊びを通して子ども同士の関わりが増えたように感じる。

【考察】

子どもが自分自身で玩具を選び遊ぶことで、満足感を得ながら過ごすことが出来る。現在はラベルのみで場所を示しているが、今後は一目で分かるよう玩具の写真を貼るようにしたいと思っている。また、棚から少し出して遊ぶ子や玩具棚周辺に玩具や子どもが集まりやすくトラブルもあるので、コーナー遊びができる環境が必要と考える。



使いやすいね。



自分でおもちゃを出して遊べる環境作りは、子どもの主体性を育てますね。楽しく遊ぶ姿が想像できます。

丁寧に関わることにこだわる

豊田保育園

豊田保育園は、1歳児からの保育園です。

毎年4月には1歳児16名が入園してきます。そのほとんどが、ご家庭から初めて保育園に入園し集団を経験する子どもです。

年度の初めはひときわ大きな泣き声が1歳児室から聞こえて来ます。初めての環境での不安は痛いほど伝わります。そのつづらなひとみが「誰がだっしてくれるの～」と訴えているようです。

また、この年齢はかみつき・ひっかきなども多いだけに丁寧に関わりが求められます。

1歳児は月齢の差が大きく、すてによちよちと探索を楽しみ、何やらおしゃべりする子どもから、ハイハイでの移動や、まだ午前中に睡眠が必要な子どもなど、成長や生活時間もまちまちです。そこで、豊田保育園では、1歳児の保育室を区切り8名ずつのグループ保育を行っています。

自園では、保育士の配置は子ども4人に対し保育士1人を配置し、8:2としています。区切った保育室は決して広くはありませんが、区切られたことで保育士は子どもの様子や変化に気づきやすくなり、4人掛けテーブルに保育士1名で食事介助が来ています。その子に向かってしっかり声を届けることにもつながっています。また、入園前面談では、保護者より家庭での生活リズムや食事・午睡等の様子を伺います。そこで聞き取った家庭での生活リズムに合わせて、園生活をスタートします。個々の生活リズムに合わせて午前睡を行い、おむつが濡れたら交換していきながら、無理なく園生活に慣れるように整えていきます。園に慣れ笑顔を沢山見せてくれるようになったら、お互いに刺激し合いながらお隣のグループとも交流し遊びを広げます。

2歳児クラスへの移行を踏まえ、2歳児クラスの4月の様子（新入児を迎えることで1グループの人数が増える/新入児は園に慣れるまで援助が必要/進級児は自分でしようとする気持ちがある、など）を職員間で情報交換し、1歳児クラスの3月末に目指す姿として保育計画を立て、保育をすすめます。

1歳児の小さな集団（グループ）で進める保育の体制は、保育園運営のこだわりとして継続し、子ども達との関わりを丁寧に築いて行きたいです。



初めての保育園生活を過ごす1歳児にとって、より安心して過ごせる配慮として、丁寧に声を掛けやすく、目を配りやすい小グループでの体制が安心して過ごせる環境となっていますね。

自分たちの生活を自分たちで作る

3・4・5歳児グループ

栄光保育園

【子どもの姿】

3・4歳児は、年長児が太鼓を叩く姿や荒馬踊りを踊る姿を見て、大きな憧れを抱き、真似をして遊びたいと、年長児の輪に入って遊ぶ姿がある。年長児は、年下の子達のお世話を喜んでする姿がある。

【ねらい・意図】

- ・子ども同士で役割分担をしながら生活の流れを把握し、基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・生活や遊びの決まりを友だちと一緒に話し合いの中で作り、守る。
- ・年長児に憧れの気持ちを持つ。
- ・年下の子どもの面倒を見ながら労りの気持ちを持ち、誇りと喜びを感じる。
- ・異年齢で生活する事を通して、社会性や協調性、思いやりの気持ちを育む。

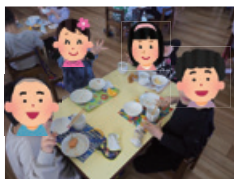
【心掛けたこと】

- ・保育士も一緒に生活しながら、子ども同士の関わりを様々な立場で見守り、援助する。
- ・各年齢の成長段階を踏まえた多様な活動を用意する。

【みんなの憧れ!和太鼓を叩く年長児】



【異年齢で給食を食べる子ども達】



年長さんのぶち合わせ太鼓、僕も・私もあんな風にかっこよく叩きたいな〜!

お兄さん・お姉さんの姿を真似していたら、上手にご飯が食べられるようになったよ!

【保育の経緯】

近年では少子化の影響もあり、きょうだいや異年齢での交流が少なくなってきた。そのような背景から幼児を異年齢2グループに分け、生活や活動を共にしている。グループ内では異年齢の8つのチームを作り、年長児がリーダーとなってチーム内をまとめている。思いがぶつかり合うこともある中で様々な考えを知り、認め合い、優しさや思いやり・社会性や協調性を育てているように心がけている。

子ども達の気持ちが通じ合えるような仲立ちをしています。



【考察】

年長児は、年下の子どものお世話を経験しながら、相手の気持ちになって考えたり、人の役に立てた経験が自信に繋がったりしている。また、年下の子ども達は、自分がお世話をされた経験が、今度は自分もお世話をしてあげたいという気持ちに繋がっている。異年齢で支え合い、教え合いながら、「自分たちの生活を自分たちで作る」というねらいに結びついている。

年齢を超えた思いやりの気持ちが育っていることを感じます。



異年齢交流を通して、自然に助け合う気持ちや憧れる気持ちが育っていますね。



担任編成・子どもへの働きかけ

至誠いしだ保育園

【ねらい・意図】

- ・保育の環境の調整:物質的環境の調整とともに、人的環境を整える。
- ・保育の質の向上と職員定着。
- ・クラス編成、担任数の変更による成長発達に合わせた教育、保育と、横割り、縦割り活動の良さを活かした保育の実践。

子どもの姿

【横割り保育は・・・】

- ・横並び一斉保育になりがち、活動は平均的になり個々の子どもの成長発達に合わせにくい。
- ・1クラスの園児数が多く、一斉に動かすのは担当者の負担が大きい場合もある。
- ・担当を複数置いても混乱することがある。

【縦割り保育は・・・】

- ・個々の子どもの成長発達に合わせやすい。個別の活動も始めた。
- ・1クラスの園児数が少なく担当者の負担が小さいことも多い。
- ・成長発達に合わせた担当者により子どもの自発的な活動を認めながら楽しむことができている。

心掛けたこと

- ・子どもの姿、職員の成熟度に合わせ、事業計画、環境整備の予算を立てた。
- ・クラス編成は複数年をかけ、徐々に変更していった。
- ・担任編成は、縦割り、横割り担当のほか、1階、2階のフロア担当、個別活動の担当を配置している。
- ・職員のキャパシティに合わせて大小の集団、目的を持った集団など様々な視点から担当することで相互的補完をすすめ、支えあう関係を構築している。
- ・担当を分散、役割に応じて任命することで、担当と業務の範囲を明確化し、負担と責任の集中を回避している。

保育の経緯

- ・各クラスに室長(クラスの主担当)と副担当をおき、それぞれ他クラス混合の横割り活動を分担する。
- ・年齢児だけでなく、およそ0歳、1・2歳、3から5歳を3つのグループに分け、それぞれ子どもの成長発達に合わせて集団、個別の活動をしている。
- ・集団活動が不得手な子ども、成長発達に配慮が必要な子どもの計画的なスポット活動を、2~3名のグループ活動として実施している。

【考察】

現在までに設備の整備を進め、縦割り保育を中心に、活動の自由選択を維持しつつ、クラスを増やしたため、担当する職員数は増え、1クラスの園児数が少なくなった。

子どもの個別活動を主に、成長発達に合わせた教育、保育と、横割り、縦割り活動の良さを活かした保育は、いきいきとした子どもの姿、保育活動の向上がみられている。

今後も年齢による横割り活動から成長に合わせた活動を展開したい。



保育の形態は、子どもの成長、発達に合わせて考えていくことでメリットが見出せますね。縦割り保育など多様な保育形態から得られる子どもにとってのメリットを、職員が意識しながら生活することが大切です。

学童交流

5歳児 | 2月

つくしんぼ保育園

【子どもの姿、思い】

卒園後、入学前から学童クラブを利用する子どもが多い。

期待感を持つ子どもがいる一方で、慣れない環境で1日を過ごすことに対し不安を感じている子どもがいる。

【ねらい・意図】

就学に向け、学校だけでなく、子どもにとって身近な存在になるであろう学童クラブについて、知る機会を設ける。学童はどんなところか、何をするのか、などを体験したり、学童職員と交流することで、利用することを楽しみにしたり不安の軽減につなげる。

【心掛けたこと】

学童クラブは楽しいところだと感じ安心できるように交流を計画する。不安を感じている様子の子の中には、そばについて安心して交流に参加できるようにした。

学童の中がどうなっているのか
わかった!

遊ぶものがたくさん
あって、学童に行くの
が楽しになった。

先生たちが優しくて
おもしろい。



【保育の経緯】

- ・学童クラブの職員と事前に打ち合せし、流れを確認する。
- ・保育園から学童まで徒歩で行くため、踏切や横断歩道の渡り方など改めて交通ルールを学ぶ機会にもなった。
- ・交流では紙芝居で学童での過ごし方を聞いたり、実際にトイレを使わせてもらったりした。本やおもちゃなど様々な遊びがあることやおやつが出ることに子どもも喜んでた。

【考察】

学校が始まる前にスタートする学童生活。「どうやって行くの?」「どんなことをするのか?」と未知の世界に不安を感じていた子どもも交流後には、「学童って保育園みたい!」「おやつも楽しみ」と期待に変わったようだった。体験を通して知ることによって具体的にイメージができ、不安の軽減に繋がったのだと感じた。また、職員同士で子どもの姿の共有をする時間があり、卒園児の様子を聞くことができた。

帰園後、子ども達に感想を聞き、どこの学童にも優しい先生やお兄さんお姉さんがいること、たくさん遊べることを話しました。



就学前に交流を持つ経験から得られた安心感や自信は、新たな世界に踏み出す力になっていますね。

小学校ってこんなところだよ

5歳児2月

日野第二保育園

【子どもの姿、思い】

保育園で小学校の話題が出たり、家庭で就学の準備を進めていく中で、小学生になる期待を持つ子もいれば、新しい環境に対して不安を感じる子もいる。

【ねらい・意図】

交流経験を通して、小学校への親しみをもち、就学への不安を取り除く。



実際に椅子に座って授業を受けたよ！

お兄さん・お姉さんと一緒に校庭で遊んだり、トイレを案内してもらったりし、笑顔で授業を受けていました。

保育園という安心出来る空間の中で授業の楽しさを感じていました。

小学校体験(上記写真)
出前授業(下記写真)



百玉そろばんを使って
「かずあそび」



太鼓を使って
「ことばあそび」

出来る事が楽しい！
嬉しい！

【心掛けたこと】

就学前に小学校がどんなところか、保育園との違いを見つけて、興味が持てるように話をしていく。

【保育の経緯】

近隣の小学校の先生と就学に向けて期待を持てるような交流を行えるよう、連絡をとった。子どもたちから実際に小学校の何が知りたいのかを聞き、トイレや校舎内、校庭を案内してもらえるようにした。

【考察】

小学校体験をしたり、小学校の先生が保育園に来てくれる出前授業を経験したりし「楽しかった」「早く小学校に行きたい」という前向きな気持ちになっていた。



就学前に道路の歩き方を再確認しています。困った時に助けてくれる「ピーぷくの家」を伝えています。



小学校との交流や出前授業などの体験を通して、就学に向けた期待感や学校生活に向けたイメージを持つことが出来ますね。

ゼロからのスタートじゃない！

幼児教育・保育アドバイザー

【スタート カリキュラム】

【一律一斉から 多様な学びへ】

均質な子どもたちで成り立っている集団であれば、指導者は、計画通りに、容易に学習を進めていくことができる。そのために、小学校はイスに長い時間座ることなどの学習規律や名前の読み書きや数の理解などの前倒しを求めていた。

今は、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれたことが、各教科等における学習に円滑に接続されることが大事であり、均質から多様へと、今後も幼保小連携の実践を重ねていく必要がある。

- ・できないことは無理に早く始めない
- ・できることは教え込まずにどんどん進める



初めての給食当番
時間をかけてゆくりと

(日野市立日野第一小学校)

遊びを通してたくさん
春をみつけよう

【様々な姿を示す子どもたち】

多様な子どもがいるなかで生活した経験のある子どもが、20年後大人になって、多様性を理解し尊重することの重要性を発信していこう。保育者はそのために、一人一人の幼児の特性を丁寧に見取り、適当な環境を整え、遊びを通して教育を進めている。かつてのように小学校の先取り、前倒しの必要はない。長い時間座れなくても、平仮名が書けなくても読めなくても、小学校生活のスタートに影響はない。

今、多様な子どもと苦労の毎日を送っていても、20年後の社会に必ず返ってくると信じて、特性に応じた質の高い保育をめざそう。



がっこうたんけんの
はっぴょうをしよう

(日野市立日野第一小学校)

幼児教育・保育アドバイザーからのメッセージ

小学校では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫して、学校生活をスタートさせています。幼児教育施設では幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、日々遊びに没頭する保育を心がけてください。小学校のスタートは決して「ゼロからのスタート」ではありません。

就学に向けて、特別なことはやらなくていいんだよという小学校からのメッセージは、子ども達も、保護者そして保育者にとっても不安を拭ってくれますね。



太鼓で育む人とつながる力

5歳児

栄光平山台保育園

【子どもの姿、思い】

創立以来、和太鼓に触れてきていて、5歳児になると「荒馬踊り」「ぶち合わせ太鼓」を行事で披露している。日野市の「平山季重まつり」でも披露する機会をもらい、姉妹園で共通の目標に向かって合同練習を楽しんでいる。

【ねらい・意図】

姉妹園の子どもたちとの交流により、人とつながる力を育むことができるよう、お互いの園を行き来し名前を覚えたり声を掛け合う。

【心掛けたこと】

姉妹園が連携し、それらの機会づくりを充実させていくことが必要と考え、「ぶち合わせ太鼓」を何よりも楽しみ、無理のないように、進めていく工夫をした。



【保育の経緯】

ぶち合わせ太鼓だけでなく、運動会では「荒馬踊り」を両園ともオーニグで保護者に披露し、職員もその方よりワークシッのオアをいただき直ぐに姉妹園へ声を掛け、合同でワークシッを楽しむ事となる。



平山季重まつり

【考察】

法人間で連携を図り、事前に子ども達がより楽しめる内容の確認やグー編成などを話し合い、子ども達が主体的に楽しむことが出来ている。今回は、4歳児も参加し、来年度へ繋げることが出来た。



ワークショップ



みんなが同じ目標に向かって頑張ることで、子ども達の絆が深まる法人内交流の一例です。それぞれの園で取り組める、他園との交流を考えてみましょう。

年長児交流会

しせい太陽の子保育園

【子どもの姿、思い】

卒園するとそれぞれ違う小学校へ入学する子どもたち。今までの保育園という小さな集団から小学校という大きな集団に環境が変わることでも不安を感じる子どももいる。

【ねらい・意図】

同法人の6園の年長児同士が交流することで、新しい友達と出会う喜び、楽しさを感じ、就学に不安を感じている子ども楽しみに思えるようになる。

【心掛けたこと】

「じゃんけん列車」では同じ園の子ではなく違う園の子とじゃんけんするよう声掛けをし、なるべく他園の子どもと関わりが持てるよう配慮した。

【保育の経緯】

就学を来年に控えた年末、行事などがない時期として12月を選んだ。

はじめは同じ園の子ども同士固まる姿も見られたが、徐々に他園の子どもにも興味関心を持ち、自然に会話が始まったり、関わる姿が見られた。



まずは各園の自己紹介とあいさつで始めました

じゃんけん列車でいろいろなお友達とじゃんけんぼん!



【考察】

子ども同士が新しく関わりを持てるようじゃんけん列車を行い、だいぶ場がなごやかになった。また同じ就学先の子どものグループでお弁当を食べることで更に交流を深めることができた。初めて出会った子ども同士が楽しそうに遊ぶ姿を見て子どもの順応性に驚かされた。今後、就学先が少人数の子はどうするか課題は残る。

同じ就学先のお友達とお弁当を食べて仲良くなりました



就学前に同じ就学先の子とも同士で交流が持てる機会を作ること、就学に対しての不安が少しでも軽減されることでしょう。

保育園と幼稚園の初めての交流会

5歳児5月

あさひがおか保育園

【子どもの姿】

年長児として、クラスの友だちと意欲的に生活する姿が見られる。年長になったら隣の第七幼稚園の友だちと交流することを担任から聞いており、楽しみに待つ姿が見られる。

【ねらい・意図】

- 同じ地域に住む同年代の友だちと一緒に活動したり遊んだりすることを通して親しみの気持ちをもつ。
- つながりを深めていきながら就学に期待が持てるようにしていく。

【心掛けたこと】

顔合わせの時に両園で親しんでいるダンスをすることで、緊張をほぐし、一緒に楽しめるようにした。

幼稚園児と、お互いの園内見学を行うことで、幼・保の施設を知ったり、友だちに親しみが持てるようにした。

また、見学や遊びの場面では自主性を尊重し、子ども同士の関わりを見守るように進めていった。

みんなが知ってるダンスだから一緒に盛り上がったね♪



「ここは給食室だよ！
保育園の給食はおいしいよ！」

ドッジボールのルールが
分からないお友だちには
私たちが教えるよ！



【保育の経緯】

最初はホールに集まり、職員紹介やダンスをして触れ合った。幼稚園児と自己紹介を行った後、互いの園内を案内し、ポイントごとにカードにシールを貼り、園内を巡った。その後、ドッジボールや固定遊具など、好きな遊びを楽しみ、最後には「楽しかったね」「また遊ぼうね」と約束していた。

【考察】

最初は緊張したが、自分の園を積極的に案内したり、お互いの施設に興味をもったりする姿も見られるようになった。自由遊びでは、ドッジボールに幼稚園児を誘い、ルールを教えてあげながら、一緒に楽しんでいた。また、友だちの顔や名前を覚えたことで親しみをもち、次の交流会を楽しみにする姿が見られた。年に1、2回程度交流することを予定しており、交流会を重ねていくことで同じ小学校に行く友だちがいることを知り、就学にも期待が持てるようになると思われる。



幼稚園との交流で得られた関係を小学校生活に活かせることは、子ども達の不安の軽減になりますね。

日本の伝統行事「もちつき」への参加 2歳児

ひのめばえ保育園

【子どもの姿・思い】

1年が終わり、新しい年を迎える準備として「もちつき」行事が幼稚園であり参加させてもらうことになった。

使用する道具やもちつきの写真を見ることで期待を持っている子どもが多いと感じた。

【ねらい・意図】

＊もち米から餅になる変化を楽しむ。
＊寒さに負けず掛け声を楽しむ。
＊友達と協力して杵を持ち上げて協調性を育む。

【心掛けたこと】

＊通常とは異なった環境なので、不安な子へは寄り添い、無理強いはいしない。
＊導入として絵本や紙芝居で餅つきについて知らせた。
＊幼稚園児の様子を見せて期待を持たせた。



(もちつきの様子)

少し大きな園児たちの真似をしてお友だちと先生と『よいしょ!よいしょ!よいしょ!』と力強い掛け声でした。

【保育の経緯】

幼稚園に行くことに、期待が大きかった子どもたち。しかし到着すると緊張気味の様子であり、大勢の幼稚園児や男性職員に圧倒されたが、楽しそうで元気な掛け声に笑顔も徐々に見られた。もちがびよんと伸びる様子や餅をつく音に敏感に反応し楽しんでいった。帰るころには幼稚園の園児や職員にバイバイと元気に手を振る姿も見られた。

【考察】

日頃、幼稚園の前を通る度に、園児と挨拶や言葉を交わしている子どもたち。もちつき行事に参加させてもらう楽しさと、園内に入る楽しみで期待がすごく膨らんでいたものの、いざとなると緊張する子が多かった。しかし、年上の子のもちつきの様子を目から学んだかのように楽しんでいく変化が見られた。日頃活発に発言している子もおとなしかったが、帰園すると「楽しかった」と満足気な表情を見せていた。

小さいながらも、自分たちの場所でないことを感じたものの、絵本で見たもちつきを体験できた満足感と年上の園児とのふれあいで、幼稚園に親しみを感じたようだった。杵、うす、釜、せいろなど、普段目にしない道具も一通り見ることができ、後に絵本を見ながら振り返りもできた。

つきたての餅を皆で見ることはしたが、衛生上食べることはしなかった。



日本の伝統行事を体験して、絵本で見てきたお餅つきを実体験出来たことや、幼稚園との交流が出来たことは子どもたちにとって、良い経験となりましたね。

保育書類の書き方について

むこうじま保育園

【保育書類について】

保育書類は、全体的な計画から始まり、年間指導計画や月間指導計画、週間指導計画や個人案、連絡帳と多岐に渡る。

保育計画は子どもの姿を中心とした計画を立てる。計画を基準として、子どもの姿に即して柔軟に変えていくことが大切である。

保育指導計画 の役割

- ・ 保育理念や保育目標等に基づき、保育の内容が発達を踏まえて総合的に展開されるように作成された全体的な計画をもとに、具体的な保育が展開されるように、長期指導計画や短期指導計画を作成する。

作成の ポイント

- ・ 保育計画は、子どもの姿を中心として、全体的な計画や年間指導計画と照らし合わせながら作成する。どの計画も、子どもの実際の姿や変化に合わせ、柔軟に変えていくことが求められる。また、立案したら終わりなのではなく、※1 PDCAサイクルを確立し、適宜計画の見直しを行い、よりよいものへと改善を続けていくことが重要である。

子どもの姿を 捉えるために

- ・ 子どもの姿を捉えるためには、職員間のコミュニケーションを取ることが重要となる。日々の姿を職員同士で共有し、それらをもとに計画や記録を行っていくとよい。月案を作成する際や、保育日誌を記入する際に共有するとよい。
- ・ 子どもの姿は、10の姿から読み取ると、変化や成長がわかりやすい。記録の際も意識して書くといい。

お便り帳の 書き方について

- ・ お便り帳は、保護者とのコミュニケーションツールであったり、子育ての相談窓口になったりと役割は多い。
- ・ 記入の際は、①事実をわかりやすく②肯定的な表現で③決めつける書き方をせず④お願い事を書くときは理由を添えて⑤質問には温かく答える。上記五点を意識すると良い。

※1 【PDCAサイクル】



指導計画は、保育の方向性を明確にし、質の高い保育を実現するために不可欠なツールですね。計画を職員間で共有し、PDCAサイクルを上手に活用していきましょう。



ロールプレイにより関わり方を考え合う

ひらやま保育園

<事例の内容>

運動会リハーサルの日、3歳児クラス競技の入場が始まる際に担任が先頭にいる子どもの手首を引っ張りながら入場の誘導をしていたケース。

担任は…

誘導しないと!子どもを動かさない!
という思いが強く、とっさに引っ張ってしまった。

引っ張る行為については…

○腕の脱臼や怪我につながり危険な行為である

○第三者から見れば「引っ張っている」行為は**不適切な保育**にあたりかねない



でも…

○子どもの動きを促す時や誘導する時はどうしたらいいの?

○子どもの動きを止める時にはどうしたらいいの?

どのようにしたらいいか、ロールプレイで再現してみよう!

不安に感じないよう
手を必ず握ったり、見通し
がもてるよう声をかけたり
するのはどうかな…

やさしく肩に手を
置く感じはどうかし
ら…

フォークダンス式に両手で
援助するといいかも!



<考察>

- ・実際にロールプレイで再現すると、不適切な行為が捉えやすく、対応策も検討しやすかった。
- ・一人の担任だけの問題ではなく、職員みんなの問題であり、職員間で声をかけ合える風通しの良い職場を目指していく。
- ・自分の保育に対して振り返り、自身を評価することは大切であると共に、保育について助言し合えるカンファレンスの仕組みが保育の質の向上につながると思う。



声を掛けながら身体を優しく誘導することは、子どもの心にも伝わりやすいものです。

一人ひとりの気持ちを尊重

栄光豊田駅前保育園

【子どもの姿、思い】

月齢や個々の発達にバラつきがあり、言葉を上手に使うことで表情が豊かな子どもや自分の気持ちを素直に表現することが難しい子どももいる。

子どもの気持ちに寄り添い、尊重することで、気持ちの橋渡しをしたい。

【ねらい・意図】

子どもの気持ちに寄り添い、安心して園生活を経験できる。

【心掛けたこと】

個別的な視点で計画する必要があり、担任同士で連携を取り保育を心掛けた。

自分の気持ちを素直に表現することが難しい子どもとの接し方も、感情的にならないようにした。

【保育の経緯】

子どもたちが保育士に甘えてきたり、「○○だと思う」「△△がいいな」など自分の気持ちを表現できるようになり信頼関係が築けるようになる。そして、自己主張しながら、友達との繋がりを広げて行く。

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」で定期的に自己チェック

脅迫
強要

罰・乱暴

人格の
尊重

育ち・
家庭環境
の考慮

差別

密室で1対1にはならない。

呼び捨ては厳禁！

プライバシーを尊重した着替え

一緒に遊ぼう！

【考察】

一人ひとりが子どもの月齢や個々の発達や気持ちを理解し、接し方や言葉掛けに気をつけることで、子どもも保育士も笑顔で過ごせるようになった。子ども自身も自分を否定されないことで自己表現できるようになった。子どもの気持ちの尊重の大切さが改めてわかった。

子ども一人ひとりの気持ちを尊重することが基本です。言動の背後にある視点や感情、気持ちの理解を心掛けましょう。

施設内不適切保育・虐待防止対策としての取り組み

あおぞら東豊田保育園旭が丘分園

【ねらい・意図】

昨今の保育施設内での虐待事件等を受け、自園の保育内容の検討、見直しを、全職員と一緒に、また、外部よりアドバイザーの先生を招いて、相談しながら取り組んできた。

保育の経緯

「書類の量が多い」「会議が多い」「いつ自分の仕事ができるのか？」など、いろいろな面で職員の負担が多く、心身共に余裕なく働くことが不適切保育が起こる原因だと解釈した。自園でも、改善が必要なのはアドバイザーの先生からも資料などを頂き、見直し等の対応をした。

心掛けたこと

・子どもファーストを最優先に

子どもたちが「やりたい」「やってみたい」と思う事を優先したり、保育士が工夫したり、また、自由に子どもが好きなものを出し入れて遊べるように工夫したりしながら、子どもがより主体的に活動できるようにした。

取り組む中で、職員からも「こんなことできるんだ」「今までとは違う一面が見られた」などの声も聞くことができ、子どもたち一人一人の発達を違う視点から見る事が出来たことで、次の保育へ繋げることが出来ている。

取り組んだこと

・散歩に行くことを今まで以上に取り入れた

天気の良い日は、子どもたちと「今日は、どこの公園へ行こうか？」などと話をしながら楽しく出かけている。外でたくさん体を動かす事で、子どもたちも職員も気分が変わり、笑顔も多く見られ、「お腹すいた～」と給食も良く食べている。

そのような姿を見て職員も嬉しく思い、保育に一層自信を持ち、毎日楽しく保育を行っている。

・事務量の軽減を図る

書類の書き方を整理したことで、きちんと休憩も取れるようになった。現在は、残業もほぼなく、就業時間内で事務仕事を終わらせることが出来るようになり、職員の負担も軽減され、休憩時間には、たくさんの笑い声も聞こえている。

【考察】

子どもたちの心身の健康は第一に！

これからの保育を、より良いものに出来るように、職員間のコミュニケーションを大切に、また、日々の保育の振り返りを行い、不適切保育防止のために取り組み、職員の心身の健康も大事にしながら、保育をすることを常に心掛けている。



子どもファーストで、職員間のコミュニケーションや業務の改善を同時に図り、園の改革につなげることは大切です。振り返ることで保育が良くなっていきます。

外国籍の保護者からの苦情への対応

みさわ保育園

【子どもの姿、思い】

玩具を巡る衝突から配慮の必要な子どもが外国籍の子どもに噛みついてしまった。噛みついてしまった子どもは、言葉を十分に話すことができず、気持ちの切り替えもうまくできず、気持ちが荒ぶると即座に噛みついてしまう。外国籍の子どもは、滑らかに会話ができる。但し、気性が強く言葉がきつくなることが多い。

【ねらい・意図】
外国籍の保護者の理解を得るためにも、配慮が必要な子どもには、職員が常に傍につき、行為を未然に防ぐことに努める。

【心掛けたこと】

噛み傷を負ってしまった子どもへは、傷口を流水で洗い、冷やす等の対応を行なった。保護者には直接お会いして事の経緯を説明し、丁寧に事情を聞き、気持ちを受け止めた。また、噛みつきをした子どもの保護者にも同様に説明をした。

【保育の経緯】

外国籍の子どもの保護者には、日頃から子どもの様子を伝えたり、伝わりにくいことは、担任から説明したりと、コミュニケーションをとることに努め、理解を得られていた。

そのような良好な関係が保たれていたにも関わらず、噛まれた外国籍の子どもは、当初、園からの謝罪を受け入れず、自国の解決方法を提示してきた。(噛みついた子どもの保護者は、被害にあった子どもに対して謝罪をすること。また、金銭面を含む全責任を最後まで負うこと)しかし、時間をかけ丁寧に説明することで、納得し、理解を得ることができた。

外国籍の保護者には、わかりづらい表現に対し翻訳機を使用しました。

噛んだ子は、言葉を十分に話すことができず、気持ちが荒ぶると即座に噛みついてしまう状況を説明しました。

国によって、子育てのポイント等が違うということを知ることが出来ました。

しっかりと保護者の声を聞き取ることが出来ました。

【考察】

まだ子ども同士ではトラブルをうまく解決するのは難しいため、必ず保育士が全体把握を行ない、特に気になる子どもの動向には注意を払う必要がある。

トラブルが発生した際には、保護者にも経緯がわかるように、双方に丁寧な状況説明を行なうことが大切である。特に、文化の違いが不信感の原因となり得る外国籍の保護者とのやり取りは、言葉の選択に注意し、誤解を招かないような対応が必要と思われる。

国によって、文化や習慣や感覚が違ってても、丁寧な対応をし、子どもを思う気持ちを伝えることで解決出来ますね。

苦情解決で信頼関係を構築する

あおぞら東豊田保育園

【ねらい・意図】

保護者からの苦情や相談に対して、適切に対応し、
信頼関係を構築していく。

対応の仕組み

- ・ 苦情相談は随時受付（意見箱・ICT・電話等の対応）
- ・ 受付担当者（主任）が内容・要望の聞き取り
- ・ 苦情解決者（園長）が申立者と直接対応
- ・ 第三者委員への直接の相談・申立も可

心がけたこと

- ・ 苦情を受けたらすぐに対応し、保護者の不安を軽減させるよう努める。
- ・ 苦情に真摯に向き合い、申立者の話を理解するよう努める。
- ・ 対応の過程や結果を申立者に対して、透明に説明する。
- ・ 問題の原因を分析し、具体的な解決策を提案する。

職員間の情報共有

- ・ 苦情があったら時間を置かず、職員会議等で情報の共有と問題点を洗い出した。
- ・ 職員とヒアリングを行うことで情報の共有ができた。

保護者の声

- ・ 申立がしやすくなった。
- ・ すぐに対応してもらえ、有難かった。

職員の声

- ・ 保護者の思っていることが聞けたり、話す事で信頼関係が築けて良かった。
- ・ 改善できることは積極的に改善し、より良い保育の提供に努めたいと思った。
- ・ 自分一人で悩んでいるのではなく、職員みんなで共有してくれるので気持ちが楽になった。



苦情や相談は、園全体で対応の仕組みを共有し、適切に対応することで保護者との信頼関係を深められますね。

苦情の中に見つけた大切なヒント

よつぎ日野保育園

敷地内に駐車場がない為に、保育園開設当初より過去には課題の一つとなっていた「送迎時の路上駐車問題」。

保育が始まると、幾度となく路上駐車を発見することとなり、そのたび保護者の方に「路上駐車は迷惑なのでやめてください」などのご協力の呼びかけをしていました。

そんな時、ご近所の方から「大切な命がどうなってもいいのか」との苦情を頂き、そこで改めて『何のために、誰のために』、路上駐停車をしないように伝えていくべきなのかを考え直すことができました。「〇〇に迷惑だから」ではなく、車を停めることによりできた死角で「ひとつしかない命が消えてしまうかもしれない」ことを改めて教えて頂いたのです。

貼紙に【すべての人の命を守るために、路上駐車はお止めください】と書き加えて、駐車場のご案内などを丁寧に一人一人言葉で伝えるようにしていきました。お話を聞いてくださった保護者の方は100%理解してくださり、今もずっと協力して頂いております。現在は、シルバー人材センターのご協力を頂き、朝夕の見守りを続けています。

保護者の方への丁寧な説明と関わりが保護者の安心感につながり、それが子どもの生きる権利を保障することに繋がっていることを忘れず、今後も多方面からの意見に耳を傾けながら保育に携わっていきたいと考えます。



全ての人の命を守るためにルールがあるということに気付かされました。そのルールを守ってもらうため、保護者への丁寧な対応も大切ですね。

中学生・高校生の職場体験

至誠第二保育園

職場体験は、近隣の中学校・高校から体験活動の一環として依頼が入り、対応が可能かお返事をさしあげてから、日程調整に入ります。クラス数などで受入れられる人数は限られますが、地域の資源を活用して頂く機会となるので地域貢献としてできる限り協力しています。

生徒の皆さんには、地域の保育園はどのようなところなのか理解を深めてもらったり、誰かの役に立つという体験のステップの場であったり、将来のお仕事の選択肢など、活動を通じて何か感じる事があればと願いながら受入れています。

来園する生徒さんの中には、卒園生だったり、在籍していたという生徒さんもいて、受入れる側にもちょっとしたサプライズが楽しみでもあります。

体験活動に入る前に、オリエンテーションを行います。持ち物や、気をつけてもらいたいこと、質問などを確認します。保育のポイントも伝授します。子どもの目線に合わせて話すことや、子どもが困っていたら、すぐに手伝うのではなく、「お手伝いしましょうか」と聞いて子どもの意志を尊重するなど、すぐに役立つ事を伝えています。

活動当日は、緊張した面持ちで来園しますが、子ども達が嬉しそうに話しかけたり、手を引いて遊びに誘ったりして徐々に溶け込んでいきます。室内や戸外で遊びを一緒に行い、時には着替えの介助なども行います。給食後は、子ども達は午睡をするので、その間は、環境整備を手伝ってもらいます。保育士は、子ども達と遊ぶだけではなく、書類を書いたり、次の活動の準備をしたり、色々な仕事があることを生徒さん達は気づくことでしょう。

緊張しながら頑張っていた生徒さんも、帰る時には、子ども達の笑顔に名残惜しそうにしています。

後日、感想文を頂きますが、その中には、「うまく関われるか心配だったけれど子ども達と遊べて楽しかった」とか、「子どもの安全や命を守るのは大変だと感じた」、「将来は人と関わる仕事がしたい」など体験活動を通して得られたことが綴られています。「子ども達が自分の思うようにならず困った」という感想もありますが、体験を通して湧き出る自分の気持ちに向き合うことも大切なのだと思います。

日々の中であたり前に感じていたことでも、新鮮に受止める生徒さんの言葉に気づきをもらいます。

地域で支え合い、それから視野がどんどん広がっていくことを想像すると、職場体験の小さな一歩に夢が広がります。



職場体験を通じて、保育士の道に進んでくれたら嬉しいですね。



利用者・地域の方・困っている人とのつながり

至誠あずま保育園

【大切にしていること】

保育園は利用者にとって居心地の良い場を提供できるよう努めているが、地域の方々の理解と協力を得て存在している。この点を職員と理解し合いながら、保育園利用者以外の地域の方との交流も深め、助け合える関係を築き上げ、地域に根差した保育園の継続を大切にしている。

一時保育事業の取り組み

- ・ 急な利用でも利用しやすいように、空きがあれば当日の朝でも受け入れ、アレルギー児や配慮が必要なお子さんも受け入れられるような体制を組んでいる。

※フードパントリー取扱事業所 ※個人への食品提供を行う活動

- ・ 単に食品をお渡しするだけでなく、悩みや話を聴き、気持ちを受け止める役割を心掛けている。場合によっては、関係機関に繋げる。

高齢者見守り事業所登録

- ・ 登録していることで、職員の認識が向上し、実際に園舎前で見かけた高齢者に声を掛け、警察に連絡したところ、捜索願が出されていて、無事保護されたケースもあった。

自治会への加入

- ・ 夏祭りの模擬店に、園として出店し、卒園生や地域の方々に喜ばれている。新年のどんど焼きでは、園長が会場の手伝いをしながら、地域の方々との関わりを深めている。

地域の風景の一部として

- ・ 小学生の授業の一環で、日野市の良いところ探しの際には、園舎前のプランターに咲く花々をきれいと感じた子ども達がインタビューで来園した。また、道行く人から「心が和む」と声を掛けてもらっている。

【保育に与える影響】

- ・ 日常の何気ない取り組みが、人から喜ばれ、新たな繋がりになり、子どもや職員の人としての成長に繋がっている。
- ・ 地域と関わることにより、地域の方が子ども達を気に掛けてくれるようになり、安心・安全が更に強化されている。
- ・ 地域の方に保育園の活動に理解を得られ、円滑な保育が出来ている。



保育園として何が出来るか、職員みんなで考えて、無理なく地域との繋がりを深めたいですね

入園前に保育園を知ろう

ひよこハウス多摩平

【体験保育】

1年間の実績 参加者0歳児9組・1歳児2組
体験に来た方のうち翌年度入園が決定した方…4名

【方法】

0歳児…1日2組・計6日間 1歳児…1日2組・計2日間の日程で『広報ひの』に掲載し参加者を募集。施設見学に来た方へ体験保育についても案内。

【内容】

新型コロナ流行前は、保護者と共に対象クラスに入り午前中の活動から給食を一緒に食べるまでの体験を行っていたが、コロナ以降は、園庭より朝の活動の様子を見学し、対象クラスが園庭遊びをするところに合流するという形をとっている。
体験に来た保護者の育児相談にも応じるよう、心掛けている。

【施設見学】

1年間の実績 73組
見学に来た方のうち翌年度入園が決定した方…8名

園行事が入っていない平日は随時受付（月曜日9時半・火～金曜日9時）
感染症対策のため短時間で園庭からの見学のみという条件ではあるが、質問をたくさん用意して来園する方も多いため、できる限り質問や相談に応じ、保護者の気持ちに寄り添った対応をするよう配慮している。また、終了時に、「今後も質問や相談等があれば気軽に園へお電話ください」と声を掛け、オープンな雰囲気を中心掛けている。



【地域交流の効果・参加者の声】

- ・園生活を体験したり施設を見学し園の様子を知ることによって、入園希望につながることができている。
- ・コロナ禍で園の情報を得る機会が激減している中、このような地域活動をしてもらって大変ありがたい。



入園前に体験保育や施設見学が気軽に出来ると、不安や悩みが解消されますね。参加者の声からも、ニーズが高いことが伺えます。

地域交流

たかはた北保育園

【目的・ねらい】

保育園は子育て支援の大きな役割を担っている。たかはた北保育園を地域の方々に知ってもらうこと、他、保育園に足を運んでもらい、子育ての悩みの相談を出来る場を提供し、イベントに参加してもらうことで活動の場を広げ、価値観やコミュニケーションの幅を広げてもらう。

【手形アート】

子どもの手形に目や耳を描き、
可愛い動物の作品を作る。



簡単に可愛い作品を作
ることができました。



家ではなかなか出来な
かったので、参加して良
かったです。



写真を自分で撮影で
きただけでなく、大判
印刷でもらえてあり
がたかったです。

【寝相アート】

季節のイベントの寝相アートの撮影会を行う。



【ヘアアレンジ】

子ども専門美容室の方に来ていただき、
プロの美容師に前髪の切り方や髪の結び方を
教えてもらう。



子どもを楽しませつつ、教
えて欲しいことを教えても
らえて、大満足でした。



【参加した地域の保護者の声】



- ・保育士さんに育児相談も出来て良かった。
- ・育児で疲れていたのに、気分転換になり、参加して良かった。
- ・保育園の様子が分かった。保育園選びの参考にもなった。
- ・同じくらいの年齢の子どもを持つ保護者の方と仲良くなれ、育児の悩み事を話せ、ストレス解消になった。

【考察】

イベントを通して気分転換をしたり、育児の相談をする場を作ったりすること、参加している保護者はいつも笑顔で帰って行く。なかなか地域のコミュニティに参加出来なかったり、近所に同じ年の子どもを持つ保護者の友だちがいなかったりする方にとっての心の支えに少しでもなっていきたいと思う。

また、一緒に参加した保護者同士で育児の話をする姿も見られ、みんな同じ悩みを持っていると感じる保護者も多いようだ。

今後も参加してみたいと思ってもらえるイベントを企画していきたいと思う。

地域の方に、イベントを通
して保育園を知ってもら
ったり、育児相談の場に
したりするなどの工夫は、
育児支援になりますね。



保育園ってどんなところ？

栄光多摩平中央保育園

保育園で、子どもたちがどのような遊びを楽しんでいるのかを知ってもらうため、園庭開放・室内遊び・園内行事に親子で参加してもらう。子どもたちの様子を見たり、一緒に遊ぶ経験を通して集団での遊びを知って頂いたりする機会を作り、参加してもらった後に子育て相談（保育士・栄養士・看護師）を行っている。

《方法》

ポスター作成・「広報ひの」にてお知らせをしたり、園見学に来た方や、近隣の未就学児・家庭児にも声がけをしたりしている。



戸外：自由遊び
(砂場遊びを楽しむ)



室内：自由遊び
(年齢に合わせた玩具
遊びを楽しむ)

《状況》

保育園でどんな遊びをしているのかな？園庭にはどんな遊具があるのかな？戸外ではどんな遊びを行っているのかな？と興味を持つ保護者も多い。近隣公園の遊具は、乳幼児用に作られていないこともあり、事故・怪我が怖くて遊ばせにくいという話も聞いた。その為、園内や園庭で子どもの目線で遊ぶ事が出来る事が喜ばれている。

《効果》

園内見学や話だけでは保育園の様子が伝わりにくいのですが、実際の遊び体験から保育園への興味が広がり安心して入園する事に繋がっている。

また、保育体験後に子育ての情報交換や相談する機会が作られることも家庭児への子育て支援や地域交流へと繋がっている。

引き続き、保育園でどんな遊びを行っているのか情報発信を行っていきたいと思う。



地域の方に園を知ってもらい、情報交換や子育て相談の場、また、安全な遊び場としての活用をしてもらうことが、地域の子育て支援につながっています。

保護者支援

みなみだいら保育園

保護者支援っていうけれど、
信頼関係を築いていない
と、何もできませんよね・・・

信頼関係を築くには、
どうしたら良いの？



マイナス面を伝える
時には、良いこ
とを伝えてから、改
善してほしいこと
も伝えるなど、サン
ドイッチ方式で話
すようにしている。

気持ちの良い挨拶をしたり、保
護者の体調を気づかうような
言葉がけをしたりする。

お迎えが遅いなど、
なかなか会えない
保護者には、担任
以外の保育者も積
極的に声を掛け、職
員みんなで様子を
伝えるようにする。



懇談会もアイデアいっぱい

- ★1日の生活の流れを紙芝居で伝えている。
- ★自己紹介も名前呼び合って、和やかな雰囲気。
- ★我が子あてクイズで参加型の懇談会を実施。
- ★お題を事前に伝え、話しづらい方も話せる工夫をする。

会えた保護者にはなるべく話
しかけて、日々の関係性を積
んでいく。子どもの面白いエピソードや頑張っていたことは、
保護者も興味を持ってくれる。



保護者との関係が出来ると、難しいことを伝える時も、耳を傾けてくれる。保護者も担任も話がしやすくなり、グッと関係が近くなる。

【考察】

保護者と保育園の信頼関係が築けていれば保護者に寄り添った支援につなげることもできる。子どもの育ちを共有するだけではなく、保護者自身の不安な気持ち、悩みごとを相談してくるようになり、関係もより良くなる。向かい合うことは子どもにとっても、保護者にもベストな環境と考えられる。



日頃から、保護者とのコミュニケーションを大切に、色々な方法で子どもの様子を伝えていこうにしましょう。

保護者の気持ちに寄り添いながら

【子どもの様子】

もぐさ台保育園

乳児クラスの頃の A ちゃん

- ・人見知りで臆病
- ・行事の練習から緊張の面持ち
- ・本番は泣いてしまい、動けずにいた

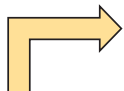


3 歳児クラスになると

- ・色々な経験を重ねて自信がついたよ
- ・行事の練習にも笑顔で取り組み楽しそう

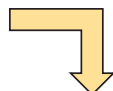
そして迎えた3歳児クラスの運動会当日・・・

途中から涙がこぼれてしまい、保護者はがっかりした様子……。担任も、本児の成長ぶりに、〈当日は泣いてしまうかも〉という考えすら浮かばず、配慮してあげられなかったことを反省しました。次の発表会に向けて本人に無理のないように、でもやりたい気持ちもしっかり応援していこうと思いました。



発表会当日の A ちゃん

- ・泣きながら登園
- ・本番の舞台でも涙が・・・



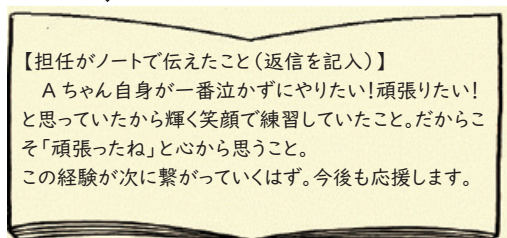
発表会までの A ちゃん

- ・希望した役について嬉しそう。
- ・笑顔で練習に参加し、台詞も大きな声で言えます。

☆保護者へは、日々の送迎時に練習の様子を伝え、楽しく取り組んでいること、やりたい気持ちがあること、同時に当日は緊張で崩れてしまう可能性があることなどについて話をしていました。



後日、保護者がノートに感想を書いてくれました。



【ノートでのやり取り後、保護者から・・・】

本人のプレッシャーにならないように接してきたつもりだったけれど、プレッシャーになってしまったと反省し、家に帰り落ち込んだこと、互いに「ごめんね」を言い合っただけで気持ちが切なくなったこと、録画した当日の様子を本人も観たがらず、母も観る気持ちになれなかったことを話してくれました。でも担任からのノートの返信を読んで気持ちが落ち着き、その夜に録画した当日の劇を観ることができたそうです。

【考察】

子ども達に寄り添って気持ちを支えていくと同時に、保護者の気持ちにも寄り添い、想いを巡らせ、焦らず、諦めず、信頼関係を築いていこうとする姿勢が保護者支援に繋がるのだと感じています。



行事はゴールではありません。それまでの過程、そしてこれからの過程を丁寧に支え、子どもはもちろん、保護者の気持ちにも寄り添って行きましょう。

保護者に寄り添う保育園

あおぞら東豊田保育園旭が丘分園

【大切にしていること】

- ・保護者の家庭環境を職員みんなで共有し、いつでも相談が出来る雰囲気づくりを心掛ける
- ・子ども達と職員を大切に思う気持ちを持つ

保育の様子

- ・0歳児から5歳児までの子ども達が、一緒に遊んだり生活をしたりして、共に成長している。
- ・少人数の園なので、職員、子ども達みんなが家族のように生活している。
- ・子ども達一人ひとりの個性を大切にしている。

子ども達の成長の様子

- ・子どもの個性を尊重し、家庭環境も配慮しながら保育をしているので、実際に子ども達は、相手に寄り添える包容力や共感性、思いやりの気持ちの芽生えがみられる。
- ・友達の遊ぶ姿を見て、興味や関心が広がっている。

保護者の気持ちに寄り添う

- ・子育てに不安を持つ保護者に寄り添い、いつでも相談できるようにしている。
- ・送迎の際に、「子どもの良いところ、楽しいエピソード」など、ひと声掛けるよう職員みんなが心掛けている。

保育士から見て思うこと

- ・職員の人間関係も大切だと思う。少人数の園なので、コミュニケーションを大切にしている。
- ・日頃から、保育の悩みなどをみんなで話し合っていて、共有できているので連帯感がある。
- ・気軽に育児相談ができるような園の仕組みがあれば良いと思う。
- ・保護者からの質問に答えを窮していた時に、他の先生が助け舟を出してくれ、とても助かった。



園全体で保護者が安心して相談できる関係を築くことが必要です。身近に学べて頼れる先輩保育者がいると、仕事も楽しくなりますね。

保護者会での意見の共有

あおぞら東豊田保育園

トイレトレーニング

トイレトレーニングを家でまだできていなくて、始めるタイミングがよくわからないのですが…。



おしっこが出たことを知らせてくれたり、排尿感覚が1時間位空くのを目安にしたりして始めるといいですよ!〇〇くんはオマルで成功している時もありますよ。

うちもうまく進まなくて…
連れて行くタイミングはありますか?



朝起きた時、お昼寝から起きた時、お風呂の前などがおすすめです。トイレやオマルに座れただけでもたくさん褒めてあげましょう!

家で挑戦してみますね!



後日…

先生のアドバイスしてくれたタイミングでトイレに座らせたら家で初めて成功しました!

リフレッシュ

仕事に育児に家事にと大忙しのお母さんたちが実践しているリフレッシュ方法を共有しませんか?



子どもに隠れて甘い物を食べています!



頑張らない日と決めて家事の手抜きをしています!

友人とランチや、ひとりでモーニングカフェをしています!



保護者会では、保育園での様子を伝えるとともに保護者同士の交流も意識しながら、悩みを相談や共有・解決をする等、情報交換が出来る場にしていきたいと考えています。



保護者同士で意見交換や悩みの共有をする事で、子育てのヒントになったり、気持ちが楽になったりしますね。保育園がそんな場であると嬉しいですね。

保護者同士のつながりを保育園が手伝い

万願寺保育園

【保護者の思い】

仕事が忙しい、保護者の方とつながりをもちたくても、もてない保護者がいると思われる。



【背景】

日常の挨拶やつながりが希薄になったこと、昨今の核家族化、近所付き合いの減少の観点からも子育ての孤立化がみられる。

そこで！

《一緒に遊ぶ会を開催♪》

孤立を防ぎ、保護者と保育士、保護者と保護者のつながりから子育ての楽しさを感じてもらうようにした。



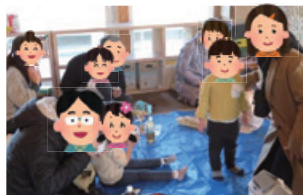
保護者の笑顔、会話が生まれるように♪



子ども同士仲良しの保護者を保育士が仲介して園でどのように遊んでいるかなどお話をした。



保護者参加のジェスチャーゲームを取り入れた。



同じ空間で楽しいお弁当タイムを過ごした。



連絡先を交換して、休日一緒に遊びました。

仲良しの友達や保護者と会えて良かった。



【考察】

最初は声を掛け合う様子があまりなかったが、保育士が間に入ると会話が広がり、その後保育士を通さなくても保護者同士話をする姿がみられた。

当日参加できなかった保護者には会の様子を伝え、次の機会に期待が持てるよう声を掛けた。このような保護者の姿や保護者からいただいた言葉からもつながりを求める保護者がいることが分かった。

またその後、5歳児保護者より、「以前は保護者参加行事を通して連絡先を交換してつながるきっかけをもてよかった」と話していたことから、保護者支援は重要な役割であると感じた。

懇談会で一緒に遊ぶ機会を作ったり、他のクラスでもファミリーデーと称して親子で運動遊びを楽しむ会を企画、実践して、その後も保護者支援を継続している。



核家族化や子育ての孤立化を解消するために、保育園を通して保護者同士が支え合うことが大切です。それによって、保育園の理解につながります。

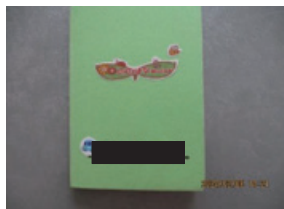
手作りの連絡帳

ののはな保育園

【手作りに込めた思い】

- ・自由記載で書きやすいようにした。項目があると埋めなくてはいけない意識になるので、項目や枠にとらわれず、保護者も負担にならないように書けるとよい。
- ・後々読み返して、成長記録の一つとなれば嬉しい。
- ・実際大切に保管しているうえに、「見直すことがある」という保護者が多い。

【カバーは開園当初から変わらず、
手作りしている。】



【中面に体温表を張っている】



【A6 のキャンパスノートを使用
している】



★自由記載の良さ

- ・枠などの制限がないので、伝えたいことをしっかりと記入できる。保護者も自由に書いている。直筆の温かさがある。

★自由記載のデメリット

- ・項目欄がないため家庭からの情報（睡眠・排便・食事）が少ない。ぱっと見て分かりづらく、過去の様子が探しにくい。
- ・沢山書けるので時間がかかってしまう。

【記載内容】

- ・ 今日の様子
- ・ 給食
- ・ 午後おやつ
- ・ 排便
- ・ 午睡時間



【考察】

連絡帳は、保護者と情報交換を行うためのツールで、保護者とのコミュニケーションや信頼関係の構築に欠かせない。家庭からの情報が連絡帳で不十分な場合は口頭で確認しているので、コミュニケーションにも繋がっている。

システム化が進みデジタルでの連絡帳のやり取りが多くなっていく中、時代のニーズは考慮する必要があるが、手作りに込める思いは大切にしていきたい。

～卒園児の保護者から

寄せられた意見～

- ・大切に保管しており、時々読み返すと、当時の様子が目に浮かんでくる。
- ・細かく書かれていて保育園での様子が伝わった。
- ・成長の過程が思い出せる。



デジタル化が進む中、手作りの温かさは大切ですね。手作りに込める思いは忘れずにいたいですね。



安全・安心な給食提供を目指して 日野市立保育園給食について

日野市立保育園栄養士会

乳幼児期は、健全な食習慣の基礎を形成する時期といわれています。

子どもたちの心身共に健やかな成長を願い、食の大切さを伝えながら、安全・安心でおいしい給食作りを心がけています。



日野市立保育園
食育キャラクター

ファーストマトちゃん

日野市立保育園食育推進標語

- ① ので できた たべもの
- ② こさず みんなで たのしくたべよう
- ③ つくってくれたひとに かんしゃして
- ④ こころも からだも げんきなこ



日野市立保育園
食育キャラクター
ブルーベリーちゃん

1. 手作りしています

- ・毎日新鮮な野菜を使用して作ります。
- ・カレーやシチューのルウも手作りです。

2. 薄味です

- ・だしや素材の味を生かし薄味に仕上げています。
- ・塩分は大人の半分位です。

7. 石けんを使用します

- ・自然環境と健康に配慮し、食器洗浄や掃除には石けんを使用します。

6. 食品衛生を徹底しています

- ・独自の衛生管理マニュアルに基づき調理をしています。
- ・乳幼児にとって安全で衛生的な給食の提供を目指します。

日野市立保育園 給食の特色

3. おやつは補食と捉えます

- ・3回の食事ではとりきれない栄養素を補っています。

5. 和食や行事食、 旬の食材を使用した献立です

- ・五節供や季節の献立、旬の食材を取り入れて作ります。
- ・日野産の野菜や果物も使用します。

4. 噛む力を育てます

- ・かみごたえのある食品や調理法を取り入れています。
- 例：薄切りよりコロコロに切り、茹でる硬さを調整する



公立、私立、給食の提供は様々ですが、みんなが安心して食べられる給食の提供は、有難いですね。

栄養士から見た子どもの成長

至誠あずま保育園

「家では野菜を食べないんですよ」保護者から時々聞く言葉です。

保育園には0歳から5歳までの子どもが生活し日々成長しています。子どもたちの成長は食を通して見て感じる事が出来ます。園児が年中・年長になった時に、ふと小さい頃を思い出し、「とても小食だったけど今は御飯をお代わりするようになった」「野菜が苦手だったのに給食を完食するようになった」「食事が終わると、片づけをせずにテーブルの下に隠れていた子が片づけをしている」と長年の成長を感慨深く感じる事が出来ます。一方、日々の給食の時間に見つける小さな成長もたくさんあります。「昨日絶対に口にできなかった物を食べていた」「バラバラの食具を綺麗に整えてくれた」。その小さな成長を出来るだけ見逃さないように心がけ、こうした姿を見つけた時には、栄養士として「食べたねー」「ありがとう」等言葉を掛けるようにしています。子どもは、ちょっと照れ臭そうにしていますが、そのような些細なことの積み重ねが子どもの育ちに繋がっているのだと思います。

乳幼児期の食事は「楽しく・美味しく食べる」ことを大切にしています。食事の時間が楽しい時間になることで、新しいものに挑戦してみようという気持ち生まれ、食の幅が広がっていきます。給食という限られた時間ですが、栄養士の立場から食べられたことを褒め、食べられなかったことはまた明日…と大らかな気持ちでこれからも子どもの成長を見守っていきたいと思っています。



栄養士は、保育士とはまた違った視点で子どもとの関わりを大切にしています。

「美味しい」の笑顔がいっぱい 1・2歳児

【子どもの姿】

○出された食事を見て「これいらない!」と皿をよける。
○好きなものを食べ終わると「ごちそうさま」と終わりにしてしまうなどの姿がある。

【ねらい・意図】

「食べる事」をもっと楽しくするようにと願い、食べられる食材や料理が少しでも増える事により、自信につながり食べる事にもっと興味や喜びを持つ。

ののはな保育園

【心掛けたこと】

- ① 子ども達と一緒に食事をして「おいしい」を共有する。
- ② 盛りを少なめにする。
- ③ 苦手なものは減らす、あるいは別盛にする。
- ④ 近所の畑の作物をみる、絵本でも興味を持たせる。
- ⑤ 十分に身体を動かしお腹を空かせる。
- ⑥ 料理する音や匂いも身近に感じさせていく。
- ⑦ 食べられない、食べたくないも認めていき、その中で保育士は個々に対して見通しをもって関わっていく。

【保育の経緯】

○同じ食卓で一緒に食べることで、時には具材探しをしたり「キュウリ、パリパリしてるね。」等会話もしたりしている。
○散歩中に見つけた野菜を「これは茄子?これはネギ!」と興味も出てきた。
○外でいっぱい遊んで帰って保育園のドアを開けると「わあ~いいにおい」「今日はなんだろう?」と食事を楽しむ姿がみられるようになった。
○調理員が買ってきた食材を見せながらの食材あてクイズ。これによって、すぐに食べる事につなげる意図ではなく、食材自体に関心を持つこと、知っているという自信と共に身近に感じる事を重視した。



食材当て
クイズ
「何だろう?」

皮の色は違うけど
形は同じだね。

切ってみても
形も色も同じだね。



食べてみたら
「違う!」
不思議だね。

【考察】大切な「食事」だから少しでも幅広くいろいろな食材、料理を食べられるようにとつい「一口だけ」と言葉がけしていた。一口でも食べられたら自信に繋がってそこから「食べることが楽しい」に繋がっていくことを期待する気持ちだったが、様々なアプローチの中で食べられる食材、料理及び量も増え食事時間の楽しさの度合が増した。そして楽しいから食べる意欲につながる。食卓だけの問題ではなく、生活、遊び、環境が食事にもつながっていく。また無理にすすめず、待つことの大切さも再認識した。待つことの大切さは食事だけではなく、色々な面でも関連していくことでもあると推察する。



生活や遊びの中から、食への興味・関心が生まれ、食事の楽しさ、食べる意欲につながっていくことは良い経験となりますね。

そら豆の栽培・収穫

3 歳児 4 月

つくしんぼ保育園

【子どもの姿、思い】

園庭の畑では一年を通して様々な野菜を育てている。「あれは何の野菜?」「もう食べられる?」葉や実が大きくなっていく様子を楽しみに見ていた子どもたち。自分たちの初めての畑活動がそら豆と知ると、そら豆の絵本を思い出し楽しみにしていた。

【ねらい・意図】

そら豆の栽培から食べる経験を通し、土との触れ合い、実のなり方を知る。食物に対して興味をもち、食に感謝する心を育てる。

【心掛けたこと】

そら豆の栽培、収穫は2歳児クラス～3歳児クラスにまたがるため、担任間の引継ぎをしっかりと行う。そら豆の生長を確認し各工程の時期を畑の先生や栄養士と話し合う。

【保育の経緯】

水やりは自分たちの役割と張り切って毎日のように行っていた。春になり、さやが膨らみ始めると収穫は今か今かと待ちきれない様子だった。収穫できるたびに達成感から自信に満ちた表情で調理室へと運んでいた。

畑に詳しい職員に、そら豆の種植えについて教えてもらいました。

毎日交代で水やり



これ知ってる、
そらめくんだよね。

お水いっぱいあげるね。
明日そら豆できてるかな?

さや取り体験



そらめ出してきたよ!
なんかにおいもするね。
これ食べていいの?

【考察】

約5か月の間、そら豆の生長を身近に感じながら畑活動に参加してきた子どもたち。水やりの役割を担うことで責任感が生まれ、育てる楽しさや収穫できた時の喜び、達成感を味わっていた。さや取りでは、においや硬さ以外にも多くの発見があり実際に触れることができる貴重な体験をした。自分たちで育てたそら豆を苦手な子も食べてみようという気持ちが芽生え、楽しく食べる姿が見られた。



食材を身近に感じ、食への興味や関心に繋げています。時間を掛けて食物の成長を見守っているんですね。

食への関心を深め、食べる喜びを育てる 5歳児

栄光多摩平の森保育園

【子どもの姿、思い】

今年度の5歳児は食べる事に対して意識が高いクラスだった。「何が入っているの?」「どうやって作るの」「作ってくれてありがとう」など、興味もどんどん広がり、いろんなお話をする機会も増えた。

【ねらい・意図】

栽培・調理・食事を通して得られる新しい発見から、食に関する考え方を豊かにできるような食育を考える。

【心掛けたこと】

栽培から食事まで、継続した食育を行うことで、発見を楽しみながら、周りの人たちと喜びを共有できる環境づくり。

ピザ作り

一人分の材料を小分けにして、作業しやすかった。



自分で作ったピザはおいしいね。



すごい!
メロンででき
てるんだね!

みそ作り

大豆から出来ている他の食べ物のお話も一緒にした。



大豆から
味噌が出来
るんだ～。

いつもと違う切り方や提供の仕方で、食への興味をさらに深める工夫をした。



すいかの
ケーキだ。



家でも工夫して
みたいと思います。

色々な食材を
食べるよう
になりました。



【考察】

食育活動の前後は、必ず保護者にお知らせすることで、家庭でも話題となり、会話が生まれ、食べる喜びへとつながっているようだ。保護者にも関心を持ってもらうことで、家庭とのコミュニケーションにもつながる。



自分たちで野菜を育てたり、調理することで食べ物を大切にする気持ちや、作ってくれる人への感謝の気持ちが育ちますね。

玉葱の草木染め

5歳児

至誠ひの宿保育園

【子どもの姿】

野菜が苦手な子どもも達がいる。献立によっては残食が多く出てしまう日がある。食に対して興味を示さない子どもも見受けられる。

【ねらい・意図】

食材が食べる以外にも有効利用できることを知り、食に対する興味を高める。

【心掛けたこと】

子ども達にとって身近な食材である玉葱を選んだ。食育当日に玉葱を使用した献立を取り入れた。

2歳児に使用する玉葱の皮を置いてもらいました。



集中しています。

絞り染めに挑戦...



上手にゴム留めすることができました。

【食育の経緯】

実際に玉葱を見せ、調理の際には約30個分の食べられない皮が沢山出ること、その皮を捨てずに利用出来ることを伝え、草木染めを体験してもらった。

玉葱の匂いがするね～。



玉葱の皮を煮るとこんな色になるんだね！

模様ができた!!



綺麗な黄色に染まったよ！

友達同士、柄の違いを見せ合っていました。

【考察】

食に対して関心が薄い子どもが、保護者に玉葱染めについて嬉しそうに話す姿を見て、食育の効果を実感した。他の野菜でも染めてみたいとの意見も出て、食材に対する興味が深まった様子だった。食育に使用した玉葱を使った料理は完食し、自分たちが関わった食材に対する関心が深まったことを実感した。



何気なく捨ててしまっていた玉ねぎの皮が、工夫により教材になり、子ども達の食への興味に繋がってますね。

体調不良の早期発見を治療につなげる

日野わかば保育園

【子どもの姿】

乳幼児はまだ体調不良を正確に伝えることが難しい。体調が回復するのも早い、悪化するのも早い。

【ねらい・意図】

乳幼児は体調不良を正確に伝えることが難しい。体調が回復するのも早い、悪化するのも早い。体調がすぐれない場合、早く療養に入るために、早期発見が重要になる。医療機関の診察時間や保護者のお迎え等も踏まえ、どうしたらよいか職員で考えていく。

【心掛けたこと】

- ・登園時、視診を行う。
- ・登園時、家での様子を聞き取る。
- ・受診が間に合う時刻に再度視診等をする。
- ・体調が気になる時は、予め様子を見ていることを保護者に伝える。

診察時間に間に合ってよかったですね。

保育園が連絡してくれて助かりました。



これ以上悪化する前に受診できてよかったです。



ある土曜日の午前、Aくんが咳をし始めた。他児に飛沫しないよう、少し間をとり様子をみる。

徐々に咳き込みがひどくなる。保護者に症状を説明し、迎えをすすめるが、今すぐには行かれないと言われた。その後、喉と腹部の陥没呼吸の症状が出始めた。保護者に再度連絡し症状を説明し、至急の受診をすすめたところ、受診してくださることになった。土曜は午前中のみの診察だったが間に合い、医師より受診が間に合ってよかったと言われる。その後、順調に回復した。

【考察】

・登園時に視診をし、家庭での様子を聞いておくことで、症状を時系列で追うことができる。気になる症状がある時は、保護者に症状を適時伝え情報共有していくことで、受診や療養の必要性への理解と実行につながった。

お子さんの体調不良に気付き、お医者さんにも受診が間に合ってよかったと言って頂け良かったです。元気になった姿を見てほっとしました。



早期発見・対応のためにも、登園時の視診はとても大切ですね。保護者への寄り添いの言葉と適切なアドバイスが安心に繋がります。

感染症から子どもを守るために

たかはた北保育園

【目的】

『園にウイルスを持ち込まない！』

感染症を広げない！』

を心がけている。ウイルス対策を通して、
見えないものから園児・保護者・職員を守る
ことを目的としている。

【情報共有】

近隣の小学校や他園で流行している感染症の情報は、すぐに職員間で周知をし、保護者にも掲示板やメールでお知らせしている。情報を分析し予測をたてながら実行する。

対策 ①

早期消毒/早期連絡
初動対応を重視しスピード
感を持ち対応している。

対策 ②

トイレや子どもが触る場所
を徹底的に消毒。嘔吐は2
回消毒をし、ウイルスの消
滅を目指している。

対策 ③

情報伝達は職員間でこまめ
に、感染対策のレベルはす
ぐにあげて職員一丸となり
対策に動いている。

【子どもへの指導】

声掛けなどによる、毎日の手
洗い・うがい等の習慣付け
や、看護師による保健指導で
は紙芝居や絵本を使用し、専
門的な視点から子ども達にわ
かりやすく伝えている。

【保護者への対応・反応】

保護者に感染症の情報を伝
え正しく理解してもらう。
感染症が増えている時期
は、発熱時などは、適切な
保護者への連絡を心がけて
いる。

【病児保育について】

様々な病気のお子さん
が来園するので、感染
症に関する情報の共有
や室内、玩具の消毒を
徹底している。



保育士 A

保育士として自身の健康が大
切だと学び、子ども達を守る
ために、まず大人が感染症に
かからないという意識をもっ
て、手洗いやマスク着用、子
どもの体調管理など対策を行
っています。菌を園に持ち込
まない！を実践しています。

園では嘔吐処理や便・血液の
取り扱いについて研修を毎年
行っています。その手順をし
っかり守り菌を周囲に拡げな
い、感染症を流行させないよ
うに毎日の仕事を丁寧に、心
がけています。

保育士 B



看護師

子ども達の個診を日々しっか
りと行い、変化に気が付くよ
うにしています。保護者への
声掛けや園での感染対策を
看護師だけでなく保育士も交
えて話し合いをして決定す
ることもあり、様々な状況を考
えて対応する力を日々につ
けています。



感染症は、早期に対策を講じることで拡大を防ぎ、子ども達、保護者、職員への影
響を軽減できますね。日頃から、職員間の伝達を大切にしたり、研修などを実施し
たりして、対策を考えておくと、慌てずにいられますね。

日中やプール・水遊び時の事故防止

あおぞら多摩平保育園

【ねらい・意図】

乳児クラスでの小さいプールでも、水圧でバランスを崩してしまった、顔に水を受けて慌ててしまい、友達とプール内でぶつかってしまったなど、元氣いっぱいな子ども達はケガをしやすいため注意が必要である。日頃から子どもたちの発達や実態に即した様々な対応を考え、事故を未然に防止する事が大切である。

転落・転倒・衝突



園庭や公園では、滑り台やブランコなど、子ども達が遊具を使用して遊ぶ機会は頻繁である。転倒や転落をしそうになったり、かけっこで他の子に気が付かず衝突しそうになったりするヒヤリハット事例が生じる。けがを負う可能性のある個所には、カバーを付ける、周囲に友達がいることを知らせるなど、普段から危険が発生しないよう保育士同士の連絡を取りあい、連携を大切にしている。

午睡時の
事故

乳幼児突然死症候群の観点から、うつぶせ寝での午睡が危険であり、常にあお向けを維持して安全な姿勢になっているか十分な配慮が必要である。上掛けが顔に被さりそうになった、体調がすぐれず咳き込みから呼吸が乱れたなど、寝相だけでなく、呼吸を妨害する要因は多々あるので子ども達に対して細心の注意を払うようにしている。

プール・水遊び
の事故



プールで使用する塩素液の取り扱いに留意する。
監視者は、ビブスを着用して目立つようにし、監視に専念し、監視方法や人数確認など、普段以上に気を配り、安全に遊びができるようにしている。また、水量を調節し、底に滑り止めマットを敷くなどの対応をしている。水の苦手な子ども達と活発に遊びたい子ども達と、プールを分けたり、時間を区切って順番に遊んだりしている。また、プール外でも楽しめるように、大きなタライなどを用意し、ゆっくり安心して楽しめるようにした。

【職員の声】

- ・楽しく活動するためには、安全管理が重要ということを強く思った。
- ・誰かが見ているから、やってくれているからではなく、きちんと役割分担して、自分の分担を明確にしておくことが大切だと思う。
- ・重大事故防止のために、職員みんなで今後も取り組んでいきたいと思う。

ヒヤリハットの振り返りを大切にし、環境整備や職員の意識の改革などで回避できることがありますね。



保育園の防犯対策・環境

日野駅前かわせみ保育園

【防犯意識の構築】

新人研修のほか、園内の防犯マニュアルを作成し、共通の知識や意識を持つようにしている。
また、園内を点検し、フェンスの高さの見直しなども行った。

【防犯訓練の実施】

月1回の防災訓練時に、園内に設置されているさすまたにも触れる機会も設け、使い方等を職員同士で確認するようにしている。
他にも、職員間の連携を図るために、独自の訓練（訓練の時間を全体に告知しない、子ども達にも合言葉を伝え、日中の活動中に訓練を実施するなど）も取入れている。

【万が一の対応】

- ・不審者情報の共有を行い、戸外では、戸外用携帯電話を持ち、職員といつでも連絡がとれるようにしている。
- ・不審者が園周辺に出没したり園内に侵入しようとしている時は、瞬時に職員全員が把握し、速やかに対応できるよう、不審者発生の合言葉を設定し、放送で流すように決めている。
- ・また、直接保育園から警察署に繋がる“学校110番のボタン”をすぐに押して警察署からの応援を待つ。

（実際の防犯訓練の様子）



警察に依頼して、使い方や万が一の際の不審者対応について確認し、学ぶ時間を設けるようにしている。

（一階のフェンスの高さを増築）



道路に面している1階の保育室の窓には、乗り込むことが困難になるように、高めのフェンスを設置している。

（保育室ドアの内鍵設置）

＜内鍵施設なし＞



＜内鍵施設時＞



合言葉の知らせ（放送）が流れたら、連携してすぐに職員が保育室に設置してある内鍵を施設するように決めている。内側にしかないとによって、外からの侵入を防ぐことができる。

【考察】

たくさん子どもたちを預かる保育園では、防災対策のほかに防犯対策も重要になってくる。子どもたちの命は絶対的なものもちろん、保育園で管理する金銭や個人情報も保育園がしっかりと管理し、守る必要がある。

保育園内への人の出入りが多く、不審者が迎えを装って侵入してくる可能性が十分に考えられる。

以上のことから、不審者への侵入対策は保育園の園内だけに限らず、警察や自治体から情報が入ったらまずは園児たちの安全確保に努め、可能な限り不審者を園内に侵入させない対策をとる事が重要になってくる。また、それと同時に外部研修や園内研修で実践的な知識・技術を学んでいくことや、防犯訓練を取り入れていく事が重要であると考えられる。



防犯対策は、ワンパターンのみでなく、様々な想定を考え、色々なパターンに対応できるようにしておくことも大切ですね。訓練も回数を重ねて、スキルアップに努めましょう。

子ども達の安全を守るためにできること

ただいま | 2Smile House

【大切にしていること】

子ども達や職員を守るために、日頃から安全対策マニュアルを作成
不審者対応訓練の実施に取り組んでいる

園の特徴

- ・園庭がなく、第二避難場所の幼稚園に行くためには距離がある。
- ・第二避難通路の窓は高さがあり、子どもを抱っこしないと外に出られない。
- ・子ども用トイレが避難場所として適している。

不審者対応マニュアル

- 1、対応した職員は、合言葉で他の職員に不審者が入ってきたことを伝える。
合言葉を発すると危険と判断した場合は、手で合言葉を表現する。非常通報 110 番を押す。
- 2、保育室にいる職員【保育士 A・B】は子どもを集めて子ども用トイレに避難させ安全を確保する。
- 3、【保育士 C】は、携帯電話を持ち子ども用トイレに避難し、突っ張り棒でドアを開かないようにした後、携帯電話で幼稚園に連絡をする。

改善事項

- ・非常通報 110 番を設置し職員の役割分担を明確にし、定期的に確認し合っている。
- ・トイレ近くの棚に外部への連絡のための携帯電話を常に置くようにした。

実施結果

【職員の声】

- ・職員の役割分担を定期的に確認することが大切だと思った。
- ・色々な事態を想定した訓練を実施することも大切だと思った。
- ・きちんとマニュアルがあるので、訓練ではマニュアル通りに動くことができた。



マニュアルをしっかり把握し、様々な状況を想定した訓練を職員全員で行い、
子ども達や職員の安全を守りましょう。

職員が元気であるために

栄光たまだいら保育園

【大切にしていること】

毎日元気に子どもたちと生活をしていく保育士の健康は大事なことです。日々顔色や表情も見ながら対応している。職場における職員の健康管理を行って、毎日元気に仕事ができるようにしている。

健康診断の結果を確認し、コピーを看護師が管理する

- ・本人が希望した場合は、結果について健康相談を行う。適時その後の経過の把握をする。

既往歴の把握をし、勤務中の体調不良がないか観察・声掛けを行う

- ・必要時園長へ報告、相談をする。

休暇を取る

- ・体調不良時には無理をせず休養をとることが、自身だけでなく周囲の職員の健康維持につながることを指導し、休みやすい環境を整える。

休憩時間の確保

- ・子どもと離れ、しっかりと休憩をとれる環境を整える。

メンタルヘルスケア

- ・ストレスチェックの実施（年1回）
- ・問題が起きた時には職員で話し合いをし解決したり、忙しいような職員がいた場合声をかけ合い、手伝うなど、責任や仕事量の分散が図れるようにする。
- ・最低でも年1回園長との面談を行う。それ以外でも申し出があった場合には、その都度相談できる環境を整える。

勉強会を行う

- ・感染予防（吐物や便・血液の扱いも含む）のための勉強会を行い、自身の健康を守る為の指導を行う。

職員の声

- ・自身の健康管理は、働くうえでとても大切だと思う。
- ・保育園全体で、職員の健康管理をしてくれるのはありがたい。



子ども達は、元気いっぱい笑顔の先生が大好きです。園全体で個人の健康管理も大切な仕事のひとつですね。

研修を受けて子ども達を守る

よつぎ日野保育園

【研修内容】

1. 感染経路についての講義(座学)～感染症予防マニュアルに沿って～
 2. 使い捨てエプロン・手袋等の着脱、嘔吐物の処理、手指衛生(手洗い:ヨウ素液を使って汚れを可視化等)についての実践
- ※1・2は別日で設定、常勤・非常勤全員参加を基本とした研修を年1回以上実施
- ◎看護師を講師としてマニュアルなどを使った研修を行い、内容の理解を深める。
- ◎実践形式の研修では、実際に体験してみることで様々な振り返りができる。

研修後の反省(振り返り)では・・・

- *頭では理解していたつもりでも、実際にやるとあたふたしてしまった。
- *ヘアキャップやシューズカバーがあることを確認でき、他のアイテムについても正しい着脱の仕方など知る機会があつてよかった。
- *嘔吐物の処理には手順が重要であることが分かった。それを誤るとかえって感染を広げるリスクがあることを再認識した。
- *子どもの手洗いばかり気にしていたが、大人でもいつものように洗っただけでは汚れが落ちていないことに気づかされた。等々

実技研修からは様々な振り返りができ、得ることは多いと感じている。今後も更に工夫を凝らした実習計画を立てていきたいと考えている。

また保育園内で感染症が広がってしまった時には、積極的に保健所の指導を仰ぐようにしている。正しい知識を持ち、職員が自信をもって子ども達の安心・安全な環境を確保できるよう努めている。

【考察】園内において今夏感染症(手足口病など)の爆発的な流行の兆しが見えた時、マニュアルに沿って迅速に手洗いや消毒方法を切り替え対処することができた。

《保育室に備えている嘔吐処理セット》

- ①帽子
- ②マスク
- ③手袋
- ④エプロン
- ⑤シューズカバー
- ⑥バケツ(目盛付)
- ⑦ビニール袋

全て使い捨て



全職員で行う研修や、座学と実践を分けての研修は職員の資質向上に繋がって行きますね。各園で工夫して、子ども達を守る方法を考えていきましょう。

研修から得られる知識とスキル

マジオたんぽぽ保育園日野ルーム

- ・研修案内が来ていることを朝礼で報告し、いつでも確認できるよう事務所に掲示している。
- ・研修を受けた際は使用した書類や報告書を作成する。
- ・職員会議で研修報告を行う。
- ・作成した書類は、全職員が内容を確認できるよう回覧する。
- ・いつでも読み返すことが出来るよう、研修資料は事務所に保管している。



保護者対応の研修

日頃から保護者に対し親身に寄り添い、丁寧な対応を心掛けていますが、研修の中で、支援をする上で必要とされる力の一つに「自己理解する」というものがあることを知りました。

自己理解の大切さ

これまでは、保護者対応時に相手の方の考えや思いを知ろうとしてきましたが、研修を受け、まずは「自分の価値を理解する」ことで、他者の価値・考えや違いに気づき、そこから保護者対応に必要な情報を収集出来るということを知り、「自身の興味・価値観や能力などしっかり見つめる」きっかけとなりました。



研修報告

研修報告を受けることで、自分も次回は同じ研修を受けてみたいと思ったり、そんな研修もあるんだ、と興味を持ったりすることにも繋がりました。定期的に研修報告を読み返すことで、学んだことを忘れずに保育を行えています。

研修内容の理解

職員会議の中で研修報告を行うことで、自園でのエピソード（事例）と重ねながら話し合うことができ、より研修内容の理解に繋がっていると感じています。



研修の内容を職員間で共有・共感することで、日々の保育を振り返り、保育力の向上に繋がりますね。その結果、保育観の共有も出来ると良いですね。

園内研修でのつながり、悩みの共有

むこうじま保育園

【保育園の取り組み】

幼児保育、乳児保育、障がい児保育等の様々なジャンルで、担当保育者が園内研修を行っている

【園内研修の意図】

各分野の学びを深め、担当保育者の専門性を伸ばす。更に、保育についてグループで考える習慣を作ること、職員間の連携を図る。

【園内研修のポイント】

園内研修担当者は、担当している分野について研修等で学びを深め、わかりやすく共有する。また、参加保育者同士が意見交換する場を提供する。

【参加保育者の利点】

園内研修を通して、各分野の知識を得たり、考えを共有することで自信がつく。また、ディスカッションでは先輩保育者の考えや経験談を聞き、悩みの相談も行える。

【担当保育者による園内研修の様子】



【グループディスカッションの様子】



【保育の悩みについてアドバイスを受ける様子】



【考察】

園内研修でグループディスカッションを行い、年齢や立場を超えて話し合い、相談したり悩みを共有したりすることで、職員間の連携、繋がりを深めている。また、保育の知識を深めることで自信がつき、前向きに保育が出来、園全体の職員の資質向上に繋がる。



園内研修によって悩みを共有し、お互いに意見交換が出来るのは良いことですね。また、悩みの共有によって、人間関係も円滑になっていきます。

安心感のある保育園

あらい保育園

◎全園児 60 人ほどの小規模園ならではの魅力

小規模園のため担当クラスだけでなく、全クラスの子ともと保育士で繋がりががあります。早番遅番の際の交流保育や、全園児が園庭で一緒に遊ぶ時間、職員同士の何気ない会話、配慮が必要な子のためのカンファレンス等で他クラスの子どもの様子を知ることができます。職員全体で子どもを把握し、見守る体制が整っていることで、子どもも職員も安心感が高まると感じます。また、クラスの子どもについて他クラスの職員のかかわりを見て、新たな気づきを得ることもできます。

他クラスの職員が子ども一人ひとりの特性を知っていることで、それに即したかかわりができます。例えば園庭遊びの際、広い園庭で遊んでいると、担任がすぐに対応できない場面がありますが、近くにいる職員が気づき対応することができます。子どもも困ったときには、近くの職員を頼れるような関係性ができているため、怪我や子ども同士のトラブルを未然に防ぐことに繋がります。

◎ベテランの先生方がいることで、安心感がある

先輩方は保育士歴の長い方が多く、保育の経験を活かしたアドバイスや指導をしてくださいます。分からないことや悩みを相談できることはもちろん、先輩方のフォローのもと、自分の行いたい保育に挑戦することができます。

運動会や発表会など行事では、内容や練習の進め方が思うようにいかずに悩むこともありました。しかし、そのような時にも先輩方が様子を伺ってくれたり、的確なアドバイスをくださったりするため、経験の浅い若手の職員も安心して取り組むことができると思います。

また、先輩方と日々一緒に保育をさせていただく中で、保育や業務について多くのことを学ぶ機会があり、保育士としてのスキルを高めることができます。



小規模園の良さを活かし、経験豊かな先生のアドバイスをを受け、安心して保育にあたれますね。

コミュニケーションがキーワード

あらい保育園

【大切にしていること】
「おはよう」「おつかれさま」のあいさつが
コミュニケーションの第一歩

始業前のラジオ体操

- ・朝礼前に職員が集まりラジオ体操を実施している。
- ・自分自身の怪我予防、1日を元気に過ごすためや、ラジオ体操をしながら職員同士の会話でコミュニケーションをとる。

休憩時間を取る

- ・保育室から離れ、気分転換をする。
- ・他の職員とたわいのない話をし、笑いあい、コミュニケーションを深める。

風通しのよい職場づくりをみんなで心がける

- ・一人で悩みを抱え込まず、声に出す。声に出せない職員を察知し声をかける。
- ・ベテラン職員は、前例にとらわれず、新しい情報を自分の中で更新させていく。
- ・保育士の気持ちにゆとりができ、子どもに落ち着いて接することができる。

隣のクラスの様子を知る

- ・クラス間に窓があるため、隣のクラスの活動や様子がわかりやすく、声をかけて連携や協力体制がすぐとれる。コミュニケーションも取りやすい。
- ・クラス内での問題や悩みを気軽に相談しやすい雰囲気づくりのきっかけにもなる。
- ・職員間の連携をとることで、園全体で子どもを見守る安心感がある。

自分自身ストレスを溜めず、休日はリフレッシュして過ごす

【職員の声】

- ・疲れていても休憩時間で大笑いしながらおしゃべりしてリフレッシュできている。
- ・新入職員はコミュニケーションをとることで、緊張がほぐれ、安心して働くことができる。
- ・上司への相談もしやすい環境である。
- ・ベテラン特有の凝り固まった頭や考え方を、あらゆる年代の人とかかわることで、柔軟な考えを取り戻し、新たな良い保育のヒントを得ることができている。



職員が心身共に、元気で健康に保育をすることは、子どもの健全な育ちにも繋がっていく大切なポイントですね。

先輩保育士の存在は大きい

ひよこハウス多摩平

学校を卒業し、すぐに保育士の仕事に就きました。クラス担当になったものの、動きが分からずおどおどしていた日が続きました。

そんなある日、ひきつった笑顔の私を見かねたのか、同じクラスの3年先輩の保育士が声を掛けてくれました。保育とは全然関係のない話で、前日観たテレビの話、どこのお店の何がおいしいとかそんな内容だったと思います。毎日のようにその先輩が話しかけてくれました。そのおかげで職場にも馴染め、仕事が楽しくなりました。

人との接し方や新入職員の育て方が難しくなってきた今日この頃。緊張し、何をして良いか困っている新人には、「体調はどう？疲れてない？」「毎日楽しんでる？」等、ちょっとした合間にこちらから声を掛けてあげる、好きな物事を探りながら共通の話題を見つけて話し掛ける等、「新入職員からは何も言ってこないな～」ではなく、まず『こちらから』の意識を持ち、笑顔で接し、園に馴染めるような雰囲気を作ってあげたいと思います。仕事のやり方も大切だけど、他愛のないコミュニケーションを取ることも大切なんだと言う事を自分の経験から感じています。まず、職場の人たちと慣れること、そこから「この仕事楽しい!!」と思ってもらえると嬉しいです。

自分が新入職員だった時の気持ち、いつまでも気持ちは1年目のように新鮮でありたいですね。



不安に思っている新入職員の気持ちを汲んで接してくれる先輩がいることは、心強いですね。

経験が浅かった時の失敗談として、今だから言えること

至誠いしだ保育園

保育士の仕事を長く続けていますが、失敗は今思えばいくつもありました。20代のころは体力もあり、毎日子どもたちとかけまわって遊びました。よく散歩にも行っていましたが、十分気を付けていたつもりでも子どもの怪我につながってしまったことがいくつかあります。初めて行った公園の滑り台がその子の発達に見合わない大きさだったため、その滑り台で勢いよく滑ってしまい、擦りむいてしまいました。いまなら絶対そんな無茶をさせないと思いますが、経験の浅かった自分の失敗です。その後は子どもの発達をよく知ることによって怪我も少なくなっていました。

保育士は、勤務時間がバラバラで早番や遅番など様々ありますが、自分の勤務を見間違えて遅刻したこともあります。体制もしっかり作ってありますので、一人が遅刻するとみんなでフォローしなくてはいけないので、大慌てで出勤したこともあります。

2年目の発表会では、準備に時間もかけ、連日残業や持ち帰り仕事が続き、発表会後に中耳炎になって高熱を出して休んでしまいました。発表会は何とか出席できましたがその後の勤務を休んでしまい大失敗となりました。体調管理もしっかりしないといけないことや、業務の進め方なども振り返り反省したできごとです。

このように長く保育士をしていると失敗は何度となくありました。正直この冊子には載せられない内容もいくつかあります。何度か「もう保育士辞めようかな」と思うこともありましたが、その度に、子どもたちからたくさん笑顔のもらい、同僚に助けてもらい、保護者の方からも励まされ、もう30年にもなりました。これからも今までの経験を活かして、この保育の仕事に誇りを持ち、長く続けていきたいと思っています。



失敗を経験として、次のステップに行かれるよう、周りの職員や保護者の協力も得ながら、スキルアップにつなげることが大切ですね。

良好な人間関係を目指して

上田せせらぎ保育園

〇〇さんの素敵ところ探し

本園にはすべての職員の素敵ところだけを集めた冊子があります。

役割に関係なく、思いのままにお互いの素敵ところを褒め合うことによって人間関係が良好になります。

相手のダメなところを指摘するのではなく良いところを認め合うことが大切だということは大人も子どもも一緒です。

普段伝えられないことを伝えられる機会を持つことで、チームワークや同僚性が高まります。

そして、なにより褒められることによって、自分自身のモチベーションの向上や自信に繋がっていきます。

相手の素敵ところを考える時間はとても楽しいものです。先生たちの思いを収集し一冊にまとめました。

次回は、2年後。それぞれの成長が楽しみです。

《一部抜粋》

- ・何を聞いても目を見て教えてくれる。どんなことも掘り下げてしっかり一緒に考えてくれる。
- ・毎日笑顔が素敵、ムードメーカー。
- ・明るい振る舞いがクラスを明るくしてくれる。
- ・全体を見て必要なところにいつもいてくれる。
- ・子どもたちの気持ちにいつも寄り添った言葉かけをしている。
- ・気持ちを汲んでいる。
- ・ノリが良くて面白い。話しかけやすい。
- ・子どもたちを楽しませるアイデアをたくさん持っていてすごい。
- ・気さくに声を掛けてくれるので安心感がある。
- ・穏やかな雰囲気が好き。怒ったところを見たことがない。
- ・楽しいと思う事を全力で楽しんでいるところ。



【職員の声】

全員分をいつでも閲覧できるようになっているので、他者からの見え方や、感じ方の違い、自分は知らない先生の意外な一面も知ることができました。先生方のことをここまで時間をかけて考えたり、素敵ところを探し出したりすることは普段ありませんでした。冊子作成に当たり、相手をより知ることができたり、あまり関わりのない先生の事も知ることができ親近感が湧いてきました。そして、何より貴重な時間を使ってみんなが私のことを考えてくれたことがとても嬉しいです。話のきっかけ（ネタ）として自然と会話やコミュニケーションが増え、子どもたちの話しもよくするようになり、保育の質が向上していると思います。私自身、たくさん褒められ、とても恥ずかしい気持ちがありますが、それ以上に嬉しく感じました。自分が意識していないところを褒められ、発見や自分自身の強みを知ることができ、励みになりました。素敵な仲間とずっと保育していきたいです。



ほめられると大人だって嬉しいですね。
働く意欲が湧き、一人ひとりの自信に繋がって行きますね。

悩みを話せる相手がいる職場

あおぞら多摩平保育園

同年代の保育士に相談

- ・悩み相談をするにあたって、年齢の近い職員同士の方が話しやすいのであれば、同年代の職員に話を聞いてもらう。

一緒に取り組む

- ・職員が困っている時は、アドバイスだけではなく、なるべく一緒に行い、物事を進める。

誰かに話す

- ・仕事の悩みや愚痴を誰にも言わずにいたら、『話を吐き出した方が気持ちが楽になるよ。』と言われた。ずっと秘めていたことを、誰かに話すことで気持ちはすっきりする。

非常勤保育士や新人保育士に寄り添う

- ・非常勤職員や新入職員、入職したばかりの職員は、自分が思ったことを伝えられない場合が多い。常に寄り添い、何かあった時などは、すぐにその日に話す時間を作るようにする。

相手の言葉を受け止める

- ・自分の意見ばかりを押し付けるのではなく、相手の言葉を聞き、受け止める方が素敵だと思う。

【職員の声】

- ・何でも話せる職場環境は、とても働きやすい。
- ・今まで言いにくかったことも、誰かが聞いてくれるから、話して気分がスッキリする。
- ・保育の悩みだけでなく、プライベートなことも聞いてくれるから、悩みが軽くなった。



何でも話せる仲間がいることは、働く意欲にも繋がりますね。

子育てしながら

栄光平山台保育園

出産後、職場も新しく変わり、子育てしながら手探りの生活が始まり不安でいっぱいの中、新しい職場には、様々な年齢の職員がおり、常に声を掛け合い働きやすい環境でした。

子どもの体調が悪く休んだり、保育園から発熱の連絡が入ると途中で帰らなくてはならず、申し訳ない気持ちでいっぱいになり「すみません!」が口癖に・・・。

そんな時、先輩保育士より「大丈夫!気にしなくてもいいんだよ、皆通ってきたことだもの、助け合うのは当たり前!今は皆に甘えていい時だよ!」と言ってもらえたこと。そして職場皆の温かな笑顔、“一人で抱えていた”という思いがなくなり肩の力がスーッと抜け、気持ちが軽くなりました。

今では子どもも成長し呼び出しの電話も少なくなり、子育てと保育を頑張る日々です。

子育ての相談に乗ってくれたり、時に私の指針となり、子育てと仕事と両立しながら働いている先輩は本当にカッコイイです。

自分もいつか、子育て奮闘中の後輩の背中を押してあげられるようになりたいと思います。



話しやすい仲間作りと自分の経験が後輩への励みになります。職場作りの上でも、“お互い様”の心を大切にしたいですね。

力を合わせてすすめる保育

芝原保育園

新型コロナウイルス感染症が5類になるまでの3年間でのエピソードです。この時期は、「まずは感染拡大防止」でした。この時期に行なった幼児クラス対象の「運動会」「発表会」は、保護者の完全入れ替え制や職員同士の接触機会削減のため、最小限の職員で運営することで乗り切りましたが、当日運営にあたる担任たちは分刻みの割り振られた役割を確実に覚えなくてはなりませんでした。

この時、助けてくれたのが乳児クラスの職員たちでした。“今日はうちのクラスから応援に行けますので、練習に参加してきてください”“私が応援に行ったら練習に参加できますよね?”、頼もしい申し出が次々出てきました。

幼児クラスの担任たちは、自分のクラスを応援してくれる職員に任せ、他クラスの練習に参加して、当日の自分の動きを覚えました。こうして、当日は最小限の職員で行事の運営をやり遂げていきました。

経験のある保育士が、急に担当ではないクラスに入って保育することは良くあるのですが、経験の浅い乳児クラスの職員が担任に代わってクラスに入りリーダーを務めることは、あまり機会がありませんでした。しかし、コロナ禍の行事以来、どの職員も周りの様子をみて、動いてくれることが、日常、自然と行われるようになってきたのは頼もしい限りです。当日の職員配置を確認し、クラスの状況によって他クラスへの応援を申し出てくれるようになりました。

年齢、家庭環境など、保育園で働く職員を取り巻く状況は様々です。急な休みで職員の配置に悩むこともあります。他のクラスや仲間の様子に心を配り、協力して保育をすすめる雰囲気があります。感じられるようになってきたことはとても嬉しいことです。

これからも、みんなで力を合わせながら「子どもにとって最善の保育」に取り組んでいきたいと思います。



子どものため、職員のために
力や気持ちを合わせていくこ
とは、とても大切なことです。

隙間時間のコミュニケーション

栄光たまだいら保育園

新年度になり15名持ち上がり、新入園児が3名加わり18名、持ち上がりの担任1名、新しく3名の職員が加わり、2歳児クラスがスタートしました。わくわくする事がたくさんあったり、新しい環境に緊張したり慣れないことから涙が出てしまう姿も見られました。まずは子ども達が落ち着く環境を設定し、楽しく過ごせる遊びを行えるように日々過ごしていきました。保育士はリーダー、サブ、フリーと仕事を分けてデイリーを回していきました。

朝のおやつが終わり、園庭遊びの準備をしていた時の事です。リーダー保育士が支度の終わった子どもたちに読み聞かせをしていると、支度をせずに走り回る姿や、つられて遊び出してしまう子が数名いました。サブの保育士が危険のないよう「走らないでね」と子ども達に寄り添い伝えました。子ども達があちこちに点々と動き出してしまう状況で、困っていたリーダー保育士に変わり、サブの保育士が子ども達を手遊びで誘い集め、歌に誘われて集まり始めました。

その後園庭遊びを行いました。ふとリーダー保育士を見ると、ほっとした様な表情の反面、どこか表情が曇っているようにも見えましたが、その時はそのまま保育に入りました。一緒にのクラスになった新しい保育士は、乳児クラスが初めてで、今までの経験や、自分の保育を通して、子ども達とのコミュニケーションを取っていました。そのような中、持ち上がりの保育士を求める子が見られ保育士間で言葉には表せない隙間の様な空間を感じる事が徐々に増えていきました。毎日の連絡帳の記入もあり、なかなか話す時間もなかったのので、どこから話していいのか、つい後回しになっていた事を改め、クラスが円滑に回っていくように午睡時間に話をしました。「なにか困っていることあるかな？」と話をしてみると「えっと・・・」返事に困ってしまったので、その日は見送りました。どうやっていこうかと考えた末、連絡帳を書くほんの少しの隙間時間に子ども達のその日にあった話をしてみました。「今日〇〇くん、自分からトイレにいかれたね」「〇〇ちゃん、1回野菜食べられたよ」など子どもの話からのやり取りを試みてみました。初めのうちは返事をして終わる会話も、日々繰り返していくうちに、「私も見ました」「かわいかったですね」などやり取りが、1つ、2つと増え同じ会話や、共有ができるようになりました。共有できるようになると、保育士間の動きも、あ、うんの呼吸も取れ、スムーズになり、子ども達の中でも、「誰がいい」などこだわる姿もなくなり、クラスが一つになっていく事を実感できるようになりました。

時間がないではなく作る事、その貴重な5分から始まった共有が、クラスの流れを作り、楽しい保育ができる環境へと繋がりました。今後も現場で大切にしていきたいと思います。



円滑なクラス運営には、経験豊富な先輩保育士の存在は大きいですね。

コミュニケーションのための挨拶と雑談

子どもの森あさかわ保育園

毎日忙しさの中でコミュニケーションを取っていくために心掛けていることが2つあります。

1 つは、体調が悪くても、昨日嫌なことがあっても、どんなに疲れていても朝は元気に挨拶をしようと決めています。もう随分前のことになりますが、元気にはつらつと挨拶をされた時に、疲れている自分を励ましてくれているように感じました。『みんなが気持ちよく働いていくのにとっても大事なものだ』と思いました。それ以来しっかり挨拶をし、相手の反応や表情で私なりの解釈をさせてもらい、元気がなさそうな人には一日のどこかで声をかけるようにしています。

2 つ目は、人の話に耳を傾け、興味がありそうな話題を積極的に見つけていくと意識しています。

耳を傾けていると「犬が好き」「犬を飼っている」という人が意外と多いということがわかりました。飼っている犬の話に一喜一憂し、盛り上がっている様子を時々見かけます。趣味や好みが一緒だとこんなにも盛り上がるのかと圧倒される時もあります。先日気付いたのですが先輩保育士も後輩保育士も「アイドル好き」が判明し、とても盛り上がる瞬間があり笑いであふれる時間を楽しんでいます。ちょっとした雑談からお互いのことが分かり、人間関係の距離が縮むとやさしい気持ちで接することができ、クラス、担当行事、会議など仕事をしていく上でもプラスに働いています。

コミュニケーションの第一歩は人と話すことです。

雑談が雑音にならないよう十分に注意しながら、だれでもできる雑談の中から、その人のよさを見つけ、よい人間関係を築いていきたいと思っています。



雑談をきっかけに、職員間の距離が近くなり、よりよい人間関係が築けると良いですね。

一緒に考えよう職員への声かけ

おおくぼ保育園

以前読んだ小説の一節に「責難は成事にあらず」という言葉がありました。そこには「否定したり非難したりすることは、何の解決にもならない。相手の考えを自分の価値観だけで否定して自分の思い通りに進めてもそれが、すべて正しく何かを成し遂げるものではない」という意味合いが込められており、「職員への言葉かけ」にもつながると感じました。

「その保育方法は違うわよ。間違っている。」と言う事はたやすいし、「こうすればよい。」と方法論だけを一方的に伝えれば、一瞬の見た目はそれで納まるかもしれませんが、それは表面的な解決でしかなく、根本的な解決（理解）ができていなければ違うシチュエーションで失敗を繰り返す、これでは何の解決にもなっていないと思うのです。

言われた側は、ただ「あー、また否定された。あの人の言うようにやっておけば文句ないでしょう。」相手はそんな思いだけが残ってしまいますよね。何か違うのであれば違うと示しながら、ではなぜ違うと思うのか、何が望ましいのか一緒に考えながら前に進んでいけると良いなと思っています。そのためには、ただ責めたり、非難したりするばかりではなく、まずは受け止め、「この人には話ができる…」そんなふうに思ってもらえたらいいなと思いながら、日々職員対応をしています。

例えば、表情が冴えない職員へはさりげなく声掛けをし、悩みがあれば話してもらえるようにしたり、失敗をしてしまった職員へは、共に原因や解決策を考えたりしています。職員が一人で抱え込まないような職場作りを心掛けています。

これってもしかしたら、保育士から子どもへの声かけにも当てはまるかもしれないですね。



ミスをしない人はいません。聞いてもらうことで心が開かれます。一緒に悩み、改善していくことでより良い保育に繋がります。

子ども・おとなも・元気で明るく楽しい毎日を!

栄光多摩平中央保育園

保育士になり子どもたちと過ごす中で、どんな事をしただけで喜んでくれるだろう?が頭の中でずっと巡っていました。子どもたちは何でそんなことが面白いの?とおとなが感じる事でも楽しそうに遊び続けます。好奇心旺盛でいつもワクワク、日々元気いっぱい姿から「〇〇してあげよう」ではなく、子どもたちと一緒に大人もワクワクする事が大切だと気づかされました。園長の立場になってからも、持ち前の明るさを活かして、明るく元気に楽しい事を発信しつづけています。

園の行事や日々の活動の中で、園長のお友だちだよと題して自作キャラクターを作り、手作り衣装に身を包んで遊びにいきます。子どもたちは「またきた～えんちよう、ちがう今日は〇〇だ」と大歓声!職員は大爆笑、保護者の方々からも「いつも楽しみにしています」との声をいただくようになりました。春は「はるかなぜふくこちゃん」セタには「ながれぼしほしおくん」、秋は公園で「どんぐりおくん」、運動会では「テンションアガリーノバスケットコーチ」、冬はサンタさんと一緒に「ラブリーナカイ子」など様々な場面で登場します。

子どもたちのワクワク体験を、いつまでも一緒に楽しめる保育士でありたいと思っています。その思いが少しずつ職員にも伝わり、「子どもを真ん中に考える」あり方が保育にも、会議でも現れて変化が見られるようになってきました。



子どもも、おとな(職員)も「きょうも、たのしかった～」と保育を楽しむ・遊びを楽しむことを身をもって伝えてきました。まずは自分自身が楽しく行動を起こし、皆を巻き込んでいくことで、職場は明るく、みんな笑顔になります。

もちろん言葉で伝える事も大事なことです。職員各々が思えば保育に、今は思いっきり取り組めない現状もあります。保育園や保育士に関する社会の目は厳しくなっています。現状はしっかり受け止め、保育のお仕事をもっともっと好きになって欲しいと思います。

伸び伸びと保育ができる環境作りは、職員、スタッフの皆で作り上げていくものです。皆の思いに寄り添い、声を聴き、対話を重ねていながら「楽しい保育とは!」についてこれからも語り合っていきたいと思っています。そして私は、へんし～んをできる限り続け、元気で明るく楽しく、笑いを届けていきます。



園長先生をはじめ、職場のみんな
で保育を楽しむ風土が築かれて
いる点が良いですね。

保育の質向上のために

ひよこハウス豊田

園生活の中で得られる経験が豊かであるために、職員は人的環境を用意することが重要と考えます。物的環境と同様に人的環境を大切に考えています。子どもの状況や発達に合わせ、課題をとらえ、話し合いをし、環境を整えます。

その環境の中で対応する保育者は子ども達のお手本であり、子どもが穏やかに安心して過ごせる環境作りをしています。

気持ちよく・美しく・穏やかに過ごせるために、園内を整理整頓し、美しさを感じる環境を整えることで、子どもに良い影響をもたらします。

また、保育者が穏やかな気持ちで過ごすことにより、子どもはのびのびと育つように思います。

「心がけていること」

- ・子どもは1人ひとり違う存在であり、大人より時間がかかるので待つこと、話を聞く姿勢をもつこと
- ・遊びをやり遂げる自由を保障すること
- ・自分の選んだ遊びを最後までやり遂げる自由を保障すること
- ・年長児が年少児に関わる際には、生活の仕方が伝わるお世話の仕方をすること
- ・育児を丁寧に行うこと
- ・その子の成長をよく知ること
- ・その子の信号を一つひとつ読みとること
- ・わかりやすい穏やかな言葉かけ、適切で必要な言葉かけをすること

以上を心がけながら、一日の大半を過ごす中で、子どもの活動全てがその子の成長に役立つよう環境を整え、大人（職員全員）のかかわり方で安心と満足を保障してあげられる、人的環境を整えていきたいと考えています。



大人が穏やかな関わりを心掛けることで、子どもも気持ちよく過ごすことが出来ます。

クラスの中から全体へ

栄光保育園

各クラスにはリーダーの保育士がおり、その下にサブリーダー、保育士はベテラン、中堅、子育て中、若手等、様々な保育士でひとクラスが構成されています。その中でリーダーはまとめ役です。

クラス

※その日の子どもたちの様子や出来事、気になることなどをこどもたちが午睡をしている時に話しあい、共有しています。

若手が意見を言えないことがないようにリーダーやサブは配慮しています。
(例えば 嘔みつき・午睡ができない子・保護者のへの伝達法など)

乳・幼児会議

※クラスの中で解決出来なかった事や、もう少し意見が欲しいと思う時は、乳児会議・幼児会議におろして話し合います。自分たちだけの問題にせず、経験者からのアドバイスや意見などをもらって解決していきます。

職員会議

※ここでは、事前にクラスの状況を知らせておき、皆で話し合わなければならない事を中心に行っています。一つの問題に他方からまた、たくさんの知恵を出し合って話をしていきます。すでに、乳幼児会議で問題解決ができていれば短時間で済みます。会議では、必ず一人一言発言することが大切な事と感じています。

爽やか会議

※非常勤職員やパート職員（本園では、爽やかさんと呼んでいます）にも職員会議の内容を伝え、意見をもらったり、アドバイスをもらったり、また、自分の困った事や気が付いたことなども話してもらいます。



毎日の朝礼ではその日の活動予定、皆で共有したい事、アレルギー食の確認など朝礼に出られなかった職員全員がノートをみて確認しています。

“笑顔で優しく丁寧に”保育士のモットーを一人一人がいつも頭において保育を進め、笑顔の絶えない風通しの良い職場を心掛けています。



話し合える体制が日常化していることがいいですね。
忙しい中でも、全職員で風通しの良い職場環境作り
を心掛けたいですね。

**職員同士がよりよい人間関係を構築し、
職場がいつも明るく笑顔でいられる環境づくりをするために**

日野第二保育園

私たちの保育園では、職員みんなが「仲間を知り心を開き理解できる」人になれるようにしています。これは、普段、顔を合わせる時や、保育中の関わりなどで、「お疲れさま」とか「ありがとうございます」という日頃から自然と出てくる言葉がけなどで感謝の意を伝え、保護者に対しても積極的に笑顔で会話を交わすなど、関わりのある人たちすべてに声掛けをし、お互いの心を開くよう心がけています。

加えて職員同士のコミュニケーションの活性化を目標とした「リフレッシュ Day」という活動を年2回行っています。その事例として、職員全員でビンゴゲーム大会やミニ運動会、ゲーム大会を企画し、普段仕事以外ではなかなか話をするのでできない他学年の先生と一緒に、ビンゴ大会で当たった景品の話で盛り上がり、お互いの趣味や普段の生活のことを話したりして、これも心を開くことにつながっています。またミニ運動会やゲーム大会では、その競技でチームを作り、そこでお互いの得意な役割、苦手なところを確認して、みんなでカバーしあう気持ちを作ることができます。これらの活動を通して、中堅・ベテラン職員は、新人・若手職員が仕事や普段の生活で悩んだり問題を抱えるような場合、その問題をみんなで共有し積極的にかわりアドバイスすることで、職員全員に責任感が生まれ、自分の自信となり視野を広めることもできます。そして良好な人間関係を築くことで、保育園が明るく風通しのいい職場環境だと言えると思います。



苦手なところも認め、完璧を求めず理解し合えるチーム作りが大切です。職員全員が心を合わせ、何でも語り合える職場作りを心掛けましょう。

これだけは譲れないこだわり

ひのめばえ保育園

＊職員同士でも、子どもに対してもニックネームや名前を短縮して言わないようにしています。

ニックネームで呼ばれている人は他人から人気がある、親しみがある印象もあり、ニックネームで呼ばれない人にとってはなんだか淋しい気持ちなのでは？と考えています。

基本的に一人一人の人格を尊重するため、正しく名前と呼ぶことを大切にしています。

子どもに対しても、しょうた君をしょうちゃんとか、みゆきちゃんを、みーみと呼んでいるのを他の保護者の方が聞いたら、気にしない人もいれば、気になる人もいるので、当園ではニックネームも名前短縮も無して統一しています。出席をとる際、これがとても有効だと感じています。

家庭で短縮名やニックネームで呼ばれている子は、入園してお名前を呼ばれても反応が薄いですが、きちんと呼ぶことを習慣にすることで、乳児でも自分の名前を覚え、親しみをかんじていると思います。

＊保護者に対しても、職員間でも敬語を使って話しをするようにしています。親しくなるとつい敬語を忘れ話が盛り上がることはありがちですが、慣れ合いになりすぎて、伝えるべきことが伝えづらくなってしまうようにと思っています。保護者に対してもフレンドリーに話したいという保育士もいますが、話やすい保護者にはフレンドリーになれば、他の方がいい気持ちかしないと思うからです。どんな時でも丁寧な言葉で対応をしていきたいと思っています。

丁寧な言葉が保護者の雰囲気も良くしているように感じています。

＊常勤、非常勤互いに敬意をもって接するように伝えています。常勤が上の立場とは考えてほしくありません。非常勤職員がいるから、常勤が保育に専念でき、作業時間がしっかり確保できています。互いの立場をわきまえたうえで、感謝の気持ちと敬意をもって欲しいと思います。



子どもに対しても、保護者に対しても、職員に対しても、人格を尊重しながら接することが大切です。

皆の笑顔に囲まれて

しせい太陽の子保育園

保育内容や子どもへの対応について職員との確認を行う

○保育園という職場に長く働き、時代の流れでしょうか、保育の考え方も変わってきて、また職員についても園の方針や保育目標等を再確認するため会議や園内研修等を行っています。当園ではモンテッソーリ教育を取り入れています。学んだ職員によって他の職員に理論や教具の取り扱い方を伝えています。

それぞれの職員が色々な経験を重ねてきていることを感じつつ子どもにとって良い保育をと皆で考えて活動をしています。

○子ども一人一人に優しく言葉かけをし、寄り添って対応していくことで集団の中でも安心して過ごせるよう信頼関係を作っていくことが大切です。

保育士としての思いやりや、細かなことに気づき、先輩の保育士の姿を見て学んでいけると良いですね。身の回りのことを観察して何が必要なのかを考えていくと日々楽しく過ごしていけるのではないのでしょうか。

子ども達の成長の姿がみられることはとても嬉しいことです。

保護者とのつながりの大切さ

○園での様子などは連絡帳やホームページのダイアリー等を使っています。また、毎月園だよりでクラスの出来事や月の目標を載せています。

登降園時に口頭で家での様子を聞いたり、保育園の様子を伝えたりしています。このようにして、保護者とのコミュニケーションを大切に、保育活動へのご協力を得ながら保育を進めています。



保育士として、また、人間として身の回りの細かなことに気付ける感性は、より良い保育を発展させる要となりますね。

保育士が長く仕事を続けられる環境整備

栄光ひまわり保育園

保育士の中には子育てをしながら仕事を続けている職員も多く、家庭と仕事の両立や急な休みなど保育現場の環境も厳しくなることが多くあります。当園は小規模保育園のため園舎に各クラスの仕切りがなくクラス担任以外の職員も全クラスの子どもの様子や家庭状況などを共有し関わることで、職員の急な休みにも対応できる環境整備を行っています。それ以外に保育現場の課題もあります。

〔課題〕

- ・書類作成、行事、おもちゃの消毒、会議等多忙な業務
- ・業務量の割り振りなど他の職員への頼りづらさ
- ・アレルギー児や配慮の必要な子ども、保護者への対応
- ・子どもたちから常に目が離せず、休息をとるのが困難な環境
- ・地域の住民への配慮

〔改善策〕

この問題を解決していく現場での改善策として

- ・行事や製作物、各書類の軽減など業務を見直す
- ・クラス担任だけでなく、園全体でクラス状況・行事の職員会議や週案会議を行い情報共有をし複数人で対応する
- ・フリーの職員を配置し休暇の取りやすい環境を整える
- ・休憩室での休憩時間を確保する

など園長が現場に入ることで職員の話を聞き状況を把握し、共有しています。

保育士一人ひとりが楽しく、希望をもって長く仕事を続けられる環境を整えていかれるよう、今後も働き方改革をおこなってまいります。



保育士一人ひとりが楽しく働くことが出来る“働き方改革”をおこなって行きましょう。

豊かな保育環境に恵まれて

しんさかした保育園

『豊かな保育環境に恵まれた日野市で、子どもたちと新しい

発見をしてみませんか？』

さまざまな活動が行われる保育園の毎日で、子どもたちと出かける散歩は私にとって好きな時間の1つです。子どもたちと手をつないで園外の自然を見たり、たくさん話をしながら歩いたり、園内で過ごす時間とは違った発見、子どもたちとのかわりができるからです。自然や駅、高速道路と子どもたちの好きな場所がたくさんある日野市では、散歩の楽しみ方も色々です。園周辺を歩きながら畑の作物や工事中の働く車を見つけて立ち止まり、みんなで「〇〇だ!」と観察した乳児クラス。遠くまで歩けるようになり、保育園近くの山を登ったり、高速道路の上から走る車を見に行ったりした幼児クラス。さらに大きくなると、クラスの友達の家を理解している子も増えてきます。川沿いを歩くとコイやカモが泳いでいたり、線路沿いを歩くとたまに走る「特急あずさ」に大興奮したり…。日々の保育と同じように、毎回さまざまな発見や経験をさせてくれる日野市の環境が、子どもたちも私も大好きです。

皆さんの日野市おすすめスポットはありますか？同じものを見ても、人によって感じ方はさまざまです。日野市の良いところと一緒に子どもたちに伝えられる仲間が増えるといいなと思います。



《高架橋から見下ろす高速道路》



《緑地の中の遊歩道》



日野市の恵まれた自然の中で、子ども達と保育士が共に発見したり、共感したりしながら生活していくことは、子ども達の経験を豊かにします。

豊かな自然環境の中で

日野わかば保育園

日野市は自然環境に恵まれたすてきな街です。東西は京王線・JR、南北は多摩都市モノレールが走っています。バスの本数も多いです。中央高速・圏央道のICも近く、遠出にも便利です。多摩丘陵には多摩動物公園・高幡不動尊・百草園・平山城址公園があります。川遊び



も楽しめる清流「浅川」「多摩川」、用水には川魚が泳いでいます。自然が豊かで、遠くには富士山もみえる美しい景色が広がる街です。

田畑では名産の多摩川梨・ブルーベリー・トマト・ぶどう等地元の果物やダイコン・ジャガイモ・サツマイモ等の野菜の栽培も行われています。保育園でも、園児が畑で収穫した新鮮な野菜を使った調理活動も行われています。「日野産のトマトを園で食べたのをきっかけにトマトが食べられるようになりました。」「保育園で沢山自然に触れたお陰で、今自然科学部で学んでいます。」「多摩丘陵で沢山遊んだので足腰が鍛えられ、今も陸上頑張っています。」等保護者の方や卒園児から、嬉しい報告を頂いています。保育園での体験が子どもたちのその後の意欲や喜びにつながっています。



交通機関の利便性が良く、多摩川や浅川があり自然に恵まれた日野市は、子どもも大人も伸び伸びと楽しく成長していくことができますね。

日野市で働きましょう

たまだいら1・2SmileHouse

『日野市は子どもや保育者に優しくあたたかい街』

私たちの働く園の周りには、以下のように様々な公園が徒歩圏内にあり、目的やねらいによって散歩先を選んで日々保育を行っています。

《固定遊具の豊富な第一公園》



《四季折々の自然物に触れられる第六公園》



その他にも、敷地が広く、走ったり集団遊びをしたりできる公園や坂道があり、登ったり降りたりして四肢の発達を促せる公園もあります。

私たちの園自体には園庭がありませんが、日野市は自然豊かな環境のため、子どもたちにより多くの経験をさせてあげることができ、保育者としてのやりがいを日々感じています。

また、子どもたちとの散歩中には、通りかかる高齢の方や地域の親子・公共施設の職員など地域の方々が子どもたちに優しく声をかけてくれたり手を振ってくれたりと気にかけてくれる場面が多くあり、安心して散歩に出掛けることができます。

日野市はこのように地域の方々の子どもたちを大切にしようという雰囲気を日頃から感じることでできるあたたかい街です。



豊かな保育環境に恵まれ、子ども達に優しく
温かい日野市で、一緒に楽しく働きませんか。

楽しみながら保育をするために

みさわ保育園

自分が幼稚園に通っていた頃から「将来の夢は保育士」と言っていたほど、幼いころから小さい子の面倒を見ることが好きでした。

言葉の通りに保育士になることができましたが、やはり現場は「子どもが好き」だけではやっていける職業ではないことを痛感しています。子どもが安全に過ごすことができるように見守るための視点、子どもの個性を活かすためのかわり方、クラスをまとめていく力、保護者とのかわり方等、日々保育士として求められている役割を必死にこなしつつ保育にあたっています。

そんな時に迎えた発表会。ナレーターをする私に、先輩保育士から「保育士が楽しめれば、子どもたちも一緒に楽しむことができるからね。」と声を掛けられ、緊張で固まっていた肩の力がふっと抜けました。私が自然体になることで、子どもたちの笑顔も増え、全員が楽しめる発表会となりました。子どもと共に活動を楽しむこと、この基本を教えてくださいました。

保育士として、日々悩むことも多々ありますが、子どもたちが楽しく活動に参加している姿に元気をもらい、また次の楽しい活動を考える力になっています。先輩からいただいたアドバイスを胸に刻み、より良い、より楽しい保育の実践を目指していきます。



忙しさに追われる中でも、時には童心に帰り、初心を思い出して、子どもと共に楽しみましょう。

一緒に学べる幸せ

栄光保育園南平分園

最初に勤めた園からの異動が決まった時、園長先生から「人生、何事も勉強よ!」との言葉をいただきました。それから、もうずいぶん経ちました。その間、人間関係で辛いこともありました。大失敗をして落ち込んだことも、思うようにいかず泣いたこともありました。そんな時この言葉に何度も力をもらい、「勉強になったんだ」と前を向くことが出来ました。今でも私の中で大切な言葉です。

そしてこの言葉は、子どもたちの姿にも重なる言葉なのだと改めて感じています。

子どもたちは、最初はできなくても、真似て覚える。失敗してもそれを糧にし、自分の周りの全てから学んでいきます。

私たち保育士も、子どもたちのリーダーとしてクラスの先頭に立つだけでなく、前向きに進んでいく子どもたちと並んで「一緒に」様々なことを学び、「共に」成長し合っているのではないのでしょうか。これは本当に幸せなことだと感じます。これからも、「何事も勉強!」と前向きに、子どもたちと一緒にたくさんのことを学び合い、一緒に成長していけたらと思っています。



「何事も勉強」は、前向きになれる言葉ですね。

自信をもって保育に取り組んでください

幼児教育・保育アドバイザー

2024 年度から、幼児教育・保育アドバイザーとして幼稚園・保育園の約半数 25 園の保育参観・運動会や発表会の参観・保護者会へ参加をして、幼保小連携教育の実態を知るとともに、各園・各小学校に、その重要性を伝えてきました。

今後の小学校側の課題は、指導要領総則にもあるように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することです。幼稚園教育要領等（3要領・指針）に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施することで、児童は主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となることでしょう。

保育園や幼稚園は、かつてのように、「45分間座れるようにさせてほしい」「自分の名前を読めるようにしてほしい」「時計が読めるようにしてほしい」等々の小学校からの前倒しの要望に応えるものではありません。最後の日まで、「日々、自発的な活動としての遊びに没頭する保育」を心掛けてください。

自信をもって保育に取り組んでください。



子ども達の未来のために、日々、自発的な活動としての遊びに没頭する保育を、もう一度見直してみましょう。

ふりかえりシート



改めて読むことで
日々のふりかえりに使えるね！



(WEB 版)



※WEB版のふりかえりシート
は上記QRコードよりダウ
ンロードできます。

～ ふりかえりシートについて ～

このふりかえりシートは、日野市における保育の質の維持、向上を目的に、保育を多面的にふりかえるためのチェックリストとして作成したものです。

本シートは「出来ている」「出来ていない」などの成果を評価する指標ではありません。保育の中で疑問に思ったり悩んだりした時に確認することで、気づきを得、自信を持って保育を行っていくためのシートとしてお役立てください。

保育に関する様々なチェックリストがある中で、日野市の保育の指標となる一つの参考資料として、日々の保育のふりかえりに本シートをご活用いただければ幸いです。

【活用方法（例）】

①個人でやってみる！

→全体を通してふりかえてみたり、悩んだりする項目を選んでふりかえてみる。また、自分の保育を言語化してみる。

②クラスでやってみる！

→自分のクラスの先生と一緒にふりかえり、自分の考えや疑問について話し合ってみる。他者の意見も聞くことで、自分とは違う見方に気づく。

③園（施設）全体でやってみる！

→園（施設）全体でふりかえり、意見交換を行ってみる。様々な意見を聞くことができ、かつ園（施設）全体の方針を改めて確認できる。

④定期的にふりかえる！

→前にふりかえた時と比べてどうだったかなど、繰り返し行うことで更なる気づきにつながる。

ふりかえりシート



日野市の全ての子どもたちが安心感と自信を持って過ごせることを願っています。ここでは、「子どもの権利」に関して日野市の全教育・保育施設が共に大切にしたいことを、子どもの想いを代弁する形で表現してみました。

【子どもの権利擁護編】

私たちは、安心感と自信を持って生活がしたい。

内容	評 価			
	第（ 1 / 期）	第（ 2 / 期）	第（ 3 / 期）	第（ 4 / 期）
私が何を求めているか、知ってほしいの。				
「子どもが何を求めているか」を知るために、一人ひとりの気持ちを丁寧に見るよう心がけていますか？	☐	☐	☐	☐
子どもにも権利があることを、大人のみんなが理解してほしいな。				
子どもの権利について職員全体で確認し、十分に配慮していますか？	☐	☐	☐	☐
気持ちが傷つくような言葉や行動は絶対しないだね。				
子どもや保護者の気持ちを傷つけるような職員の言動・保育放棄・虐待・セクハラ・無視・差別等を禁止する職員行動規範等を定めていますか？または、周知徹底していますか？	☐	☐	☐	☐

むやみに禁止や否定、無視はしないでほしい。私の心が傷つくだけなの。 むやみに制止や禁止、子どもの言葉や身振り等を無視する、呼び捨てや侮蔑するようなあだ名での声掛け、不必要な威圧的な大きな声、否定的な対応等をしていませんか？適切な関わりとなっているか、園全体で確認し合う機会をもっていますか？	☐	☐	☐	☐
一人ひとりに対して、わかりやすい言葉で応答的に接してほしいな。 職員は、一人ひとりの子どもの行動や欲求に、わかりやすい言葉で、穏やかに個々の子どもに語り掛け、応答的に関わっていますか？	☐	☐	☐	☐
私たち、一人ひとり、生活習慣や文化が違うことをわかってほしい。 一人ひとりの子どもの生活習慣や文化等の違いを知り、それを認め合う心を育てよう努めていますか？	☐	☐	☐	☐
子どもだって、裸で放っておかれるのは嫌だよ。 おむつ交換やトイレ、着替え、プール指導の際は、全裸で放置されることのないような配慮をし、他者の視線を遮る工夫をしていますか？	☐	☐	☐	☐
私の体にむやみに触ったりするのは止めて。 子どもが嫌がるような、過度の体への接触等はないよう配慮していますか？	☐	☐	☐	☐

本ふりかえりシートは、子どもの権利擁護編以外にも保育の中でふりかえりが必要と考える項目を記載しました。ここでは主に事例集に対応した項目を記載しているので、保育園全体の運営などに関しては他の保育のチェックリストなども活用してみてください。



参考

- ・人権擁護のためのセルフチェックリスト (全国保育士会)



各自で評価基準を作成して、定期的に評価しましょう！
記号やマークなど、自分でふりかえりやすい方法でやってみてください！

【評価基準（例）】

A：理解して十分に取り組んでいる、B：概ね取り組んでいる
C：理解が不足し十分に取り組めていない、D：取り組めていない
－：実施していない ◎、○、△、× ✓ など

内容	評 価				備考
	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	
1. 保育内容編					
(1) 産休明け					
・産休明け保育では、安全・安心な保育を心がけ、生活のリズムを確立させると共に、保護者との密な連携を図っていますか。					事例集 P. 17～P. 18 【おおくぼ保育園】 【わらべ日野市役所東保育園】
(2) 0歳児					
・安全で安定した環境を用意し、子どもの気持ちに共感することを心がけていますか。					事例集 P. 19 【あさひがおか保育園】
・家庭では経験できないような五感を刺激する遊びを保障していますか。					事例集 P. 20 【万願寺保育園】
(3) 1歳以上3歳児未満					
・五感を存分に使った遊びを保障していますか。					事例集 P. 21 【至誠第二保育園】
・感性や創造性を高めるよう、季節の自然物や生き物等に触れる機会を設けていますか。					事例集 P. 22 【栄光豊田駅前保育園】
・身近な物を取り入れ、多様な遊びの工夫をしていますか。					事例集 P. 23 【至誠ひの宿保育園】
(4) 3歳以上児					
・じっくり取り組んだり落ち着いて遊んだりできるよう、子どもの実態を踏まえたおもちゃを用意する等、物的環境の工夫をしていますか。					事例集 P. 24 【たかはた台保育園】

・仲間意識が育まれ、ルールを守ることの大切さや相手の気持ちに気付けよう、集団での遊びも適宜取り入れていますか。					事例集 P. 25 【しんさかした保育園】
・子どもと相談しながらゲームのルールを作る等、子どもの想いや発想を取り入れながら活動を展開していますか。					事例集 P. 26 【栄光多摩平の森保育園】
・達成感・充実感が味わえる活動、日々の遊びを披露する発表等、活動の過程を大切にしたり行事を設定していますか。					事例集 P. 27～P. 28 【芝原保育園】 【上田せせらぎ保育園】
・水や電気を大切に使うこと、ゴミの分別、畑づくり等、遊びや生活を通して身の回りの環境について学ぶ機会を設けていますか。					事例集 P. 29 【みなみだいら保育園】
(5) 配慮が必要な子ども					
・落ち着いて過ごせることで、その子の自信が高まるよう、遊具の提示等、物的環境を整えたり、その子の発達に即したコミュニケーションをとったりしていますか。					事例集 P. 30～P. 31 【もぐさ台保育園】 【子どもの森あさかわ保育園】
・子どもの理解を深め、支援策を職員間で共有し、一貫した対応を心がけていますか。					事例集 P. 32～P. 33 【豊田保育園】 【たかはた台保育園】
・食物アレルギー児に対しては、安全に十分配慮した上で、代替食を提供する他、本人だけでなく周りの子どもアレルギーに関する理解が深められるようにしていますか。					事例集 P. 34 【日野駅前かわせみ保育園】
(6) 医療的ケア児					
・保護者、全職員、保育課、医師らが連携を図り、保育を展開すると共に、専門的な知識を身に付けていますか。					事例集 P. 35～P. 37 【ひらやま保育園】 【日野保育園】 【わらべ日野市役所東保育園】
(7) 物的環境					
・子どもの動きに合った遊具を用意する、互いに危険のない環境を工夫する等、安全に配慮していますか。また、月・期ごと等、定期的に保育環境を見直していますか。					事例集 P. 38 【日野保育園】

・乳児クラスは、一人ひとりの欲求に応えられる清潔な環境を設定していますか。幼児クラスでは、自発的に見通しをもって行動できる環境を整えていますか。					事例集 P. 39～P. 40 【ひよこハウス豊田】 【マジオたんぽぽ保育園 日野ルーム】
・子どもの実態や興味関心にあった絵本や歌、遊具等を適宜取り入れていますか。					
・子どもの表現やイメージが広がるよう、作品や製作過程の画像、子どもの活動の足跡が見合える環境を整えていますか。					
(8) 人的環境					
・1歳児は、丁寧に関わるため小集団で保育する等、人的配置の工夫をしていますか。					事例集 P. 41 【豊田保育園】
・他者への思いやりの心を育んだり、自分たちの生活を自分たちでつくったりできるよう、異年齢の関わりの機会を多く設けていますか。					事例集 P. 42～P. 43 【栄光保育園】 【至誠いした保育園】
・常に遊びを見守るだけでなく、子どもと一緒に楽しく遊ぶ。また、遊びの状態を見極めて、参加したり抜けたりしていますか。					
・温かく穏やかな雰囲気子どもに接する。話す時は、わかりやすく、子どもが興味をもてるような話し方を心がけていますか。					
(9) 小学校への接続					
・子どもが安心感・期待感をもてるような小学校や学童保育との交流活動等を実施していますか。					事例集 P. 44～P. 45 【つくしんぼ保育園】 【日野第二保育園】
・必要に応じ、学校カウンセラーや幼児教育・保育アドバイザー等との連携を図っていますか。					事例集 P. 46 【幼児教育・保育アドバイザー】
(10) 施設間交流					
・多様な人々と繋がれるよう、また卒園後の生活も見据えて、施設間交流を行っていますか。					事例集 P. 47～P. 50 【栄光平山台保育園】 【しせい太陽の子保育園】 【あさひがおか保育園】 【ひのめばえ保育園】

(11) 帳簿の書き方の工夫					
・保育計画を作成し、見直しをもって活動を実施した後に、PDCAサイクルに基づいてふりかえっていますか。					事例集 P. 51 【むこうじま保育園】
・それぞれの遊びの実態を把握し、何が必要かを考えて明日の保育に活かしていますか。					
・5領域（健康・人間関係・環境・表現・言葉）に基づいて保育を組み立てていますか。また、10の姿も視点として活用しながら保育を具体的にふりかえっていますか。					

～ メモ ～

2. 子どもの権利擁護編					
(1) 施設内不適切保育・虐待防止					
・保育者としての責任感をもち、子どもの最善の利益を考慮し、一人一人の気持ちを尊重した子どもファーストの保育を実践していますか。					事例集 P. 52～P. 54 【ひらやま保育園】 【栄光豊田駅前保育園】 【おおぞら東豊田保育園 旭が丘分園】
(2) 苦情解決					
・保護者への丁寧な状況説明や保護者の意見に耳を傾けるようにしていますか。また、助言・調整を行う第三者の苦情受付担当を設ける等の仕組みを作り、よりよい対応を心がけていますか。					事例集 P. 55～P. 57 【みさわ保育園】 【おおぞら東豊田保育園】 【よつぎ日野保育園】

3. 子育て支援編					
(1) 地域交流					
・地域貢献の一つとして、中学生・高校生の職場体験等を受け入れたり、地域の行事に参加したりしていますか。					事例集 P. 58～P. 59 【至誠第二保育園】 【至誠あずま保育園】
・入園前の親子や地域の親子対象の体験保育、園庭開放を行い、その機会を活かし育児相談の場としていますか。					事例集 P. 60～P. 62 【ひよこハウス多摩平】 【たかはた北保育園】 【栄光多摩平中央保育園】
(2) 保護者支援					
・保護者の気持ちに寄り添い、保護者と共に子どもの成長を喜び、子どもの発達を支援していますか。					事例集 P. 63～P. 65 【みなみだいら保育園】 【もぐさ台保育園】 【おおぞら東豊田保育園 旭が丘分園】
・保護者会で悩みを共有する機会を設けたり、保護者行事を開催し保護者同士のつながりを築いたりしていますか。					事例集 P. 66～P. 67 【おおぞら東豊田保育園】 【万願寺保育園】
・登降園時での会話や連絡帳等、日々のコミュニケーションや行事を通じて、子どもの状況について綿密に連絡を取り合っていますか。					事例集 P. 68 【ののはな保育園】

～ メモ ～

4. 健康・安全編					
(1) 食育					
・安全・安心を第一に、素材を生かした給食を提供し、健全な食習慣を身に付けられるようにしていますか。					事例集 P. 69 【日野市立保育園栄養士会】
・食べる喜びが感じられるよう、楽しい食事の雰囲気をつくり、子どもの気持ちに寄り添った食事指導を行っていますか。					事例集 P. 70～P. 71 【至誠あずま保育園】 【ののはな保育園】
・子どもの視点に立った計画に基づき、栽培・収穫・調理・廃棄物の有効利用等の食育活動を実施していますか。					事例集 P. 72～P. 74 【つくしんぼ保育園】 【栄光多摩平の森保育園】 【至誠ひの宿保育園】
(2) 健康・安全					
・子どもの命を守るため救命救急の知識を身に付けたり、体調不良の子どもの早期発見し治療につなげたりしていますか。					事例集 P. 75～P. 76 【日野わかば保育園】 【たかはた北保育園】
・自分の園に合った事故防止策・防犯対策を全職員で検討し、安全な環境を整えていますか。					事例集 P. 77～P. 79 【おおぞら多摩平保育園】 【日野駅前かわせみ保育園】 【ただだいら 1.2 Smile House】
・職員の健康状態を園長が把握し、園全体で職員の健康管理を行っていますか。					事例集 P. 80 【栄光ただだいら保育園】

～ メモ ～

5. 職員の資質向上編					
(1) 研修					
・安全管理に関する研修をふまえ、座学の知識を実践に活かしていますか。					事例集 P. 81 【よつぎ日野保育園】
・研修の内容を園全体で共有したり、グループワークを行ったりして、自身の保育の課題や不足している知識・技術に気付く機会を設けていますか。					事例集 P. 82～P. 84 【マジオたんぼ保育園 日野ルーム】 【むこうじま保育園】 【あらい保育園】
(2) 職員間の連携・人間関係					
・職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協調性を高め、風通しがよくなじみやすい雰囲気職場環境をつくっていますか。					事例集 P. 85～P. 96 【あらい保育園】 【ひよこハウス多摩平】 【至誠いしだ保育園】 【上田せせらぎ保育園】 【おおぞら多摩平保育園】 【栄光平山台保育園】 【芝原保育園】 【栄光たまだいら保育園】 【子どもの森あさかわ保育園】 【おおくぼ保育園】 【栄光多摩平中央保育園】 【ひよこハウス豊田】
(3) 園の運営に関して					
・会議やイベント等のほか、日常から話し合い理解し合える体制を園全体で設けていますか。					事例集 P. 97～P. 98 【栄光保育園】 【日野第二保育園】

～ メモ ～

6. その他編（保育者としての専門的見識の理解）					
<保育者としての責任感>					
・保育者としての責任感をもち、子どもの人権・人格を尊重した保育を実践していますか。					事例集 P. 99 【ひのめばえ保育園】
<保育方法の理解>					
・保育の方法を理解し、一人一人に寄り添った保育の大切さを実感していますか。					事例集 P. 100 【しせい太陽の子保育園】
<保育者としての有能感>					
・長く仕事を続けられるような職場環境をつくり、職員一人ひとりが楽しみ有能感をもって仕事を続けていますか。					事例集 P. 101 【栄光ひまわり保育園】
<地域への親しみ>					
・豊かな自然や心温かな地域の人々等、身近な環境の価値を見直し、子どもと新しい発見を重ねていますか。					事例集 P. 102～P. 104 【しんさかした保育園】 【日野わかば保育園】 【ただいら 1.2 Smile House】
<他者との連携>					
・子どもや仲間と、共に保育を楽しみ、共に成長していますか。					事例集 P. 105～P. 106 【みさわ保育園】 【栄光保育園南平分園】
<幼保小連携の視点>					
・小学校の進学に向けて、特別なことを行うのではなく、今行っている保育に自信を持って取り組みましょう。					事例集 P. 107 【幼児教育・保育アドバイザー】

～ メモ ～

第6章 ガイドライン策定を終えて（保育の質の向上に向けて）

本ガイドラインは、日野市内の全認可保育施設から 91 の事例を収集した上、全認可保育施設の代表者 44 名によるワーキンググループを形成し、7回にわたる事例検討会議を重ねてきました。普段なかなか学ぶ機会をもてない他園の保育士らと事例を協議し合うという策定の過程は、保育士らにとって貴重な学びの機会となりました。参加した保育士からも「他園の活動を事例で知ることができました」「いろいろな先生方とお話ができて、考えや知識が広がり、勉強になりました」「初対面にもかかわらず、意見を出し合うことができ、楽しく付箋ワークができました。次回も楽しみです」「みんなで良い冊子を作り上げられたらと思います」等、ガイドライン策定の過程が保育士らで保育を語り合い自分の保育を考え直す研修の場となっていることが伝わってきます。

しかし、ガイドラインを策定するだけでは保育の質の向上は望めません。策定したガイドラインを定期的に見直し、継続的に活用していくことが何より大切です。保育に迷った時、ヒントがほしい時にガイドラインの事例に目を通してみてください。もちろん、ガイドラインの事例を自ら実践してもよいでしょう。更に、保育士一人ひとり、あるいはクラス単位や園全体でふりかえりシートを使って定期的に保育を振り返ることで、保育の改善が図られることと思います。

今回、日野市では、ガイドラインを冊子化するだけでなく、市のホームページに全文を掲載し、データでの活用もできるようにしました。今後は、定期的な保育評価のため、ふりかえりシートをデバイスで入力できるようにするなど、活用しやすい方法を検討していきたいと考えています。

また、今回の策定にあたっては、日野市内の全認可保育施設が参加できる体制づくりに重きを置いたため、事例は保育所保育に限定しました。そこで、次回の改訂版では、本ガイドラインをベースとして、今回事例集に掲載されていない日野市内の施設における事例収集も加えたいと考えています。これにより、日野市の就学前保育の現場全体の更なる質向上、保育者の専門性向上を期待する次第です。

令和7年3月

日野市保育の質ガイドライン策定委員会一同

検討経過

■日野市保育の質ガイドライン策定委員会

日野市保育の質ガイドライン策定に向けて、日野市の保育の質の維持及び向上に関する調査、検討やガイドライン素案の作成並びに運用方法に関することなどについて検討を進めてまいりました。

(委員)

	氏 名	所 属
委員長	井口 眞美	実践女子大学生生活科学部生活文化学科 教授
副委員長	野原 久代	日野保育園 園長
副委員長	佐藤 道枝	日野市立たかはた台保育園 園長
委員	根津 正孝	栄光平山台保育園 園長
委員	上原 直実	日野市立もぐさ台保育園 園長
委員	木暮 博	日野市子ども部保育課 課長

※(オブザーバー) 大澤 朋子 (実践女子大学生生活科学部生活文化学科 准教授)

(策定委員会)

	年 月 日	内 容		年 月 日	内 容
1	令和5年10月24日	第1回策定委員会	9	令和6年9月24日	第9回策定委員会
2	令和5年11月28日	第2回策定委員会	10	令和6年10月22日	第10回策定委員会
3	令和5年12月19日	第3回策定委員会	11	令和6年11月26日	第11回策定委員会
4	令和6年1月23日	第4回策定委員会	12	令和6年12月24日	第12回策定委員会
5	令和6年3月12日	第5回策定委員会	13	令和7年1月21日	第13回策定委員会
6	令和6年5月21日	第6回策定委員会	14	令和7年2月17日	第14回策定委員会
7	令和6年6月18日	第7回策定委員会	15	令和7年3月11日	第15回策定委員会
8	令和6年7月30日	第8回策定委員会			

(事務局)

氏 名	所 属
飯野 成路	日野市子ども部保育課 課長補佐
堀口 尚孝	日野市子ども部保育課整備調整係 係長
森 航太	日野市子ども部保育課整備調整係 主任
小野 早苗	日野市子ども部保育課整備調整係

■ワーキンググループ

策定委員会の委員と各認可保育所及び小規模保育事業所からそれぞれ1名の職員にご参加いただきました。事例集を作成するにあたり、各施設から提出された保育の好事例をより良くするため、全8グループに分かれて意見を交換しました。各事例の大切なポイント等を整理し、時には自分の施設ではこうしているなどと共有し合いながら、保育を言語化する中で様々な気づきや学びに繋げることができました。

(担当者) ※全 44 名

氏名	所属	氏名	所属
一ノ瀬 真由美	あおぞら多摩平保育園	沼田 耕一	たかはた北保育園
須鎌 未来	あおぞら東豊田保育園	今井 純子	たかはた台保育園
金指 なおみ	あおぞら東豊田保育園 旭が丘分園	山岸 未来	たまだいら 1・2Smile House
橋本 幸恵	あさひがおか保育園	高橋 里織	つくしんぼ保育園
山中 もも	あらい保育園	川島 絵里香	豊田保育園
佐藤 文子	栄光多摩平中央保育園	永田 明美	ののほな保育園
村上 広樹	栄光多摩平の森保育園	石川 裕侑子	日野駅前かわせみ保育園
野手 美紀	栄光たまだいら保育園	松本 祐子	日野第二保育園
久津見 祐美子	栄光豊田駅前保育園	大塚 まゆり	日野わかば保育園
佐藤 陽子	栄光ひまわり保育園	内田 裕子	日野保育園
根津 雄太	栄光平山台保育園	網野 恵里	ひのめばえ保育園
目黒 美香	栄光保育園	針谷 裕子	ひよこハウス多摩平
小山 奏亜	おおくぼ保育園	高橋 多佳子	ひよこハウス豊田
高橋 邦彦	上田せせらぎ保育園	吉野 まどか	ひらやま保育園
徳田 康子	子どもの森あさかわ保育園	井土 貴和子	マジオたんぼ保育園 日野ルーム
石走 真紀	至誠あずま保育園	森脇 幸栄	万願寺保育園
斉藤 さおり	至誠いしだ保育園	亀山 理恵	みさわ保育園
嶋田 友美	至誠第二保育園	高橋 幸恵	みなみだいら保育園
須田 春香	しせい太陽の子保育園	齊藤 祐太	むこうじま保育園
山口 杏樹	至誠ひの宿保育園	野島 紗世子	もぐさ台保育園
茅野 和美	芝原保育園	西川 のり子	よつぎ日野保育園
梅原 美都	しんさかした保育園	河上 一之	わらべ日野市役所東保育園

(ワーキンググループ)

	年 月 日	内 容
1	令和6年5月28日	第1回ワーキンググループ
2	令和6年6月18日	第2回ワーキンググループ
3	令和6年7月23日	第3回ワーキンググループ
4	令和6年9月17日	第4回ワーキンググループ
5	令和6年10月29日	第5回ワーキンググループ
6	令和6年11月19日	第6回ワーキンググループ
7	令和7年3月11日	第7回ワーキンググループ



※ワーキンググループにご参加いただき、また、本紙の作成にご協力いただきまして誠にありがとうございました。本紙で掲載している一部のイラストにつきましては、ワーキンググループの皆様よりご提供いただきましたイラストを使用させていただいております。

事例寄稿施設一覧

(※R7.3時点)

(認可保育所)

施設名	定員	施設名	定員
あおぞら多摩平保育園	120名	芝原保育園	100名
あおぞら東豊田保育園	31名	しんさかした保育園	80名
あおぞら東豊田保育園旭が丘分園	29名	たかはた北保育園	100名
あさひがおか保育園	100名	たかはた台保育園	110名
あらい保育園	80名	つくしんぼ保育園	100名
栄光多摩平中央保育園	130名	豊田保育園	118名
栄光多摩平の森保育園	120名	日野駅前かわせみ保育園	86名
栄光たまだいら保育園	122名	日野第二保育園	150名
栄光豊田駅前保育園	20名	日野わかば保育園	160名
栄光平山台保育園	63名	日野保育園	100名
栄光保育園	106名	ひよこハウス多摩平	90名
栄光保育園南平分園	22名	ひよこハウス豊田	90名
おおくぼ保育園	100名	ひらやま保育園	100名
上田せせらぎ保育園	120名	万願寺保育園	45名
子どもの森あさかわ保育園	120名	みさわ保育園	115名
至誠あずま保育園	45名	みなみだいら保育園	110名
至誠いしだ保育園	100名	むこうじま保育園	150名
至誠第二保育園	130名	もぐさ台保育園	100名
しせい太陽の子保育園	60名	よつぎ日野保育園	143名
至誠ひの宿保育園	130名	わらべ日野市役所東保育園	152名

※栄光保育園南平分園は令和5年度末に閉園。

(小規模保育事業)

施設名	定員	施設名	定員
栄光ひまわり保育園	19名	ひのめばえ保育園	19名
たまだいら1・2 Smile House	12名	マジオたんぽぽ保育園	19名
ののはな保育園	10名	日野ルーム	

(その他関係者)

施設名	定員	施設名	定員
幼児教育・保育アドバイザー		日野市立保育園栄養士会	

関係機関連絡先

内容	名称	連絡先
■日野市役所		
・ 保育園の利用及び給付、幼稚園に関すること ・ 市立保育園の管理運営に関すること ・ 保育施設の指導検査、民営化、不適切保育の通報相談 など	子ども部保育課 【みらいく】（日野市神明 1-13-2）	042-585-1111
・ 子ども家庭支援センターの運営、子育てひろば事業、ファミリー・サポート・センター事業に関すること ・ 子ども家庭総合相談、児童虐待に関すること ・ 母子の保健事業、保健衛生、母子健康手帳に関すること ・ 子どもの発達に係る相談、支援及び指導に関すること など	子ども家庭支援センター 【みらいく】（日野市神明 1-13-2）	042-585-1111
■保健所		
感染症報告や食品衛生、環境衛生など	東京都南多摩保健所（多摩市永山 2-1-5）	042-371-7661
■児童相談所		
家庭内虐待の通報 など	八王子児童相談所（八王子市台町 3-17-30）	042-624-1141
	児童相談所虐待対応ダイヤル	189
■警察署		
不審者や不当要求 など	日野警察署（日野市日野 589-1）	042-586-0110
■消防署		
消防に関すること、 自衛消防訓練通報 など	日野消防署（日野市神明 2-14-3）	042-581-0119
	豊田出張所（日野市東平山 3-1-23）	042-582-0119
	高幡出張所（日野市高幡 714 番地）	042-592-0119
病院に行った方がよいか、 救急車を呼ぶべきか迷ったら	救急安心センター事業	#7119



名前： _____

日野市保育手帖 ー日野市保育の質ガイドライン(第1版)ー
発行 令和7年(2025年)3月

〒191-8686 東京都日野市神明 1-12-1
日野市子ども部保育課
電話 042-514-8972 (直通)
E-mail hoiku@city.hino.lg.jp



本書は JSPS 科研費 20K02635 の助成を受けて行った研究成果を
まとめたものです